
小諸市
子育てに関するアンケート調査
報告書
(速報値)

令和6年10月

目次

1	調査の概要	4
(1)	調査目的	4
(2)	調査対象・回収状況	4
(3)	その他	4
2	調査結果の総括	5
(1)	子どもの育ちをめぐる環境	6
(2)	子どもの貧困	6
(3)	定期的な教育・保育事業等の利用状況と利用意向（未就学児保護者）	6
(4)	病気の際の対応及び子育て支援施設・事業	7
(5)	放課後児童クラブの利用意向	7
(6)	こども誰でも通園制度	8
(7)	母親や父親の子育てへの関わり方・就労状況	8
(8)	ヤングケアラー・「子どもの権利」	9
(9)	小諸市の子育て環境・支援の満足度	9
3	調査結果：0歳～小学校未就学の子どもの保護者	10
(1)	回答者	11
(2)	子どもとその家族の状況	13
(3)	平日の定期的な教育・保育事業の利用	22
(4)	子育て支援施設・事業の利用状況	27
(5)	土日祝日の定期的な教育・保育事業の利用	29
(6)	子どもが病気などになった時	32
(7)	一時預かりや幼稚園の預かり保育などの不定期な利用	35
(8)	小学校入学後の放課後や自由時間の過ごし方	38
(9)	母親の就労の状況	43
(10)	母親の育児休業	48
(11)	父親の就労状況	50
(12)	父親の育児休業	53
(13)	ヤングケアラー	55
(14)	こども誰でも通園制度	56
(15)	「子どもの権利」	57
(16)	子育て全般	58
(17)	属性等によるクロス集計結果	59
4	調査結果：小学生から高校生等の子どもの保護者	61
(1)	回答者	62
(2)	子どもとその家族の状況	64
(3)	子育て支援施設・事業の利用状況	72
(4)	子どもが病気などになった時	73
(5)	放課後や自由時間の過ごし方	75
(6)	母親の就労の状況	80
(7)	父親の就労状況	85
(8)	ヤングケアラー	88
(9)	「子どもの権利」	89
(10)	子育て全般	90
(11)	属性等によるクロス集計結果	91

5	調査結果：経済状態に基づく分析	93
(1)	相対的貧困家庭の推定	94
(2)	回答者属性と子育ての状況	95
(3)	経済状況	96
(4)	悩み・不安と相談先	97
(5)	両親の就労状況	99
(6)	ヤングケアラー	100
(7)	子育て全般	100

1 調査の概要

(1) 調査目的

「小諸市こども計画」の策定にあたり、子育て世帯等の生活実態や動向、ニーズ等を把握するために実施した。

(2) 調査対象・回収状況

調査は、0歳～小学校未就学の子どもの保護者を対象とするもの、小学生から高校生等の子どもの保護者を対象とするものの2種類として実施した。各調査の配布・回収の状況は以下のとおりである。

調査1：子育てに関する調査（0歳～小学校未就学の子どもの保護者）

調査対象者	0歳～小学校未就学の子どもの保護者
調査方法	郵送及び保育園にて調査票を配布し、紙調査票の返送またはWebフォームによる回答を受け付けた。
調査期間	2024年7月17日～2024年8月20日
配布数	1,230世帯
回収数	623世帯
回収率	50.7%

調査2：子育てに関する調査（小学生から高校生等の子どもの保護者）

調査対象者	小学生から高校生等の子どもの保護者
調査方法	郵送にて調査票を配布し、紙調査票の返送またはWebフォームによる回答を受け付けた。
調査期間	2024年7月17日～2024年8月9日
配布数	1,250世帯
回収数	442世帯
回収率	35.4%

(3) その他

- ◆ 回答結果の割合「%」は、有効回答数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入している。そのため、単数回答であっても合計が100.0%にならない場合がある。
- ◆ 図表中の「n」はNumber of caseの略で、「n＝」は該当質問の回答者数を表す。なお、無回答があるため設問ごとに回答者数が異なる場合がある。
- ◆ 図表のタイトルや選択肢は、簡略化している場合がある。

2 調査結果の総括

本章では、調査結果の総括を示す。

※「未就学児保護者」は調査１の回答者、「小中高生等保護者」は調査２の回答者を表す。

(1) 子どもの育ちをめぐる環境

① 同居人数、子どもを預けられる人

子どもと同居している人数は、「4人」との回答が最多である（未就学児保護者：40.9%、小中高生等保護者：35.5%）。日常で子どもを預けられる人としては、「祖父母などの親族」と答えた人が約7割（未就学児保護者：71.4%、小中高生等保護者：69.9%）となった。

② 気軽に相談できる人や場所

気軽に相談できる人がいると答えた人は、未就学児保護者では92.3%、小中高生等保護者では86.1%と高かった。一方で、気軽に相談できる場所があると答えた人は、未就学児保護者で65.6%、小中高生等保護者では42.7%であり、公的支援の充実へのニーズがうかがわれる。

③ 子育てをするうえでの悩みや不安

子育てをするうえで悩みや不安が「ある」または「ときどきある」と答えた人は、7割を超えている（未就学児保護者：79.5%、小中高生等保護者：72.0%）。その内容としては、未就学児保護者では「病気や発育・発達に関すること」や「食事や栄養に関すること」と答えた人の割合が高く、小中高生等保護者では「子どもの教育に関すること」と答えた人の割合が高かった。

(2) 子どもの貧困

① 相対的貧困家庭の概要

就学前児童、小学生～高校生等の保護者に対するアンケート結果を合わせ、当市における相対的貧困世帯の推定を行ったところ、貧困線は143.75万円、貧困線を下回る相対的貧困世帯は12.4%となった（定義は94ページを参照）。

相対的貧困家庭においては、ひとり親の家庭が多く、子育てを主に母親が行っている世帯が63.9%を占めている。また、母親がパート・アルバイトなどで働く家庭の割合が、それ以外の家庭と比べて相対的に高くなっている。

② 相対的貧困家庭の暮らしの状況

相対的貧困家庭では、生活が「苦しい」または「大変苦しい」と回答している割合は63.9%に上り、相対的に高くなっている。負担に感じる支出としては、食費や、衣類などの身の回りの物の費用、保育料や教材費などの学校等にかかる費用と答えた保護者の割合が、それ以外の家庭に比べて高い。

(3) 定期的な教育・保育事業等の利用状況と利用意向（未就学児保護者）

① 平日の定期的な教育・保育事業の利用

未就学児保護者のうち、保育園や幼稚園などの定期的な教育・保育事業を利用していると回答した人は76.1%である。その内訳は保育園（認可保育所）が半数以上の55.0%を占めており、週に6日、1日あたり9～10時間、8時台から17時台までという利用形態が主となっている。利用する理由は、「就労している」が最多である。

今後の利用予定では、利用予定日数は週に5日に減るが、利用時間数・時間帯は現状と変わらない。

現在利用していない人にその理由を聞いたところ、「子どもがまだ小さいため」と答えた人は49.3%で、そのうち48.5%が、子どもが3歳になったら利用したいと回答している。

② 土日祝日の定期的な教育・保育事業の利用

土曜日と日曜日・祝日に定期的な教育・保育事業の利用を希望する人は、それぞれ 40.2%、19.4%で、利用頻度としては月に1、2回を希望する人が多くなっている。利用を希望する理由は、どちらの場合も「仕事のため」が最多であるが、「リフレッシュのため」も、土曜日が 20.1%、日曜日が 28.4%で、一定のニーズがある。

③ 長期休暇期間中の預かり保育などの利用

現在、幼稚園や認定こども園を利用している人に、長期休暇期間中に預かり保育などの利用を予定しているか聞いたところ、56.3%が利用を予定していると回答した。

(4) 病気の際の対応及び子育て支援施設・事業

① 病児・病後児保育

未就学児保護者のうち、平日に定期的な教育・保育事業を利用している人の 87.4%が、過去1年間に、子どもが病気等で保育園や幼稚園などに通えないことがあったと回答している。また、小中高生等保護者のうち、78.2%が同様の理由で子どもが学校に通えないことがあったと答えている。

対処方法としては、母親が休んだ人が大半を占めており、未就学児保護者で 89.6%、小中高生等保護者で 82.3%である。

病児・病後児保育を利用して対処した未就学児保護者は 2.2%にとどまっている。しかし、両親のいずれかが休んで対処した人のうち、病児・病後児保育の利用を希望する人の割合は、未就学児保護者で 40.7%、小中高生等保護者で 22.1%であり、ニーズを受け入れられる柔軟な運用や価格の見直しなどの検討も求められる。

② 地域の子育て支援施設・事業

未就学児保護者における、こもろっじの認知度は 93.4%、利用状況は 11.4%、今後の利用希望は 17.3%である。また、児童館の認知度は 73.9%、利用状況は 6.3%、今後の利用希望は 25.2%である。いずれも認知度は高いものの、実際に利用している割合は限定的である。ただし、今後利用を希望する人は一定数いる状況となっている。

子育て支援事業については、未就学児保護者、小中高生等保護者ともに、「保健センターの情報・相談事業」が最もよく認知され、利用されている。一方、今後の利用希望をみると、未就学児保護者では「保育所や幼稚園の園庭等の解放」が2割程度でやや高く、小中高生等保護者ではいずれの事業も1割程度となっている。

(5) 放課後児童クラブの利用意向

① 平日

5歳以上で未就学の子どもの保護者のうち、小学校入学後に放課後を過ごさせたい場所として、放課後児童クラブと答えた人の割合は、低学年の間が 22.3%、高学年の間が 22.9%である。また、小学校低学年の子どもの保護者のうち、放課後を過ごさせたい場所として放課後児童クラブと答えた人の割合は、低学年の間が 15.9%、高学年の間が 15.0%である。

② 土曜日、日曜日・祝日、長期休暇期間中

5歳以上で未就学の子どもの保護者のうち、小学校入学後の平日以外の日に、放課後児童クラブを利用させたいと答えた人の割合は、土曜日が 22.5%、日曜・祝日が 11.5%、長期休暇期間中が 53.0%である。ま

た、小学校低学年の子どもの保護者のうち、平日以外の日に放課後児童クラブを利用させたいと答えた人の割合は、土曜日が15.4%、日曜・祝日が5.4%、長期休暇期間中が42.0%である。

(6) こども誰でも通園制度

① こども誰でも通園制度の認知度と利用意向

0～2歳で保育園等に通っていない子どもがいる保護者の、「こども誰でも通園制度」の認知度は、「名前も内容も知っている」と「名前は知っているが内容は知らない」を合わせて42.1%であるのに対し、「知らない」と答えた人は57.9%で、制度について十分に認知されてはいない状況がうかがえる。

一方、制度の内容の説明を読んだうえで、「とても利用したい」または「できれば利用してみたい」と答えた人は合わせて65.3%であり、ニーズがあると考えられる。利用を希望する理由としては、「育児疲れの軽減」や「自分の自由時間を作るため」と答えた人が、それぞれ4割以上である。

(7) 母親や父親の子育てへの関わり方・就労状況

① 子育ての状況

子育てを主に行っている人は、「父母ともに」が、未就学児保護者では56.4%、小中高生等保護者では54.5%である。一方で、「主に母親」が、4割以上（未就学児保護者：42.4%、小中高生等保護者：41.0%）を占めることから、父親の育児参加を進めていくことが望ましい。

② 母親や父親の働き方

母親がフルタイムで就労している割合は、未就学児保護者では49.5%、小中高生等保護者では53.1%である（休職中を含む）。令和2年度調査では、フルタイムで就労している母親は、未就学児保護者で40.0%、小学生保護者で43.2%であったため、フルタイムで就労する母親の割合が増えていると言える。

母親がパート・アルバイトなどで就労している割合は、未就学児保護者では32.4%で、小中高生等保護者では37.9%である（休職中を含む）。パート・アルバイトなどで就労している母親のうち、フルタイムへの転換希望がある人も一定割合みられるが、多くはそのままの勤務形態の継続を希望している（未就学児保護者：55.3%、小中高生等保護者：69.3%）。

父親は、未就学児保護者においても小中高生等保護者においても、フルタイムで就労している人が大多数である。

③ 育児休業の取得状況

未就学児保護者の育児休業の状況では、取得した、または取得中の母親の割合が57.3%であるのに対し、父親は18.0%である。

母親の取得期間は「1年以上2年未満」が最多の45.5%で、子どもが「1歳以上1歳6ヶ月未満」で復帰した人が59.0%となっている。復帰した人のうち、復帰時期が希望よりも遅かった人の80.0%が、希望する保育園に入れなかったことを理由に挙げている。

父親の取得期間は「1ヶ月未満」が最多の50.0%である。取得していない人にその理由を聞くと、「母親が主に育児をするため育児休業制度を利用する必要がなかった」と答えた人が53.0%で最多だが、仕事や収入への影響を挙げた人も、それぞれ3割以上に上った。

(8) ヤングケアラー・「子どもの権利」

① ヤングケアラー

「ヤングケアラー」について「言葉も内容も知っている」と答えた人は、未就学児保護者では 64.4%、小中高生等保護者では 71.0%であり、広く認知されつつあることが見てとれる。身近にヤングケアラーと思われる人がいた場合の対応方法としては、未就学児保護者、小中高生等保護者ともに、「本人に様子を聞く」、「関係機関に相談する」の順に高い割合となった。

② 子どもの権利

子どもからの意見や要望を取り入れるようにしているかを問う設問に対しては、「常に意識している」と答えた人が、未就学児保護者、小中高生等保護者ともに半数を超えた（未就学児保護者：52.7%、小中高生等保護者 53.0%）。また、「子どもの権利」について「名前も内容も知っている」と答えた人は、未就学保護者で 34.9%、小中高生等保護者で 41.4%であり、今後さらに理解促進を図る余地が残されている。

(9) 小諸市の子育て環境・支援の満足度

小諸市における子育ての環境や支援の満足度は、未就学児保護者、小中高生保護者ともに「普通」と答えた人の割合が最も高い（未就学児保護者：47.3%、小中高生等保護者：54.4%）。

未就学児保護者では、「低い」と答えた人が 16.9%、「やや低い」は 25.0%で、合わせると 41.9%である。小中高生等保護者では、「低い」と答えた人が 15.0%、「やや低い」は 20.5%で、合わせると 35.5%である。

3 調査結果：0歳～小学校未就学の子どもの保護者

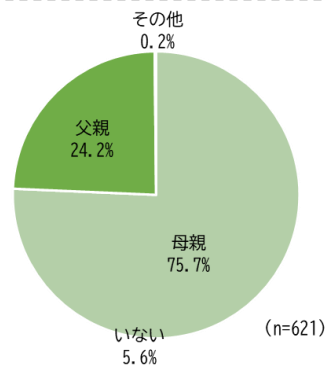
本章では、調査1（0歳～小学校未就学の子どもの保護者を対象とした調査）の結果を示す。

(1) 回答者

- 調査回答者は、母親が 75.7%、父親が 24.2%となっている。
- 配偶者は「いる」が 94.4%となっている。
- 回答者の年齢は、30 歳代の割合が 57.9%で最も高く、次いで 40 歳代が 27.7%、20 歳代が 12.9%となっている。

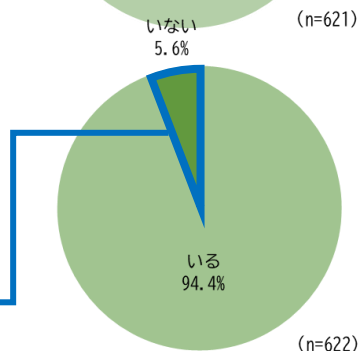
図表 1 調査回答者

	人数	割合(%)
母親	470	75.7
父親	150	24.2
その他	1	0.2
合計	621	100.0



図表 2 配偶者の有無

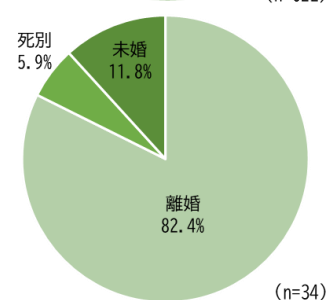
	人数	割合(%)
いる	587	94.4
いない	35	5.6
合計	622	100.0



回答対象者：配偶者がいない人

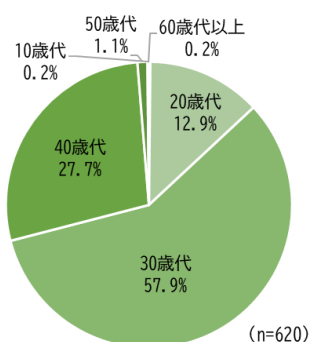
図表 3 配偶者無しの内訳

	人数	割合(%)
離婚	28	82.4
死別	2	5.9
未婚	4	11.8
合計	34	100.0



図表 4 年齢

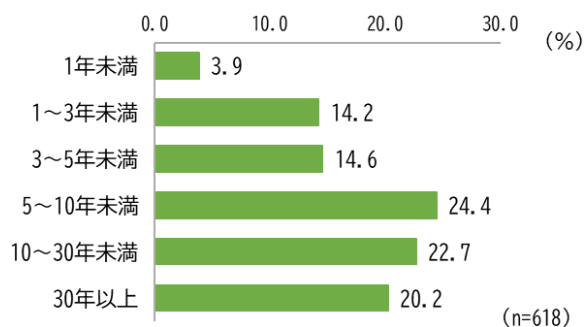
	人数	割合(%)
10歳代	1	0.2
20歳代	80	12.9
30歳代	359	57.9
40歳代	172	27.7
50歳代	7	1.1
60歳代以上	1	0.2
合計	620	100.0



- 小諸市の居住年数の割合は、5～10年未満が24.4%で最も高い。10年以上居住している人は、42.9%、5年未満の人が32.7%となっている。

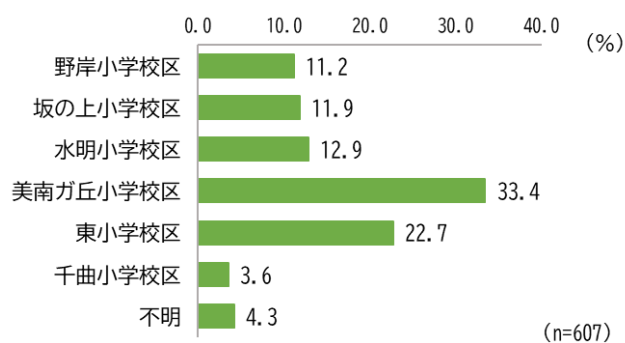
図表 5 小諸市の居住年数

	人数	割合(%)
1年未満	24	3.9
1～3年未満	88	14.2
3～5年未満	90	14.6
5～10年未満	151	24.4
10～30年未満	140	22.7
30年以上	125	20.2
合計	618	100.0



図表 6 居住地区

	人数	割合(%)
野岸小学校区	68	11.2
坂の上小学校区	72	11.9
水明小学校区	78	12.9
美南ガ丘小学校区	203	33.4
東小学校区	138	22.7
千曲小学校区	22	3.6
不明	26	4.3
合計	607	100.0

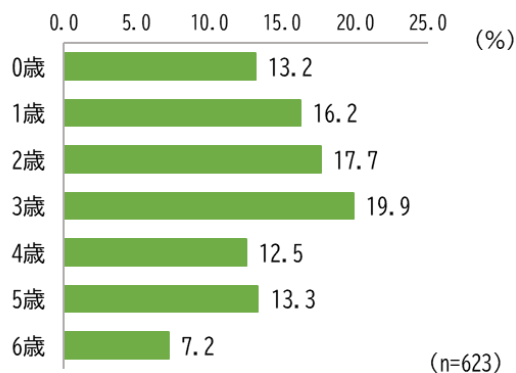


(2) 子どもとその家族の状況

- あて名の子どもの年齢は、3歳の割合が最も高く19.9%である。
- あて名の子どもの性別は、男児が52.3%、女児が47.7%である。
- 子どもの人数は、「2人」の割合が43.4%で最も高く、次いで「1人」が38.7%、「3人」が13.7%である。
- 一番下の子どもの年齢は、「3歳」の割合が18.7%で最も高かった。

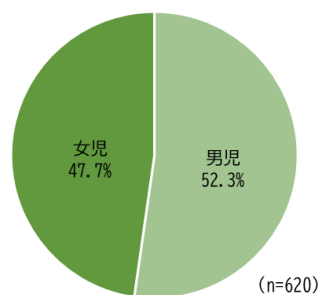
図表 7 あて名の子どもの年齢

	人数	割合(%)
0歳	82	13.2
1歳	101	16.2
2歳	110	17.7
3歳	124	19.9
4歳	78	12.5
5歳	83	13.3
6歳	45	7.2
合計	623	100.0



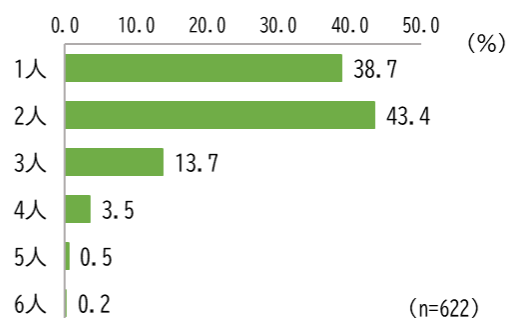
図表 8 あて名の子どもの性別

	人数	割合(%)
男児	324	52.3
女児	296	47.7
合計	620	100.0



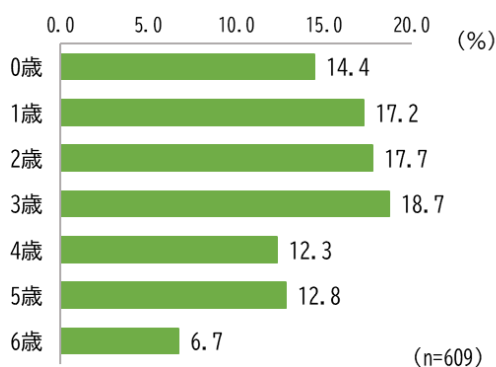
図表 9 子どもの人数

	人数	割合(%)
1人	241	38.7
2人	270	43.4
3人	85	13.7
4人	22	3.5
5人	3	0.5
6人	1	0.2
合計	622	100.0



図表 10 一番下の子どもの年齢

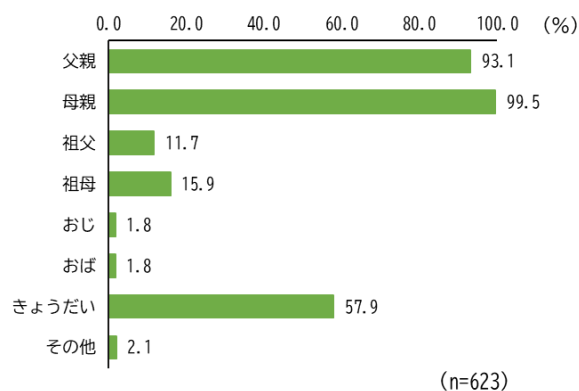
	人数	割合(%)
0歳	88	14.4
1歳	105	17.2
2歳	108	17.7
3歳	114	18.7
4歳	75	12.3
5歳	78	12.8
6歳	41	6.7
合計	609	100.0



- 同居者では母親の割合が99.5%と最も高く、次いで父親が93.1%である。きょうだい同居している割合は57.9%である。
- 同居人数は、「4人」の割合が40.9%で最も高く、次いで「3人」が31.9%、「5人」が13.8%である。

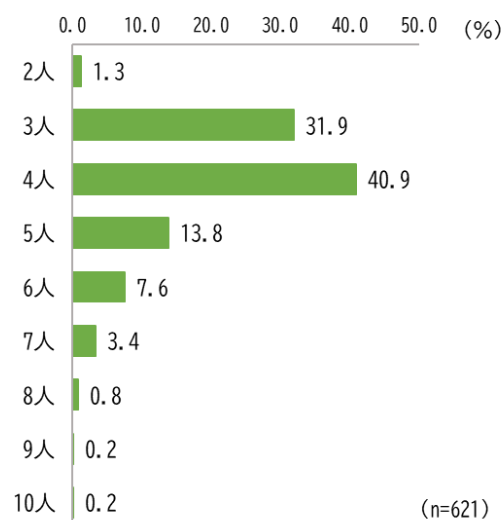
図表 11 同居者（複数回答）

	人数	割合(%)
父親	580	93.1
母親	620	99.5
祖父	73	11.7
祖母	99	15.9
おじ	11	1.8
おば	11	1.8
きょうだい	361	57.9
その他	13	2.1
回答者数	623	



図表 12 同居人数

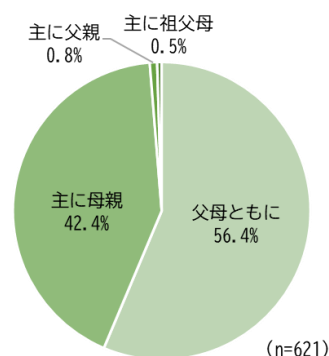
	人数	割合(%)
2人	8	1.3
3人	198	31.9
4人	254	40.9
5人	86	13.8
6人	47	7.6
7人	21	3.4
8人	5	0.8
9人	1	0.2
10人	1	0.2
合計	621	100.0



- ・子育てを主に行っている人は、「父母ともに」の割合が56.4%で最も高く、次いで「主に母親」の割合が42.4%である。「主に父親」の割合は0.8%となっている。
- ・父親の最終学歴は、「大学またはそれ以上」の割合が40.5%で最も高い。
- ・母親の最終学歴は、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が43.2%で最も高い。

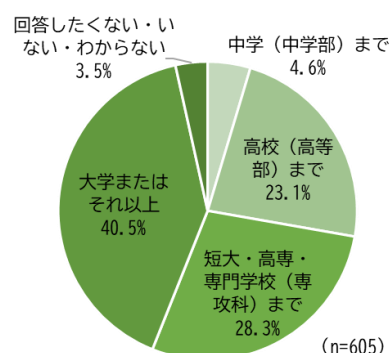
図表 13 子育てを主に行っている人

	人数	割合(%)
父母ともに	350	56.4
主に母親	263	42.4
主に父親	5	0.8
主に祖父母	3	0.5
合計	621	100.0



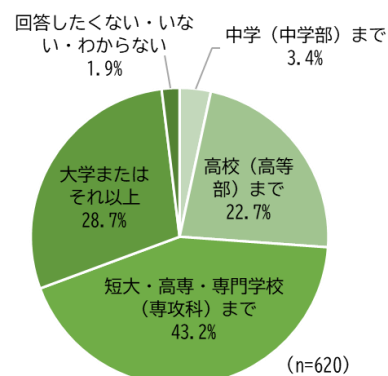
図表 14 父親の最終学齢

	人数	割合(%)
中学（中学部）まで	28	4.6
高校（高等部）まで	140	23.1
短大・高専・専門学校（専攻科）まで	171	28.3
大学またはそれ以上	245	40.5
回答したくない・いない・わからない	21	3.5
合計	605	100.0



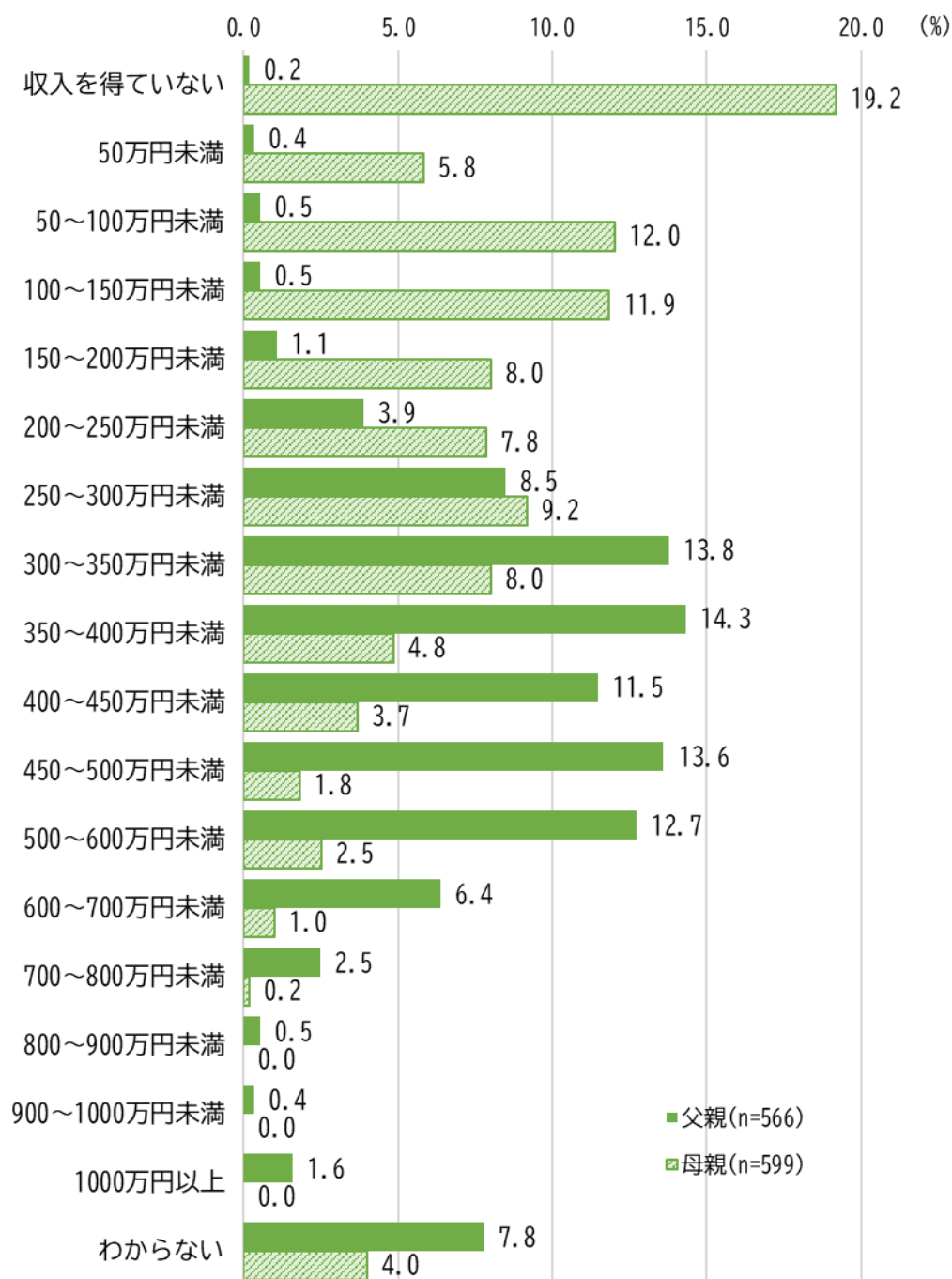
図表 15 母親の最終学歴

	人数	割合(%)
中学（中学部）まで	21	3.4
高校（高等部）まで	141	22.7
短大・高専・専門学校（専攻科）まで	268	43.2
大学またはそれ以上	178	28.7
回答したくない・いない・わからない	12	1.9
合計	620	100.0



- 父親の年収は、「350～400 万円未満」の割合が 14.3%で最も高く、次いで「300～350 万円未満」が 13.8%、「450～500 万円未満」が 13.6%である。
- 母親の年収は、「収入を得ていない」の割合が 19.2%で最も高く、次いで「50～100 万円未満」が 12.0%である。

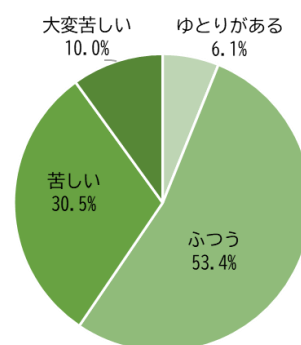
図表 16 父親・母親の年収



- 暮らしにゆとりがあるかを尋ねると、「ふつう」の割合が最も高く 53.4%である。「苦しい」は 30.5%、「大変苦しい」は 10.0%で、合わせると 40.5%となっている。
- 負担が大きい支出を尋ねると、「食費」と回答した割合は 77.0%、「光熱水費」は 64.3%、「家賃や住居にかかる費用」は 58.0%である。

図表 17 暮らしにゆとりがあるか

	人数	割合(%)
ゆとりがある	38	6.1
ふつう	332	53.4
苦しい	190	30.5
大変苦しい	62	10.0
合計	622	100.0



図表 18 負担が大きい支出（複数回答）

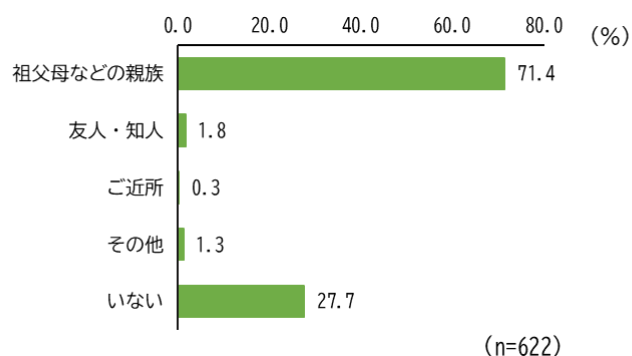
(n=622)

	人数	割合(%)
食費	470	77.0
衣類などの身の回りの物の費用	143	23.4
光熱水費	392	64.3
家賃や住居にかかる費用	354	58.0
医療費	27	4.4
保育料や教材費などの学校等にかかる費用	132	21.6
学習塾や習い事など学校以外の教育等にかかる費用	73	12.0
趣味やレジャー等の遊興費	41	6.7
その他	30	4.9
負担が大きいと感じるものはない	4	0.7
回答者数	610	

- 子どもを預けられる人としては、「祖父母などの親族」の割合が、日常では 71.4%、緊急時では 86.3% で、ともに最も高い。
- 「いない」と答えた人は、日常では 27.7%、緊急時では 12.1%となっている。

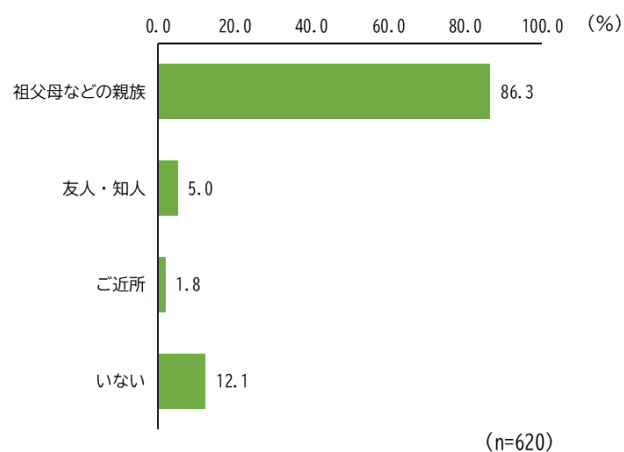
図表 19 日常で子どもを預けられる人（複数回答）

	人数	割合(%)
祖父母などの親族	444	71.4
友人・知人	11	1.8
ご近所	2	0.3
その他	8	1.3
いない	172	27.7
回答者数	622	



図表 20 緊急時に子どもを預けられる人（複数回答）

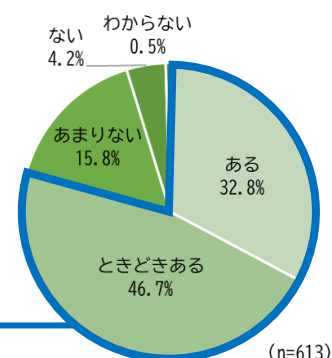
	人数	割合(%)
祖父母などの親族	535	86.3
友人・知人	31	5.0
ご近所	11	1.8
いない	75	12.1
回答者数	620	



- ・ 子育てをするうえで悩みや不安が「ある」、「ときどきある」と答えた人は、合わせて 79.5%であった。
- ・ 内容としては「病気や発育・発達に関すること」が 52.9%で最多であった。

図表 21 子育てをするうえで悩みや不安があるか

	人数	割合(%)
ある	201	32.8
ときどきある	286	46.7
あまりない	97	15.8
ない	26	4.2
わからない	3	0.5
合計	613	100.0



回答対象者: 「ある」または「ときどきある」と回答した人

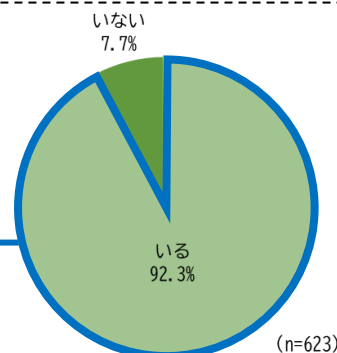
図表 22 悩みや不安の内容 (複数回答)

	人数	割合(%)
病気や発育・発達に関すること	257	52.9
食事や栄養に関すること	191	39.3
育児のことがよくわからないこと	57	11.7
子どもとの接し方に自信がもてないこと	110	22.6
子どもと過ごす時間が十分とれないこと	124	25.5
子どもの教育に関すること	162	33.3
子どもの友だちづきあい (いじめ等を含む) に関すること	94	19.3
子どもの登所・登園拒否、不登校などの課題	19	3.9
子育てに関して配偶者・パートナーの協力がいないこと	37	7.6
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	45	9.3
自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場などまわりの見目が気になること	25	5.1
子育てに関して話し相手や相談相手がいないこと	15	3.1
仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間がとれないこと	116	23.9
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	53	10.9
子育てのストレス等から、子どもに手をあげたり、叱りすぎたり、世話をしなかったりしてしまうこと	67	13.8
子育てによる身体の疲れが大きいこと	122	25.1
子育てにかかる出費がかさむこと	169	34.8
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれないこと	24	4.9
その他	24	4.9
回答者数	486	

- ・子育てをするうえで、気軽に相談できる人が「いる」と答えた人は92.3%、「いない」は7.7%である。
- ・相談相手は「配偶者」の割合が最も高く83.8%、次いで「祖父母などの親族」が78.2%、「友人や知人」が62.0%である。
- ・子育てをするうえで、気軽に相談できる場所が「ある」と答えた人の割合は65.6%、「ない」は34.4%である。
- ・相談場所は「保育園」の割合が最も高く79.9%、次いで「かかりつけの病院」が28.0%である。

図表 23 気軽に相談できる人がいるか

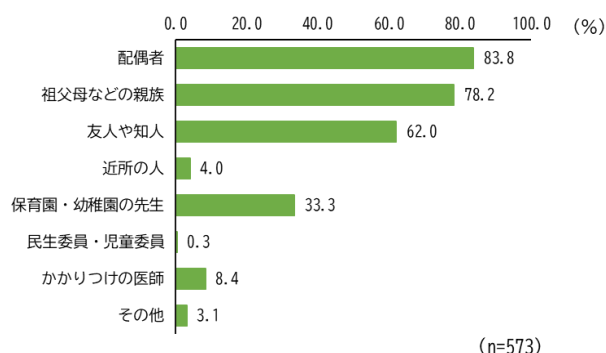
	人数	割合(%)
いる	575	92.3
いない	48	7.7
合計	623	100.0



回答対象者：「いる」と回答した人

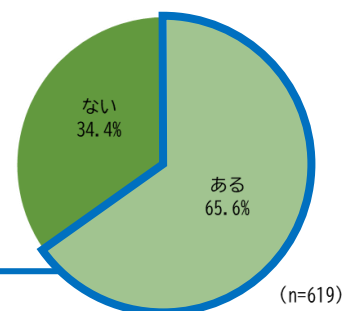
図表 24 相談相手（複数回答）

	人数	割合(%)
配偶者	480	83.8
祖父母などの親族	448	78.2
友人や知人	355	62.0
近所の人	23	4.0
保育園・幼稚園の先生	191	33.3
民生委員・児童委員	2	0.3
かかりつけの医師	48	8.4
その他	18	3.1
回答者数	573	



図表 25 気軽に相談できる場所があるか

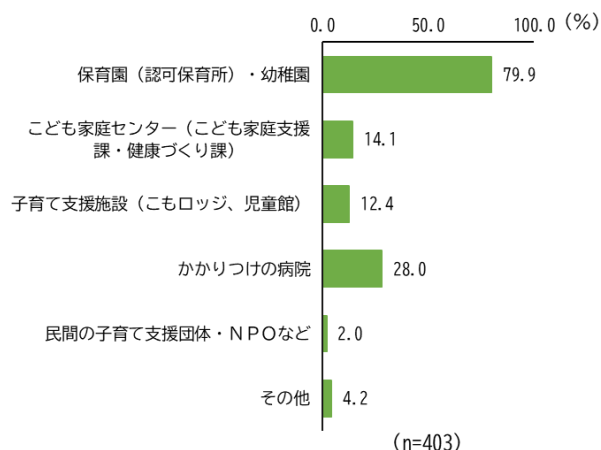
	人数	割合(%)
ある	406	65.6
ない	213	34.4
合計	619	100.0



回答対象者：「ある」と回答した人

図表 26 相談場所（複数回答）

	人数	割合(%)
保育園（認可保育所）・幼稚園	322	79.9
こども家庭センター（こども家庭支援課・健康づくり課）	57	14.1
子育て支援施設（こもロッジ、児童館）	50	12.4
かかりつけの病院	113	28.0
民間の子育て支援団体・NPOなど	8	2.0
その他	17	4.2
回答者数	403	



- 地域に期待することとしては、「通園・通学時に安全を確保してくれる」が最も高く 75.0%、次いで「子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる」が 51.5%、「子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」が 46.3%である。

図表 27 地域に期待すること

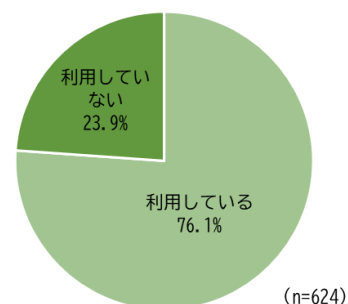
	人数	割合(%)
子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる	319	51.5
子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる	287	46.3
通園・通学時に安全を確保してくれる	465	75.0
子どもにスポーツや遊びなどの指導をしてくれる	178	28.7
緊急時に子どもを一時的に預かってくれる	185	29.8
子育てについて気軽に相談やアドバイス、情報交換をしてくれる	159	25.6
関わってほしくない	2	0.3
その他	6	1.0
特にない	33	5.3
回答者数	620	

(3) 平日の定期的な教育・保育事業の利用

- 平日の定期的な教育・保育事業を「利用している」割合は76.1%、「利用していない」割合は23.9%である。

図表 28 平日の定期的な教育・保育事業の利用有無

	人数	割合(%)
利用している	475	76.1
利用していない	149	23.9
合計	624	100.0



1) 現在、事業を利用していない人

- 現在利用していない人にその理由を尋ねると、「母親・父親がみている」が70.4%で最多で、次いで「子どもがまだ小さいため」が49.3%であった。
- 「子どもがまだ小さいため」と答えた人に、子どもが何歳になったら利用したいかを尋ねると、「3歳」が48.5%で最多であった。

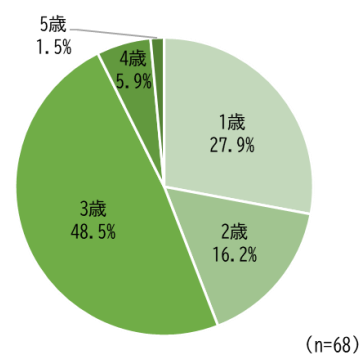
図表 29 利用していない理由（複数回答）

	人数	割合(%)
母親・父親がみている	100	70.4
祖父母や親戚の人がみている	20	14.1
近所の人や父母の友人・知人がみている	1	0.7
利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	17	12.0
利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	10	7.0
利用したいが、延長・夜間などの時間帯の条件が合わない	5	3.5
利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	1	0.7
子どもがまだ小さいため（〇歳くらいになったら利用しようと考えている）	70	49.3
その他	3	2.1
回答者数	142	

回答者：「子どもがまだ小さいため」と回答した人

図表 30 子どもが何歳になったら利用したいと考えているか

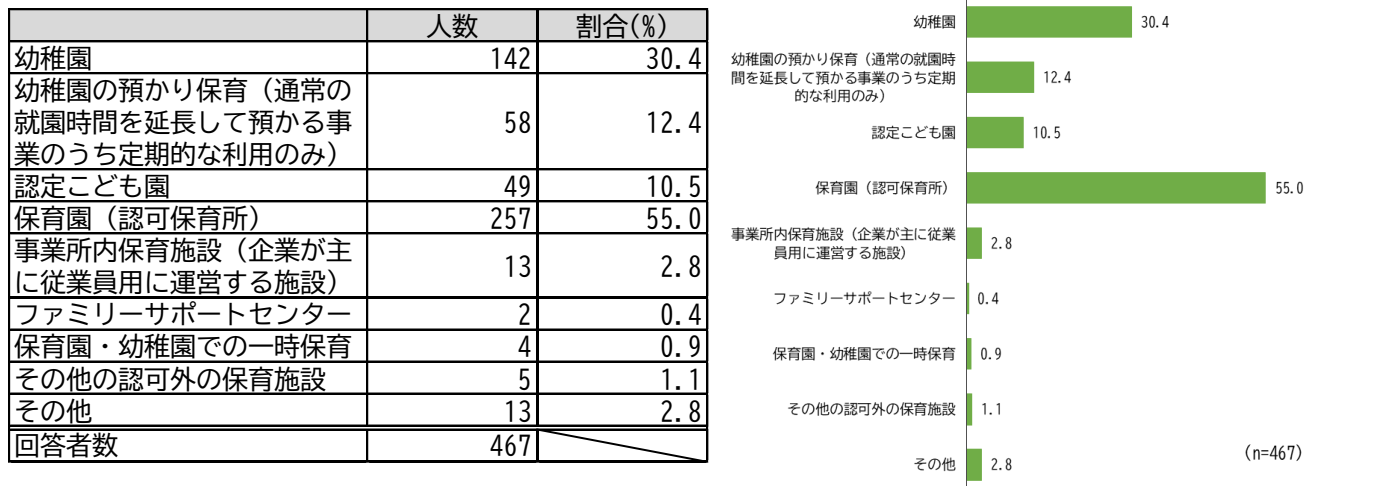
	人数	割合(%)
1歳	19	27.9
2歳	11	16.2
3歳	33	48.5
4歳	4	5.9
5歳	1	1.5
合計	68	100.0



2) 現在、事業を利用している人

- 現在利用している人に、利用している事業を尋ねると、「保育園」が 55.0%で最多、次いで「幼稚園」が 30.4%であった。
- 利用している理由を尋ねると、「子育てをしている方が現在就労している」が 86.7%で最多であった。

図表 31 利用している教育・保育事業（複数回答）



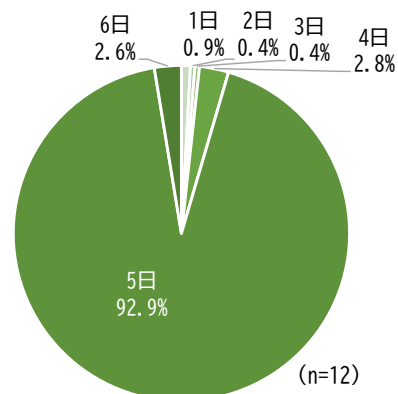
図表 32 利用している理由（複数回答）

	人数	割合(%)
子どもの教育や発達のため	254	54.5
子育てをしている方が現在就労している	404	86.7
子育てをしている方が就労の予定がある／求職中である	14	3.0
子育てをしている方に病気や障がいがある	6	1.3
子育てをしている方が学生である	1	0.2
その他	4	0.9
回答者数	466	

- 1 週当たりの利用日数は、「6 日」の割合が 95.4%で最も高い。
- 1 日当たりの利用時間は、「9 時間以上 10 時間未満」の割合が 23.0%で最も高い。
- 利用開始時刻は「8 時台」の割合が 59.6%で最も高い。
- 利用終了時刻は「17 時台」の割合が 30.4%で最も高い。

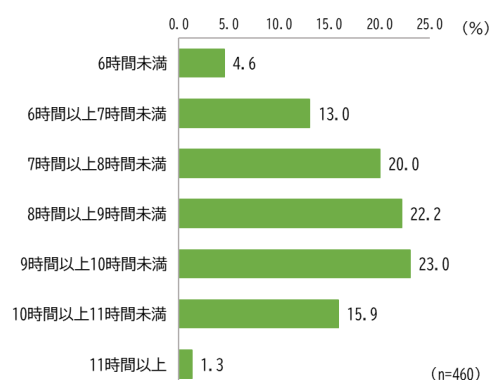
図表 33 現在の 1 週当たりの利用日数

	人数	割合(%)
1日	4	0.9
2日	2	0.4
3日	2	0.4
4日	13	2.8
5日	431	92.9
6日	12	2.6
合計	464	100.0



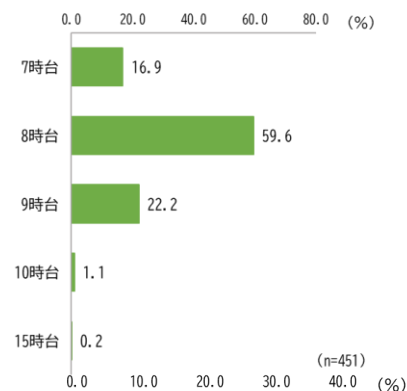
図表 34 現在の 1 日当たりの利用時間

	人数	割合(%)
6時間未満	21	4.6
6時間以上7時間未満	60	13.0
7時間以上8時間未満	92	20.0
8時間以上9時間未満	102	22.2
9時間以上10時間未満	106	23.0
10時間以上11時間未満	73	15.9
11時間以上	6	1.3
合計	460	100.0



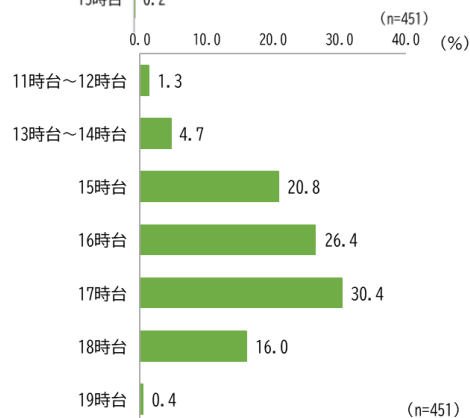
図表 35 現在の利用開始時刻

	人数	割合(%)
7時台	76	16.9
8時台	269	59.6
9時台	100	22.2
10時台	5	1.1
15時台	1	0.2
合計	451	100.0



図表 36 現在の利用終了時刻

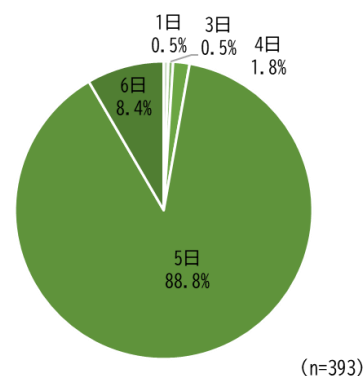
	人数	割合(%)
11時台～12時台	6	1.3
13時台～14時台	21	4.7
15時台	94	20.8
16時台	119	26.4
17時台	137	30.4
18時台	72	16.0
19時台	2	0.4
合計	451	100.0



- ・ 現在利用している人に、希望としてはどの程度事業を利用したいかを尋ねたところ、1 週当たりの利用日数は、「5 日」の割合が 88.8%で最も高かった。
- ・ 1 日当たりの利用時間は、「9 時間以上 10 時間未満」の割合が 27.9%で最も高い。
- ・ 利用開始時刻は「8 時台」の割合が 57.0%で最も高い。
- ・ 利用終了時刻は「17 時台」の割合が 38.1%で最も高い。

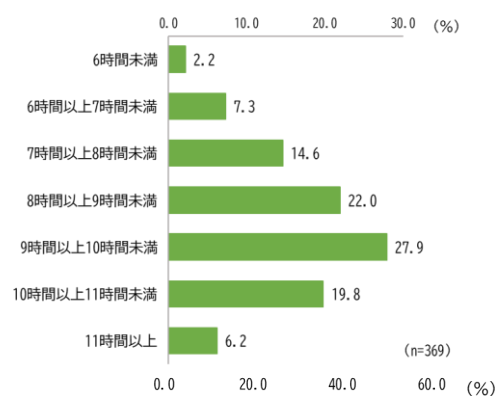
図表 37 希望する 1 週当たりの利用日数

	人数	割合(%)
1日	2	0.5
2日	0	0.0
3日	2	0.5
4日	7	1.8
5日	349	88.8
6日	33	8.4
合計	393	100.0



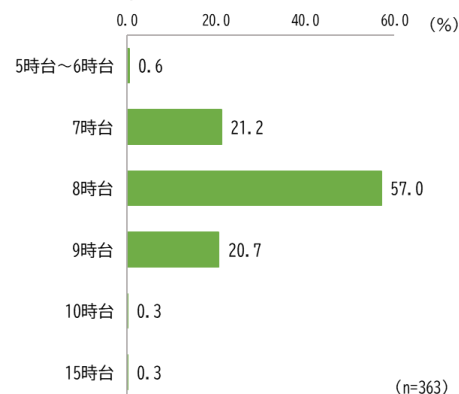
図表 38 希望する 1 日当たりの利用時間

	人数	割合(%)
6時間未満	8	2.2
6時間以上7時間未満	27	7.3
7時間以上8時間未満	54	14.6
8時間以上9時間未満	81	22.0
9時間以上10時間未満	103	27.9
10時間以上11時間未満	73	19.8
11時間以上	23	6.2
合計	369	100.0



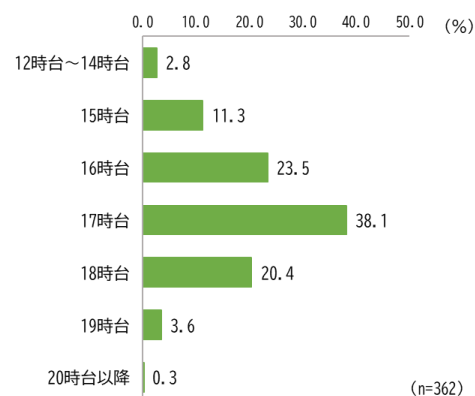
図表 39 希望する利用開始時刻

	人数	割合(%)
5時台～6時台	2	0.6
7時台	77	21.2
8時台	207	57.0
9時台	75	20.7
10時台	1	0.3
15時台	1	0.3
合計	363	100.0



図表 40 希望する利用終了時刻

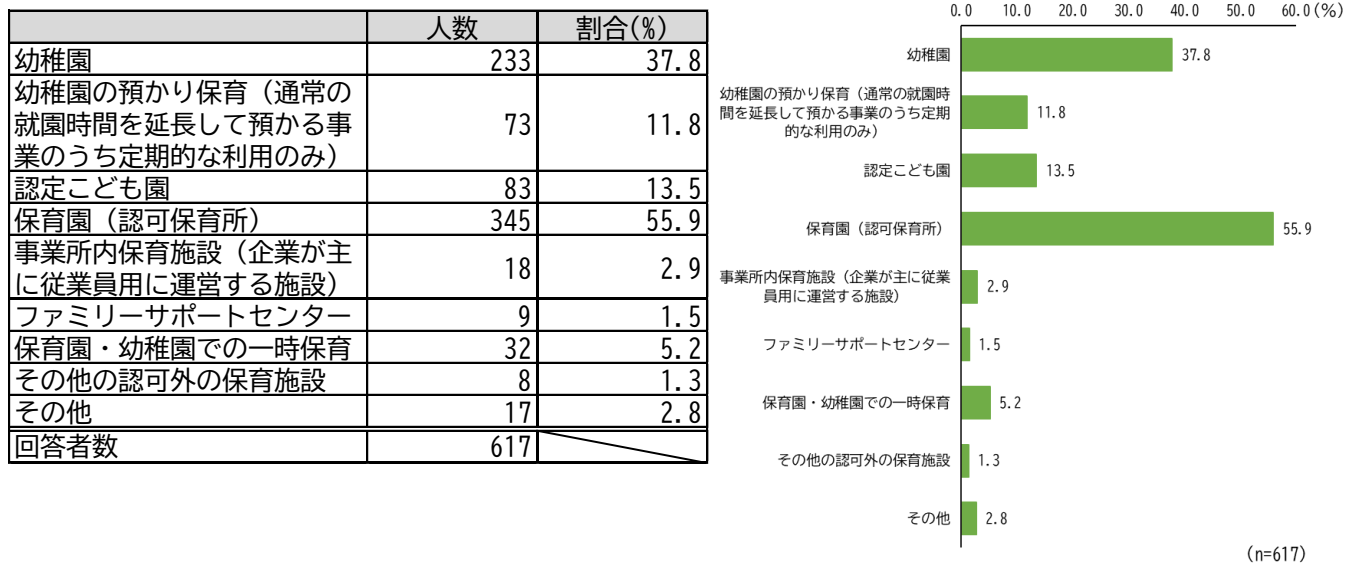
	人数	割合(%)
12時台～14時台	10	2.8
15時台	41	11.3
16時台	85	23.5
17時台	138	38.1
18時台	74	20.4
19時台	13	3.6
20時台以降	1	0.3
合計	362	100.0



3) 今後の利用予定

- すべての人を対象に、今後の利用予定を含めて意向を尋ねたところ、「保育園」の割合が55.9%で最も高く、次いで「幼稚園」が37.8%、「認定こども園」が13.5%、「幼稚園の預かり保育」が11.8%であった。

図表 41 現在利用している、または利用を予定している教育・保育事業（複数回答）



(4) 子育て支援施設・事業の利用状況

- 子育て支援施設の認知度・利用状況では、「こもロッジ」の認知度が93.4%、利用状況が11.4%、「児童館」の認知度が73.9%、利用状況が6.3%である。今後の利用意向は、「こもロッジ」が17.3%、児童館が25.2%で、両施設ともに、現在の利用状況を上回っている。
- こもロッジの利用者に利用頻度を聞くと、「5日未満」が68.9%で最多であった。また利用希望者に希望日数を聞くと、「5日未満」が71.4%で最多であった。

図表 42 こもロッジ・児童館の認知度、利用状況、利用意向

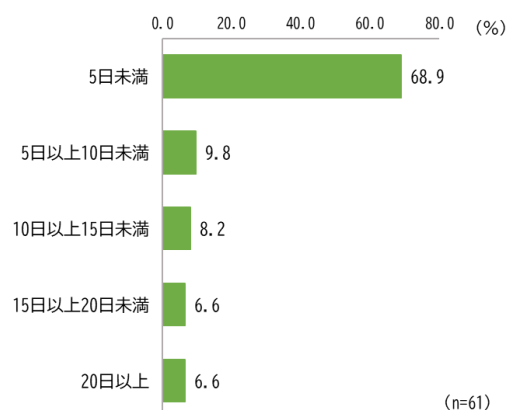
	知っている (%)	利用 している (%)	今後 利用したい (%)
こもロッジ	93.4	11.4	17.3
児童館	73.9	6.3	25.2

(n=624)

回答対象者：こもロッジを利用していると回答した人

図表 43 こもロッジの現在の1ヶ月あたりの利用頻度

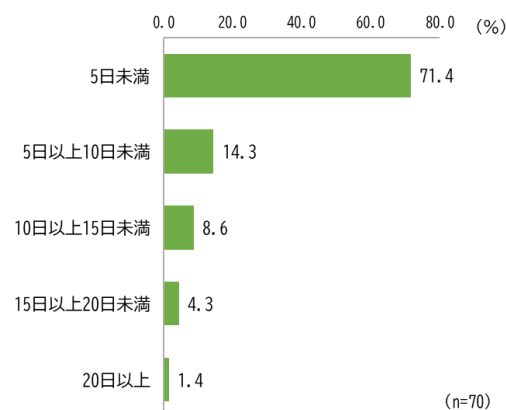
	人数	割合(%)
5日未満	42	68.9
5日以上10日未満	6	9.8
10日以上15日未満	5	8.2
15日以上20日未満	4	6.6
20日以上	4	6.6
合計	61	100.0



回答対象者：こもロッジを今後利用したいと回答した人

図表 44 こもロッジの今後の1ヶ月あたりの利用希望

	人数	割合(%)
5日未満	50	71.4
5日以上10日未満	10	14.3
10日以上15日未満	6	8.6
15日以上20日未満	3	4.3
20日以上	1	1.4
合計	70	100.0

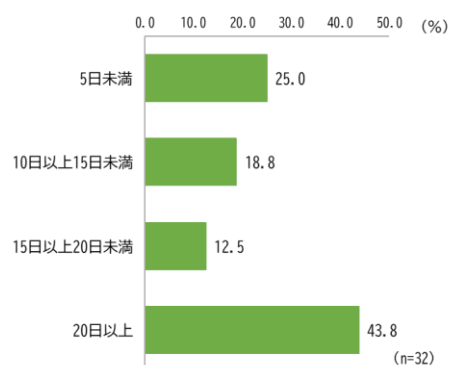


- 児童館の利用者に利用頻度を聞くと、「20日以上」が43.8%で最多であった。また、利用希望者に希望日数を聞くと、「20日以上」が43.8%で最多であった。

回答対象者：児童館を利用していると回答した人

図表 45 児童館の現在の1ヶ月あたりの利用頻度

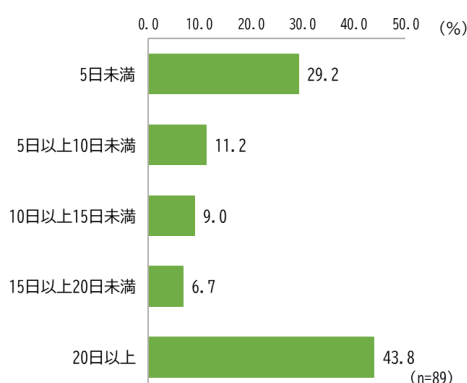
	人数	割合(%)
5日未満	8	25.0
5日以上10日未満	0	0.0
10日以上15日未満	6	18.8
15日以上20日未満	4	12.5
20日以上	14	43.8
合計	32	100.0



回答対象者：児童館を今後利用したいと回答した人

図表 46 児童館の今後の1ヶ月あたりの利用希望

	人数	割合(%)
5日未満	26	29.2
5日以上10日未満	10	11.2
10日以上15日未満	8	9.0
15日以上20日未満	6	6.7
20日以上	39	43.8
合計	89	100.0



- 子育て支援事業の認知度・利用状況では「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」の認知度が66.7%、利用状況が32.9%であり、「保健センターの情報・相談事業」の認知度が74.2%、利用状況が31.1%である。これらの事業では、今後の利用意向が現在の利用状況を下回っている。
- 一方、上記以外の選択肢では、今後の利用意向が現在の利用状況を上回っている。

図表 47 子育て支援事業の認知度・利用状況・利用意向

	知っている(%)	利用した(%)	今後利用したい(%)
母親(父親)学級、両親学級、育児学級	66.7	32.9	12.5
保健センター(健康づくり課)の情報・相談事業	74.2	31.1	14.7
家庭教育に関する学級・講座	25.3	0.5	14.3
教育支援センター・教育相談	31.6	3.0	13.8
保育所や幼稚園の園庭等の開放	52.9	16.3	18.6
こども家庭センター(こども家庭支援課こども相談係)の相談事業	35.7	4.2	12.8

(n=624)

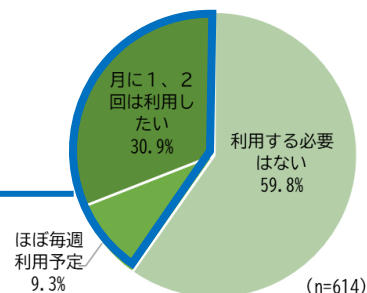
(5) 土日祝日の定期的な教育・保育事業の利用

1) 土曜日

- 土曜日に定期的な教育・保育事業の利用を希望する人は、40.2%である。
- その理由としては、「仕事のため」の割合が75.0%と最も高い。
- 利用開始の希望時刻は「8時台」が58.0%で最多である。
- 利用終了の希望時刻は「17時台」が39.0%で最多である。

図表 48 利用意向

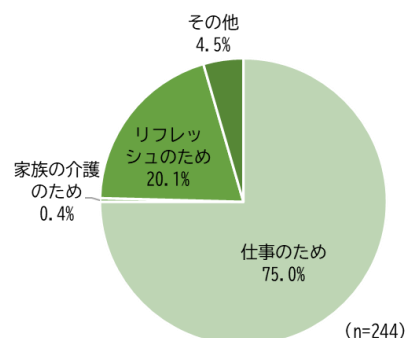
	人数	割合(%)
利用する必要はない	367	59.8
ほぼ毎週利用予定	57	9.3
月に1、2回は利用したい	190	30.9
合計	614	100.0



回答者：利用を希望する人

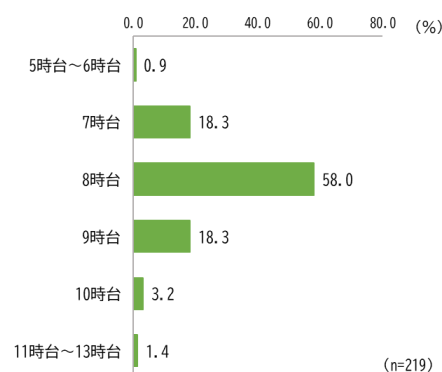
図表 49 利用する理由

	人数	割合(%)
仕事のため	183	75.0
家族の介護のため	1	0.4
リフレッシュのため	49	20.1
その他	11	4.5
合計	244	100.0



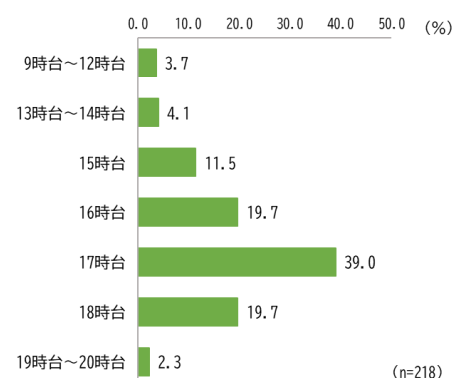
図表 50 利用開始希望時刻

	人数	割合(%)
5時台～6時台	2	0.9
7時台	40	18.3
8時台	127	58.0
9時台	40	18.3
10時台	7	3.2
11時台～13時台	3	1.4
合計	219	100.0



図表 51 利用終了希望時刻

	人数	割合(%)
9時台～12時台	8	3.7
13時台～14時台	9	4.1
15時台	25	11.5
16時台	43	19.7
17時台	85	39.0
18時台	43	19.7
19時台～20時台	5	2.3
合計	218	100.0

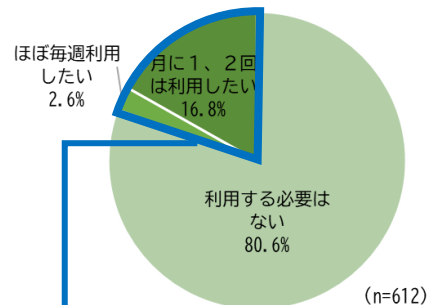


2) 日曜日・祝日

- ・ 日曜日・祝日に定期的な教育・保育事業の利用を希望する人は、19.4%である。
- ・ その理由としては「仕事のため」の割合が66.4%と最も高く、次いで「リフレッシュのため」が28.4%である。
- ・ 利用開始の希望時刻は「8時台」が53.3%で最多である。
- ・ 利用終了の希望時刻は「17時台」が44.8%で最多である。

図表 52 日曜日の利用意向

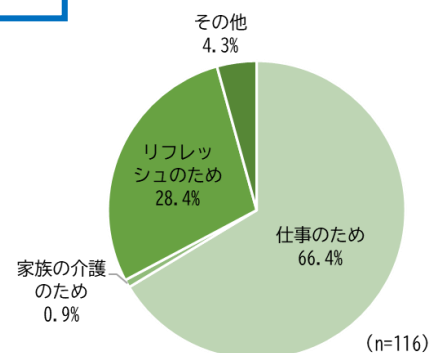
	人数	割合(%)
利用する必要はない	493	80.6
ほぼ毎週利用したい	16	2.6
月に1、2回は利用したい	103	16.8
合計	612	100.0



回答者：利用を希望する人

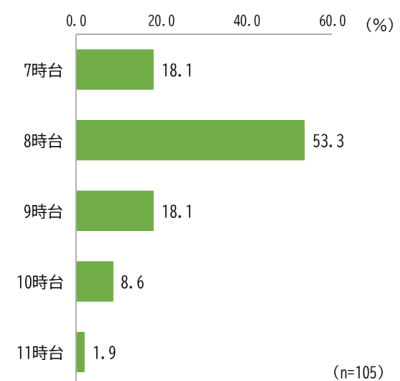
図表 53 利用する理由

	人数	割合(%)
仕事のため	77	66.4
家族の介護のため	1	0.9
リフレッシュのため	33	28.4
その他	5	4.3
合計	116	100.0



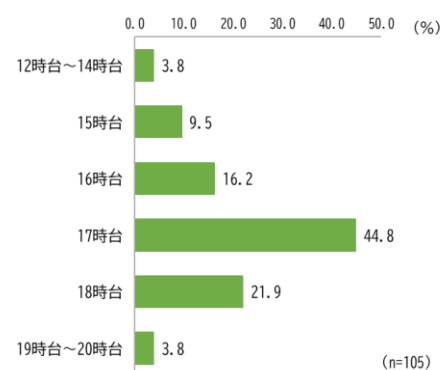
図表 54 利用開始の希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	19	18.1
8時台	56	53.3
9時台	19	18.1
10時台	9	8.6
11時台	2	1.9
合計	105	100.0



図表 55 利用終了の希望時刻

	人数	割合(%)
12時台～14時台	4	3.8
15時台	10	9.5
16時台	17	16.2
17時台	47	44.8
18時台	23	21.9
19時台～20時台	4	3.8
合計	105	100.0



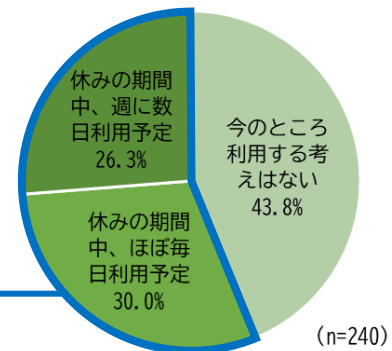
3) 長期休暇（夏休み・冬休み）

回答対象者：幼稚園・認定こども園を利用している人

- ・ 幼稚園・認定こども園を利用している人に、長期休暇期間中に預かり保育などの利用を予定しているか尋ねたところ、利用を予定している人は、56.3%であった。
- ・ 利用開始の希望時刻は「8時台」が66.4%で最多である。
- ・ 利用終了の希望時刻は「17時台」が30.6%で最多である。

図表 56 幼稚園・認定こども園の預かり保育の利用意向

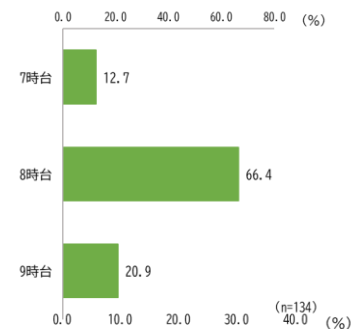
	人数	割合(%)
今のところ利用する考えはない	105	43.8
休みの期間中、ほぼ毎日利用予定	72	30.0
休みの期間中、週に数日利用予定	63	26.3
合計	240	100.0



回答対象者：利用を希望する人

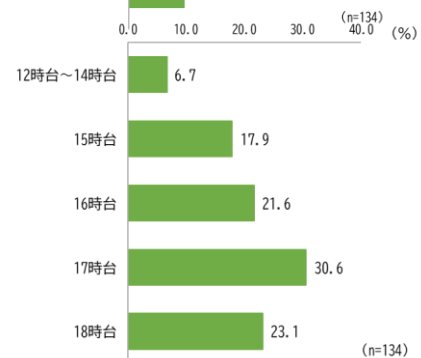
図表 57 利用開始の希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	17	12.7
8時台	89	66.4
9時台	28	20.9
合計	134	100.0



図表 58 利用終了の希望時刻

	人数	割合(%)
12時台～14時台	9	6.7
15時台	24	17.9
16時台	29	21.6
17時台	41	30.6
18時台	31	23.1
合計	134	100.0



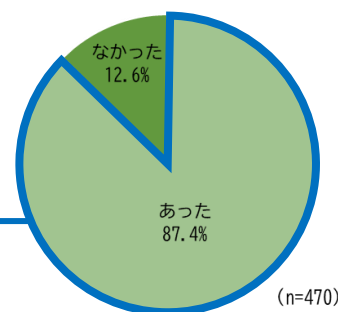
(6) 子どもが病気などになった時

回答対象者：平日に定期的な教育・保育事業を利用している人

- 子どもが病気等で保育園・幼稚園等に通えなかった経験が「あった」と答えた人は 87.4%である。
- その際の対処方法としては、「母親が休んだ」と答えた人が 89.6%と最多で、その日数は「10 日以上 20 日未満」が 35.3%で最多である。
- 「父親が休んだ」と答えた人は 49.1%で、その日数は「5 日未満」が 47.3%で最多である。

図表 59 病気等で学校等に通えなかった経験の有無

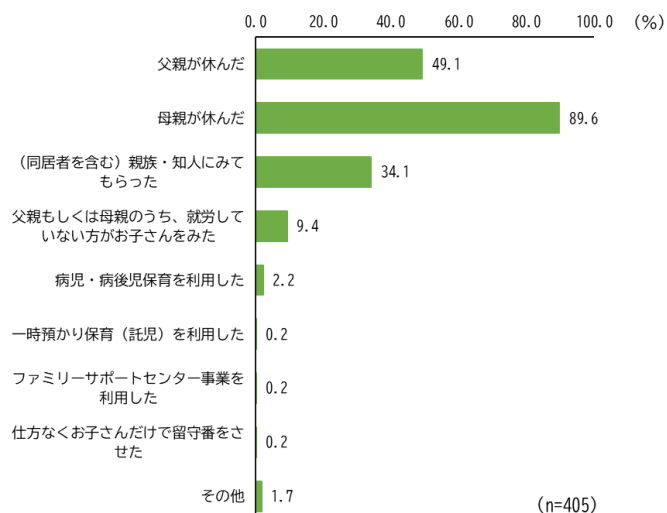
	人数	割合(%)
あった	411	87.4
なかった	59	12.6
合計	470	100.0



回答対象者：「あった」と回答した人

図表 60 この1年間に行った対処方法（複数回答）

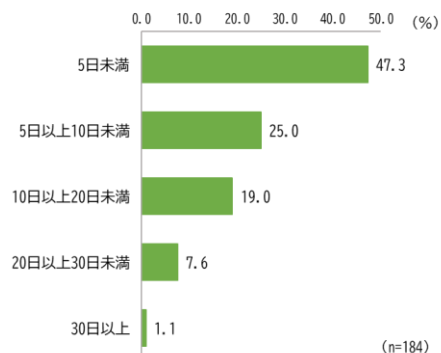
	人数	割合(%)
父親が休んだ	199	49.1
母親が休んだ	363	89.6
(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった	138	34.1
父親もしくは母親のうち、就労していない方がお子さんをみた	38	9.4
病児・病後児保育を利用した	9	2.2
一時預かり保育(託児)を利用した	1	0.2
ファミリーサポートセンター事業を利用した	1	0.2
仕方なくお子さんだけで留守番をさせた	1	0.2
その他	7	1.7
回答者数	405	



回答対象者：「父親が休んだ」と回答した人

図表 61 父親が休んだ日数

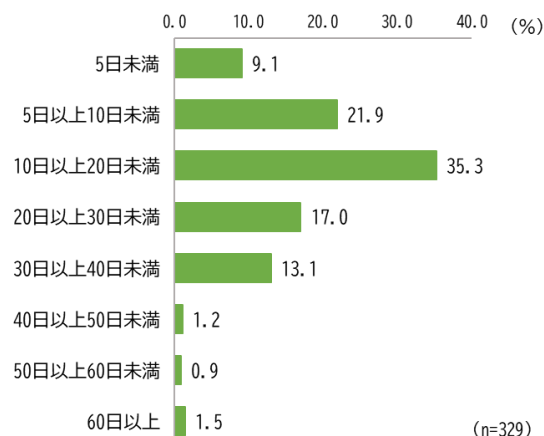
	人数	割合(%)
5日未満	87	47.3
5日以上10日未満	46	25.0
10日以上20日未満	35	19.0
20日以上30日未満	14	7.6
30日以上	2	1.1
合計	184	100.0



回答対象者：「母親が休んだ」と回答した人

図表 62 母親が休んだ日数

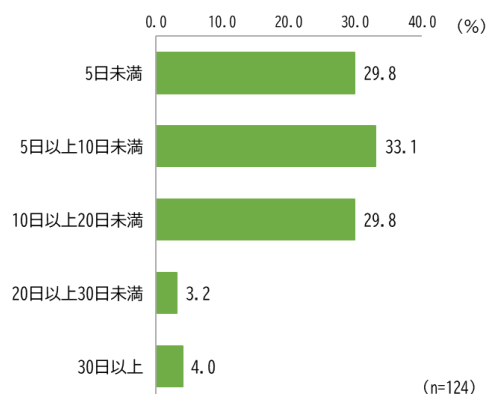
	人数	割合(%)
5日未満	30	9.1
5日以上10日未満	72	21.9
10日以上20日未満	116	35.3
20日以上30日未満	56	17.0
30日以上40日未満	43	13.1
40日以上50日未満	4	1.2
50日以上60日未満	3	0.9
60日以上	5	1.5
合計	329	100.0



回答対象者：「親族・知人にみてもらった」と回答した人

図表 63 (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった日数

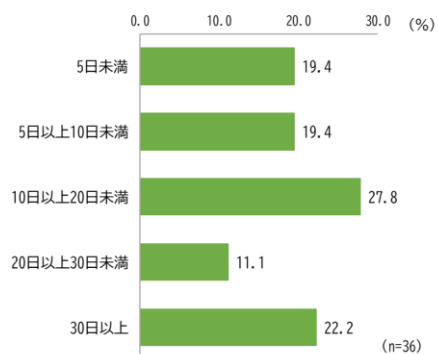
	人数	割合(%)
5日未満	37	29.8
5日以上10日未満	41	33.1
10日以上20日未満	37	29.8
20日以上30日未満	4	3.2
30日以上	5	4.0
合計	124	100.0



回答対象者：「父親もしくは母親のうち、就労していない方がお子さんをみた」と回答した人

図表 64 父親もしくは母親のうち、就労していない方がお子さんをみた日数

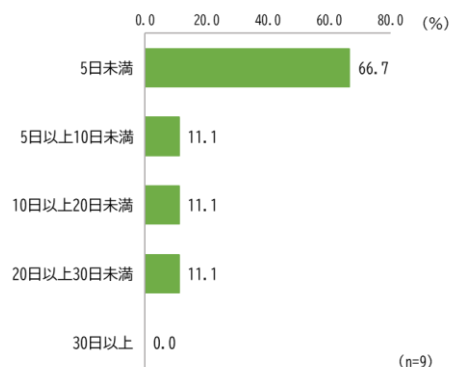
	人数	割合(%)
5日未満	7	19.4
5日以上10日未満	7	19.4
10日以上20日未満	10	27.8
20日以上30日未満	4	11.1
30日以上	8	22.2
合計	36	100.0



回答対象者：「病児・病後児保育を利用した」と回答した人

図表 65 病児・病後児保育を利用した日数

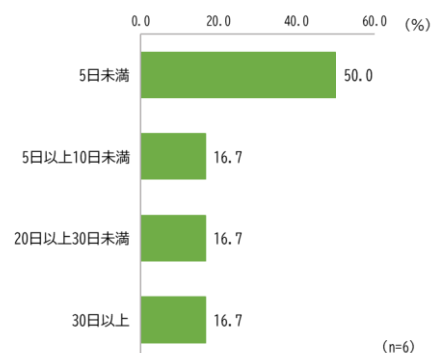
	人数	割合(%)
5日未満	6	66.7
5日以上10日未満	1	11.1
10日以上20日未満	1	11.1
20日以上30日未満	1	11.1
30日以上	0	0.0
合計	9	100.0



回答対象者：「その他」と回答した人

図表 66 その他の日数

	人数	割合(%)
5日未満	3	50.0
5日以上10日未満	1	16.7
10日以上20日未満	0	0.0
20日以上30日未満	1	16.7
30日以上	1	16.7
合計	6	100.0

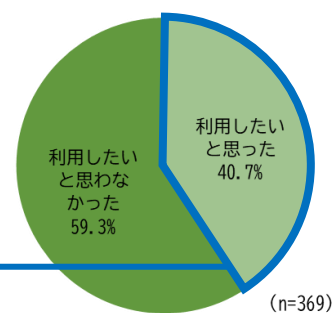


- ・ 父親または母親が休んだ人に、病児・病後児のための保育施設等の利用意向を聞くと、「利用したいと思った」と答えた人は40.7%であった。
- ・ 利用を希望する人に、利用希望日数を尋ねると、「10日以上20日未満」が39.7%で最多であった。

回答対象者：父親または母親が休んだ人

図表 67 病児保育のための保護施設等の利用意向

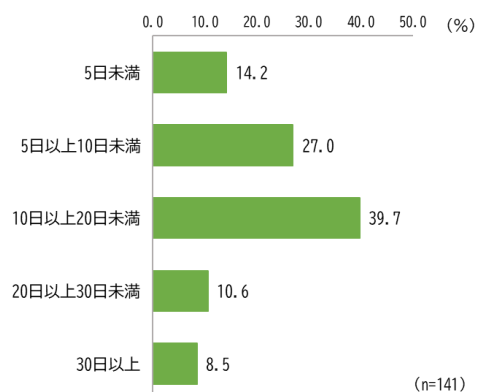
	人数	割合(%)
利用したいと思った	150	40.7
利用したいと思わなかった	219	59.3
合計	369	100.0



回答対象者：利用を希望する人

図表 68 病児保育のための保護施設等の利用希望日数

	人数	割合(%)
5日未満	20	14.2
5日以上10日未満	38	27.0
10日以上20日未満	56	39.7
20日以上30日未満	15	10.6
30日以上	12	8.5
合計	141	100.0

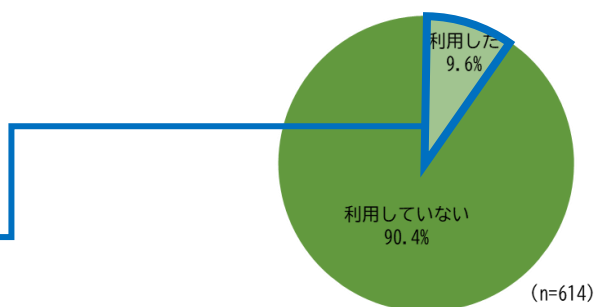


(7) 一時預かりや幼稚園の預かり保育などの不定期な利用

- 過去1年間に、一時預かりや幼稚園の預かりを利用した人は9.6%である。
- 利用した人に内容を尋ねると、「幼稚園の預かり保育」が61.0%で最多であり、次いで「一時預かり」が37.3%であった。
- 各事業を利用した人に利用日数を尋ねたところ、「一時預かり」では「5日未満」が47.6%、「幼稚園の預かり保育」では「5日以上10日未満」が35.3%であった。

図表 69 過去1年間ににおける一時預かりや幼稚園の預かり保育などの不定期な利用の有無

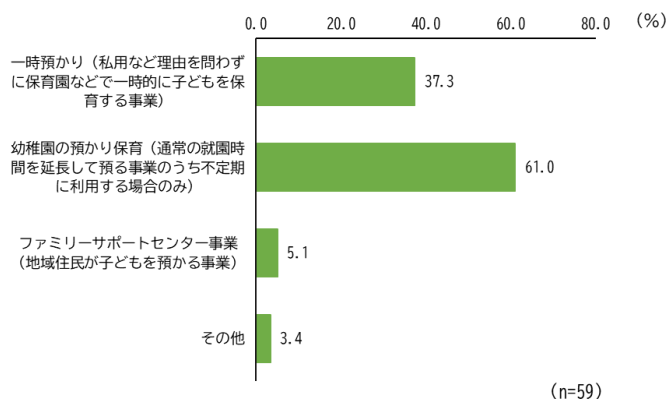
	人数	割合(%)
利用した	59	9.6
利用していない	555	90.4
合計	614	100.0



回答対象者：利用した人

図表 70 利用した事業（複数選択）

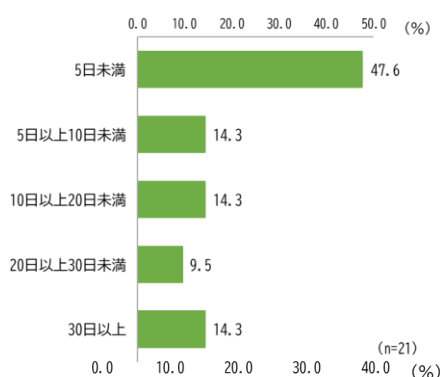
	人数	割合(%)
一時預かり（私用など理由を問わずに保育園などで一時的に子どもを保育する事業）	22	37.3
幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預る事業のうち不定期に利用する場合のみ）	36	61.0
ファミリーサポートセンター事業（地域住民が子どもを預かる事業）	3	5.1
その他	2	3.4
回答者数	59	



回答対象者：一時預かりを利用した人

図表 71 一時預かりの利用日数

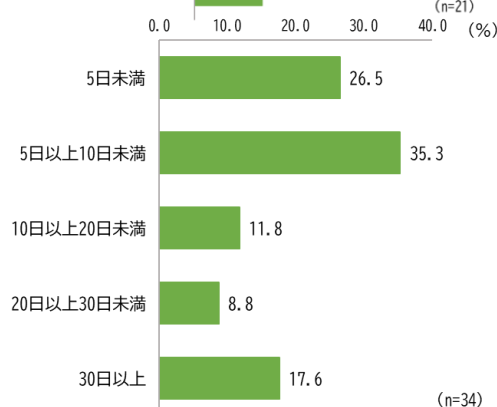
	人数	割合(%)
5日未満	10	47.6
5日以上10日未満	3	14.3
10日以上20日未満	3	14.3
20日以上30日未満	2	9.5
30日以上	3	14.3
合計	21	100.0



回答対象者：幼稚園の預かり保育を利用した人

図表 72 幼稚園の預かり保育の利用日数

	人数	割合(%)
5日未満	9	26.5
5日以上10日未満	12	35.3
10日以上20日未満	4	11.8
20日以上30日未満	3	8.8
30日以上	6	17.6
合計	34	100.0



回答対象者：ファミリーサポートセンター事業を利用した人

図表 73 ファミリーサポートセンター事業の利用日数

	人数	割合(%)
1日	1	33.3
2日	1	33.3
5日	1	33.3
合計	3	100.0

回答対象者：「その他」と回答した人

図表 74 その他の事業の利用日数

	人数	割合(%)
1日	1	50.0
20日	1	50.0
合計	2	100.0

- ・ 一時預かりや幼稚園の預かりを利用していない人にその理由を尋ねると、「特に利用する必要がない」が71.2%で最多であった。
- ・ そのほか、「事業の利用方法（手続き）がわからない」（17.0%）、「手続きや手配が面倒」（16.7%）、「利用料がかかる・高い」（14.5%）、「自分が事業の対象者になるのかどうかかわからない」（11.0%）、「利用料がわからない」（10.1%）なども挙げられた。

回答対象者：利用していない人

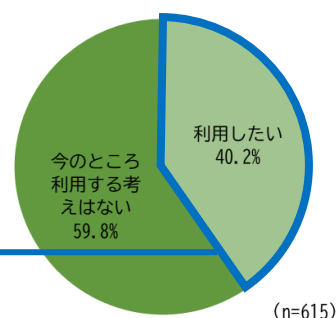
図表 75 利用していない理由（複数選択）

	人数	割合(%)
特に利用する必要がない	389	71.2
利用したい事業がない	18	3.3
事業の質に不安がある	23	4.2
事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない	32	5.9
利用料がかかる・高い	79	14.5
利用料がわからない	55	10.1
自分が事業の対象者になるのかどうかかわからない	60	11.0
事業の利用方法（手続き）がわからない	93	17.0
手続きや手配が面倒	91	16.7
その他	30	5.5
回答者数	546	

- 今後の利用意向では、40.2%が「利用したい」と回答した。
- 目的別でみると、「私用や親のリフレッシュ」では「10日以上20日未満」が39.5%、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」では「5日未満」が35.7%、「5日以上10日未満」が34.1%、「不特定の就労」では「10日以上20日未満」が30.2%であった。

図表 76 今後の利用意向

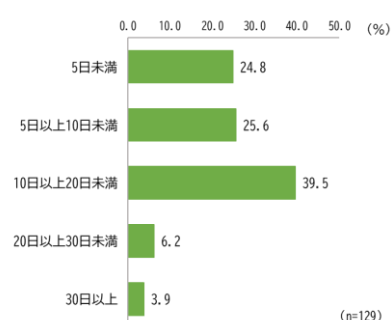
	人数	割合(%)
利用したい	247	40.2
今のところ利用する考えはない	368	59.8
合計	615	100.0



回答対象者：利用を希望する人

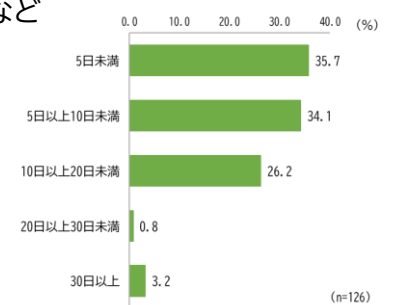
図表 77 利用目的：私用や親のリフレッシュ

	人数	割合(%)
5日未満	32	24.8
5日以上10日未満	33	25.6
10日以上20日未満	51	39.5
20日以上30日未満	8	6.2
30日以上	5	3.9
合計	129	100.0



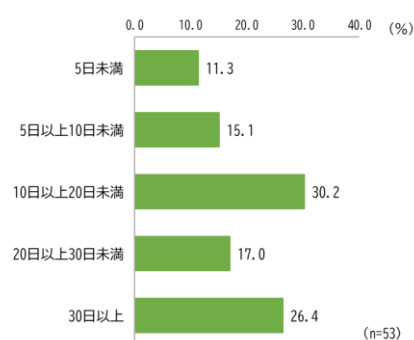
図表 78 利用目的：冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など

	人数	割合(%)
5日未満	45	35.7
5日以上10日未満	43	34.1
10日以上20日未満	33	26.2
20日以上30日未満	1	0.8
30日以上	4	3.2
合計	126	100.0



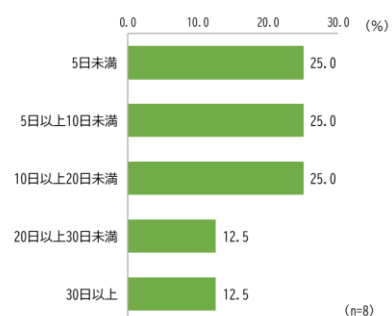
図表 79 利用目的：不特定の就労

	人数	割合(%)
5日未満	6	11.3
5日以上10日未満	8	15.1
10日以上20日未満	16	30.2
20日以上30日未満	9	17.0
30日以上	14	26.4
合計	53	100.0



図表 80 利用目的：その他

	人数	割合(%)
5日未満	2	25.0
5日以上10日未満	2	25.0
10日以上20日未満	2	25.0
20日以上30日未満	1	12.5
30日以上	1	12.5
合計	8	100.0

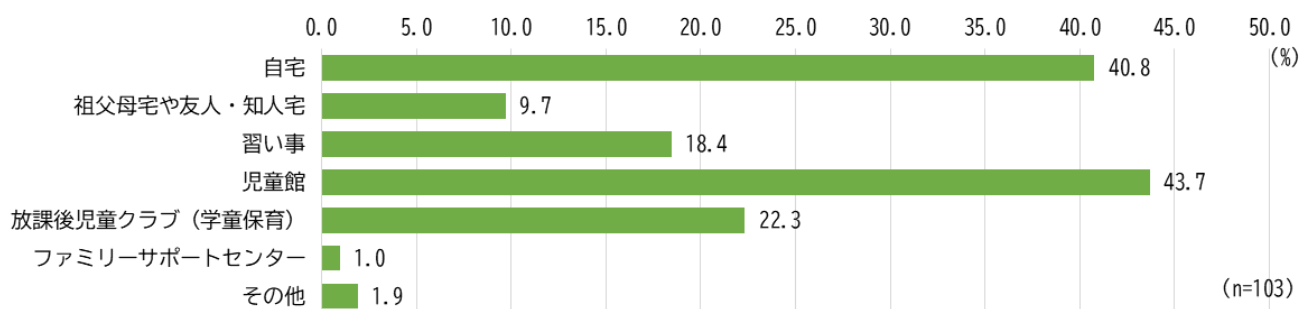


(8) 小学校入学後の放課後や自由時間の過ごし方

回答対象者：あて名の子どもが5歳以上の人

- 平日の放課後の過ごし方について、「低学年の間」と「高学年になったら」の利用意向を比較すると、「児童館」と答えた人の割合は低学年の方が高く、「自宅」や「習い事」は高学年の方が高い。「放課後児童クラブ」では大きな差は見られなかった。
- 放課後児童クラブの利用終了時刻の希望を尋ねると、低学年では「17時台」と「18時台」まで希望する人の割合がそれぞれ40.9%で最も高い。高学年では「17時台」が42.9%で最も高い。

図表 81 平日の放課後の場所・事業の利用意向（低学年の間）



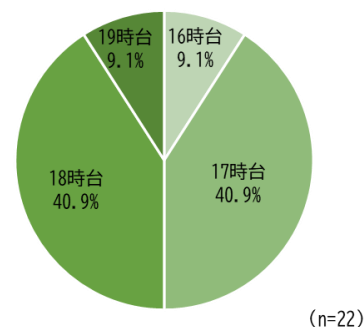
図表 82 平日の放課後の場所・事業の利用希望日数（低学年の間）

	1日 (人)	2日 (人)	3日 (人)	4日 (人)	5日 (人)	平均 (日)
自宅	7	13	13	3	11	1.7
祖父母宅や友人・知人宅	5	1	4	2	3	0.5
習い事	22	9	6	0	0	0.7
児童館	3	13	4	6	12	1.5
放課後児童クラブ (学童保育)	1	2	2	5	3	0.6
ファミリーサポートセンター	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0.0

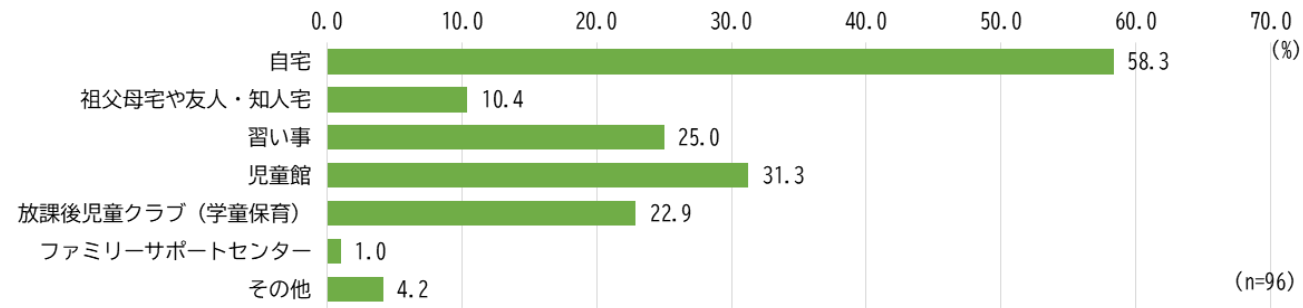
回答対象者：放課後児童クラブ（学童保育）の利用を希望する人

図表 83 放課後児童クラブ（学童保育）の利用終了希望時刻

	人数	割合 (%)
16時台	2	9.1
17時台	9	40.9
18時台	9	40.9
19時台	2	9.1
合計	22	100.0



図表 84 平日の放課後の場所・事業の利用意向（高学年になったら）



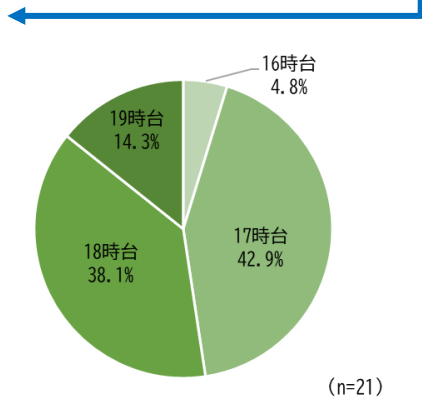
図表 85 平日の放課後の場所・事業の利用希望日数（高学年になったら）

	1日 (人)	2日 (人)	3日 (人)	4日 (人)	5日 (人)	平均 (日)
自宅	4	7	3	5	9	2.3
祖父母宅や友人・知人宅	5	1	3	0	1	0.5
習い事	12	10	3	0	0	1.0
児童館	2	4	1	0	2	0.6
放課後児童クラブ（学童保育）	0	2	3	0	1	0.5
ファミリーサポートセンター	0	0	0	0	0	0.0
その他	2	0	1	0	0	0.1

回答対象者：放課後児童クラブ（学童保育）の利用を希望する人

図表 86 放課後児童クラブ（学童保育）の利用終了希望時刻

	人数	割合(%)
16時台	1	4.8
17時台	9	42.9
18時台	8	38.1
19時台	3	14.3
合計	21	100.0



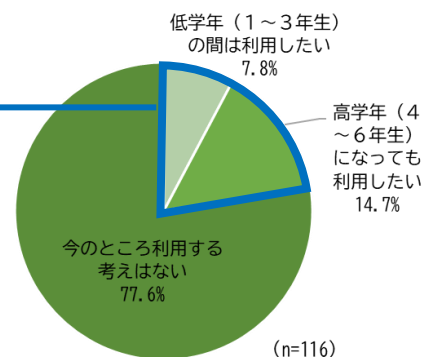
■平日以外の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望

1) 土曜日

- 土曜日に放課後児童クラブの利用を希望する人は22.5%である。
- 利用開始希望時刻は、「8時台」と答えた人の割合が、60.0%で最も高い。
- 利用終了希望時刻は、「18時台」が28.6%と最も高い。

図表 87 利用希望

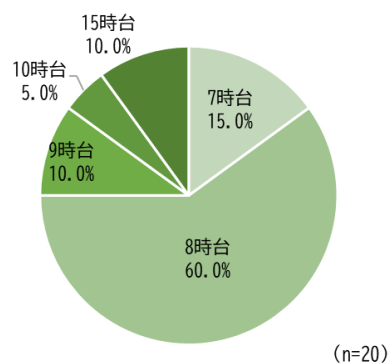
	人数	割合(%)
低学年（1～3年生）の間は利用したい	9	7.8
高学年（4～6年生）になっても利用したい	17	14.7
今のところ利用する考えはない	90	77.6
合計	116	100.0



回答対象者：利用を希望する人

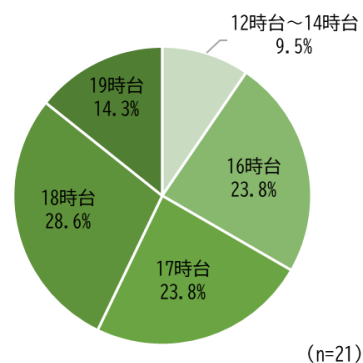
図表 88 利用開始希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	3	15.0
8時台	12	60.0
9時台	2	10.0
10時台	1	5.0
15時台	2	10.0
合計	20	100.0



図表 89 利用終了希望時刻

	人数	割合(%)
12時台～14時台	2	9.5
15時台	0	0.0
16時台	5	23.8
17時台	5	23.8
18時台	6	28.6
19時台	3	14.3
合計	21	100.0

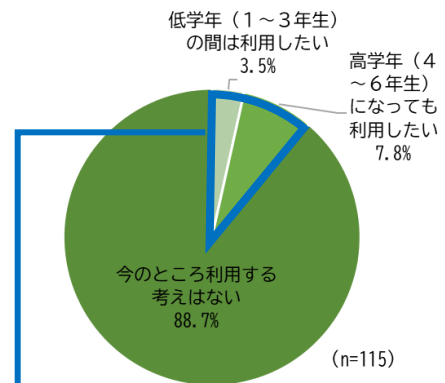


2) 日曜日・祝日

- ・ 日曜日・祝日に放課後児童クラブの利用を希望する人は11.3%である。
- ・ 利用開始希望時刻は、「8時台」と答えた人の割合が、75.0%で最も高い。
- ・ 利用終了希望時刻は、「18時台」と答えた人の割合が、37.5%で最も高い。

図表 90 利用希望

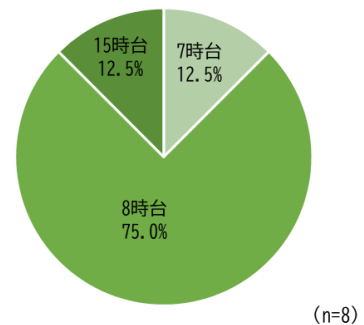
	人数	割合(%)
低学年（1～3年生）の間は利用したい	4	3.5
高学年（4～6年生）になっても利用したい	9	7.8
今のところ利用する考えはない	102	88.7
合計	115	100.0



回答対象者：利用を希望する人

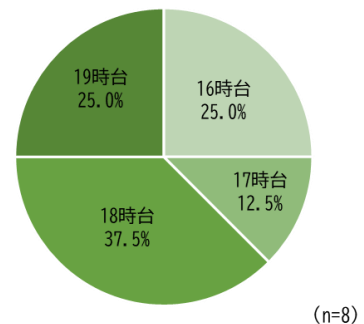
図表 91 利用開始希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	1	12.5
8時台	6	75.0
15時台	1	12.5
合計	8	100.0



図表 92 利用終了希望時刻

	人数	割合(%)
16時台	2	25.0
17時台	1	12.5
18時台	3	37.5
19時台	2	25.0
合計	8	100.0

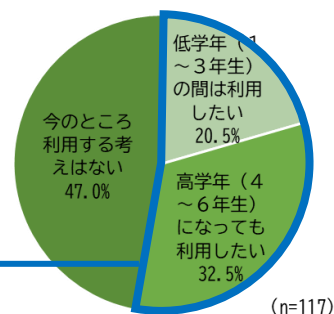


3) 長期休暇期間中（夏休み・冬休み）

- ・ 長期休暇期間中に放課後児童クラブの利用を希望する人は 53.0%である。
- ・ 利用開始希望時刻は、「8時台」と答えた人の割合が、51.7%で最も高い。
- ・ 利用終了希望時刻は、「18時台」と答えた人の割合が、37.3%で最も高い。

図表 93 利用希望

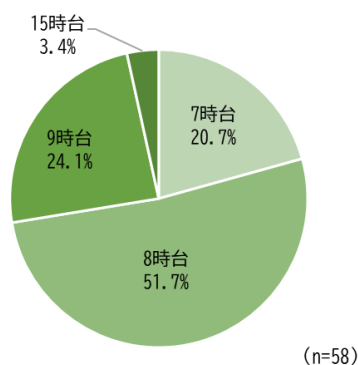
	人数	割合(%)
低学年（1～3年生）の間は利用したい	24	20.5
高学年（4～6年生）になっても利用したい	38	32.5
今のところ利用する考えはない	55	47.0
合計	117	100.0



回答対象者：利用を希望する人

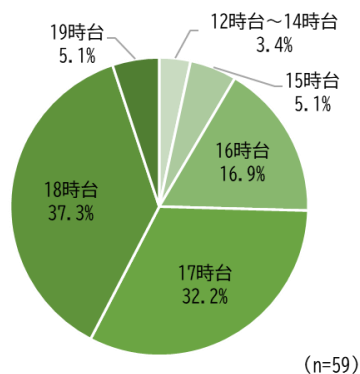
図表 94 利用開始希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	12	20.7
8時台	30	51.7
9時台	14	24.1
15時台	2	3.4
合計	58	100.0



図表 95 利用終了希望時刻

	人数	割合(%)
12時台～14時台	2	3.4
15時台	3	5.1
16時台	10	16.9
17時台	19	32.2
18時台	22	37.3
19時台	3	5.1
合計	59	100.0

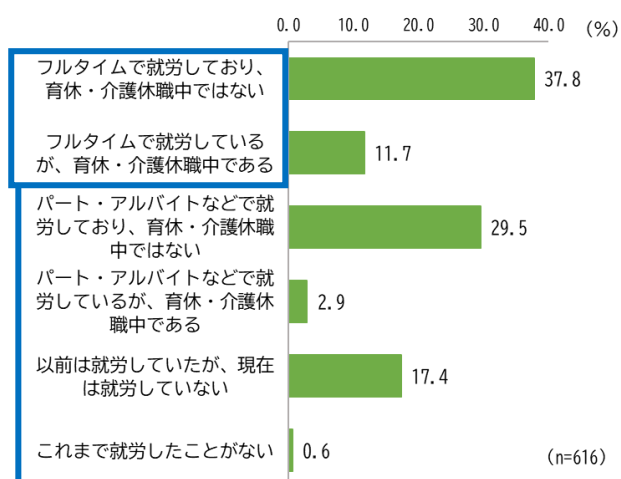


(9) 母親の就労の状況

- 母親がフルタイムで就労している割合は 49.5%、パート・アルバイトなどで就労している割合は 32.4% である（それぞれ休職中を含む）。
- フルタイムで就労している人の内訳を見ると、「正社員・正規職員」が 79.0% で最多である。

図表 96 就労状況

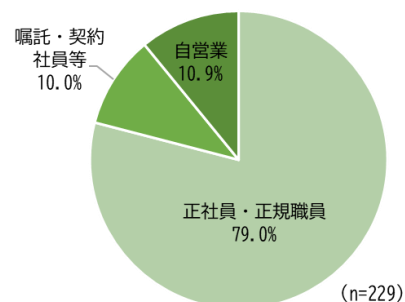
	人数	割合(%)
フルタイムで就労しており、 育休・介護休職中ではない	233	37.8
フルタイムで就労している が、育休・介護休職中である	72	11.7
パート・アルバイトなどで就 労しており、育休・介護休職 中ではない	182	29.5
パート・アルバイトなどで就 労しているが、育休・介護休 職中である	18	2.9
以前は就労していたが、現在 は就労していない	107	17.4
これまで就労したことがない	4	0.6
合計	616	100.0



回答対象者：フルタイムで就労している人（休職中含む）

図表 97 就労形態

	人数	割合(%)
正社員・正規職員	181	79.0
嘱託・契約社員等	23	10.0
自営業	25	10.9
合計	229	100.0

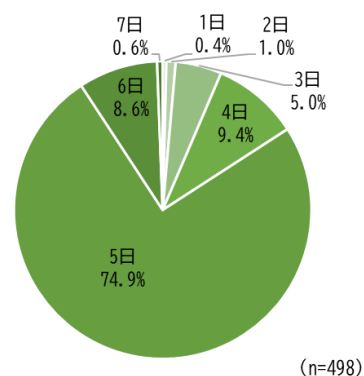


- 就労中の人の1週あたりの就労日数は、「5日」の割合が74.9%で最も高く、次いで「4日」が9.4%、「6日」が8.6%である。
- 1日あたりの就労時間は、「5時間以上8時間未満」の割合が50.9%で最も高く、次いで「8時間以上10時間未満」が39.8%である。

回答対象者：就労中の人（休職中含む）

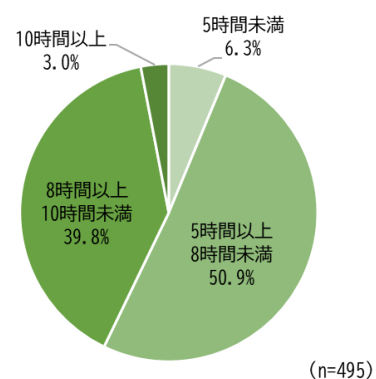
図表 98 1 週あたりの就労日数

	人数	割合(%)
1日	2	0.4
2日	5	1.0
3日	25	5.0
4日	47	9.4
5日	373	74.9
6日	43	8.6
7日	3	0.6
合計	498	100.0



図表 99 1 日あたりの就労時間

	人数	割合(%)
5時間未満	31	6.3
5時間以上8時間未満	252	50.9
8時間以上10時間未満	197	39.8
10時間以上	15	3.0
合計	495	100.0

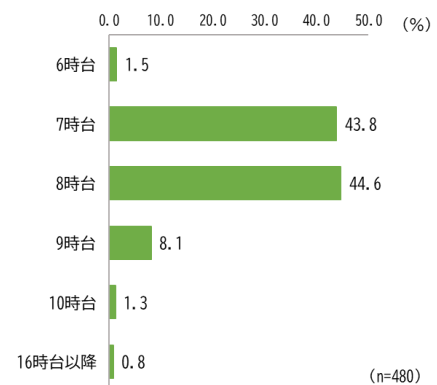


- ・ 家を出る時間は、「8時台」の割合が最も高く 44.6%で、次いで「7時台」が 43.8%である。
- ・ 帰宅時間は、「18時台」の割合が最も高く 34.7%で、次いで「17時台」が 27.2%である。
- ・ 土曜日に就労している人は 47.4%、日曜日に就労している人は 22.5%である。

回答対象者：就労中の人（休職中含む）

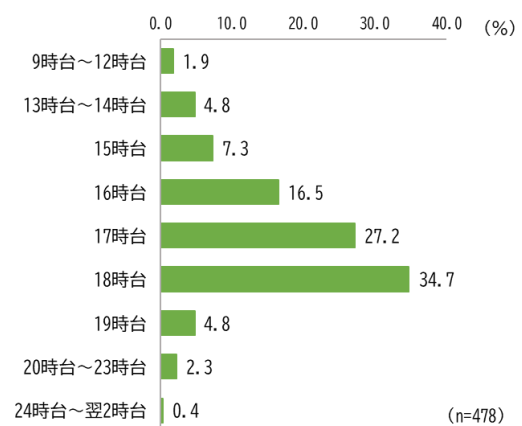
図表 100 家を出る時間

	人数	割合(%)
6時台	7	1.5
7時台	210	43.8
8時台	214	44.6
9時台	39	8.1
10時台	6	1.3
16時台以降	4	0.8
合計	480	100.0



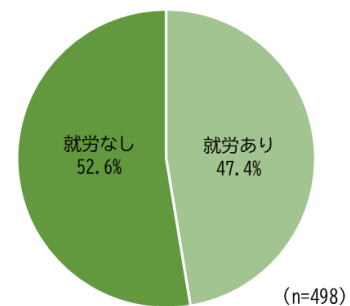
図表 101 帰宅時間

	人数	割合(%)
9時台～12時台	9	1.9
13時台～14時台	23	4.8
15時台	35	7.3
16時台	79	16.5
17時台	130	27.2
18時台	166	34.7
19時台	23	4.8
20時台～23時台	11	2.3
24時台～翌2時台	2	0.4
合計	478	100.0



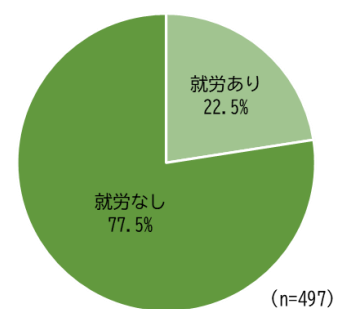
図表 102 土曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	236	47.4
就労なし	262	52.6
合計	498	100.0



図表 103 日曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	112	22.5
就労なし	385	77.5
合計	497	100.0

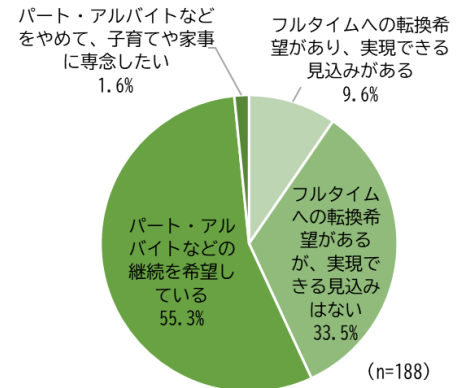


- パート・アルバイト等で就労している人のうち、そのままの就労形態を希望している人は 55.3%である。
- 一方、フルタイムへの転換希望がある人は 43.1%で、そのうち希望を叶えられる見込みがあるのは 9.6%である。

回答対象者：パート・アルバイト等で就労している人

図表 104 フルタイムへの転換希望

	人数	割合(%)
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	18	9.6
フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない	63	33.5
パート・アルバイトなどの継続を希望している	104	55.3
パート・アルバイトなどをやめて、子育てや家事に専念したい	3	1.6
合計	188	100.0

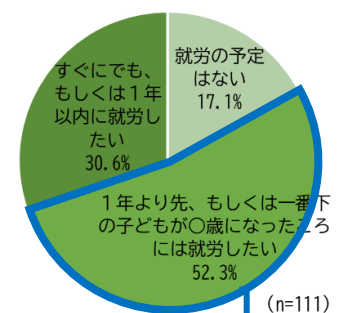


- 現在就労していない人のうち、就労の予定がない人は 17.1%である。
- 一方、1年より先、もしくは一番下の子どもが一定年齢以上になってから就労したい人は 52.3%、すぐにでも、または1年以内に就労したい人は 30.6%である。
- 就労時の末子の年齢の希望は、「3歳」の割合が 39.3%で最も高く、次いで「4歳」が 19.6%である。

回答対象者：現在就労していない人

図表 105 就労への希望

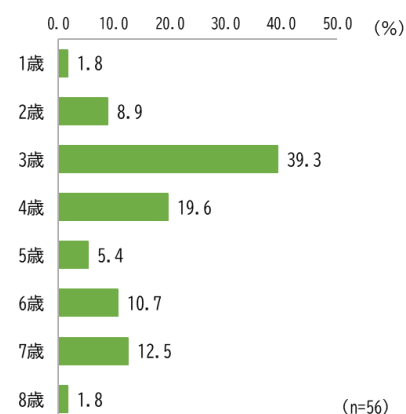
	人数	割合(%)
就労の予定はない	19	17.1
1年より先、もしくは一番下の子どもが〇歳になったころには就労したい	58	52.3
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	34	30.6
合計	111	100.0



回答対象者：「一番下の子どもが〇歳になったころには就労したい」と回答した人

図表 106 就労時の末子の年齢の希望

	人数	割合(%)
1歳	1	1.8
2歳	5	8.9
3歳	22	39.3
4歳	11	19.6
5歳	3	5.4
6歳	6	10.7
7歳	7	12.5
8歳	1	1.8
合計	56	100.0

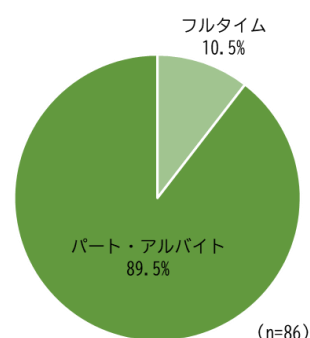


- ・ 現在就労していない人のうち、就労の希望がある人に働き方の意向を尋ねたところ、就労形態では「パート・アルバイト」の割合が 89.5%で最も高かった。
- ・ 1 週あたりの希望就労日数では「5 日」が 43.0%、1 日当たりの希望就労時間では「5 時間以上 6 時間未満」が 30.6%で最も高い。

回答対象者：現在就労していない人のうち、就労希望がある人

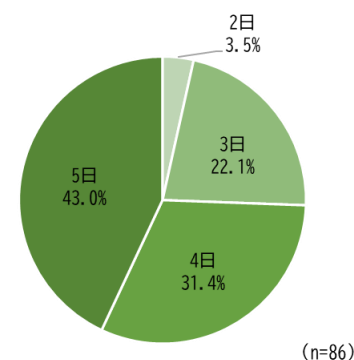
図表 107 希望する就労形態

	人数	割合(%)
フルタイム	9	10.5
パート・アルバイト	77	89.5
合計	86	100.0



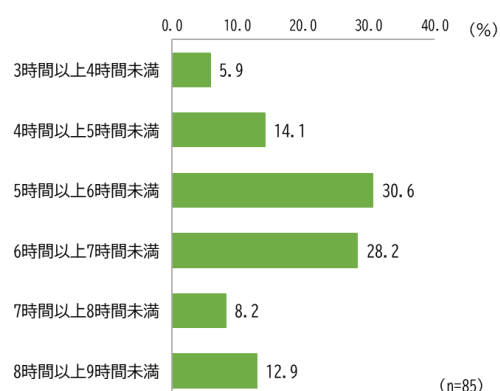
図表 108 1 週あたりの希望就労日数

	人数	割合(%)
2日	3	3.5
3日	19	22.1
4日	27	31.4
5日	37	43.0
合計	86	100.0



図表 109 1 日あたりの希望就労時間

	人数	割合(%)
3時間以上4時間未満	5	5.9
4時間以上5時間未満	12	14.1
5時間以上6時間未満	26	30.6
6時間以上7時間未満	24	28.2
7時間以上8時間未満	7	8.2
8時間以上9時間未満	11	12.9
合計	85	100.0

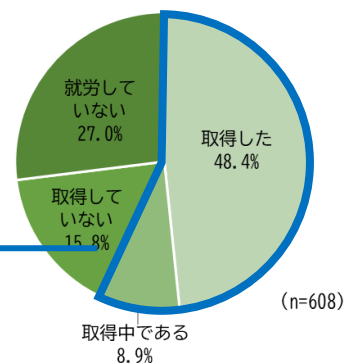


(10) 母親の育児休業

- ・ 育児休業を取得した、または取得中であると答えた人は 57.3%である。
- ・ 取得期間は「1年以上2年未満」の割合が 45.5%で最も高く、職場へ復帰する時点の子どもの年齢は「1歳以上1歳6ヶ月未満」の割合が 59.0%で最も高い。

図表 110 育児休業の取得状況

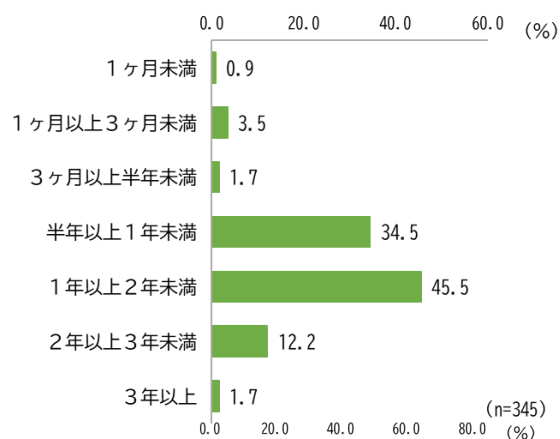
	人数	割合(%)
取得した	294	48.4
取得中である	54	8.9
取得していない	96	15.8
就労していない	164	27.0
合計	608	100.0



回答対象者：取得した、または取得中の人

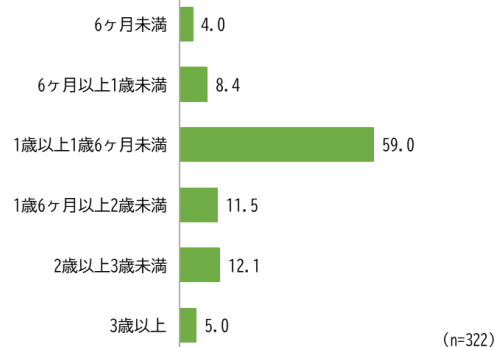
図表 111 育児休業の取得期間

	人数	割合(%)
1ヶ月未満	3	0.9
1ヶ月以上3ヶ月未満	12	3.5
3ヶ月以上半年未満	6	1.7
半年以上1年未満	119	34.5
1年以上2年未満	157	45.5
2年以上3年未満	42	12.2
3年以上	6	1.7
合計	345	100.0



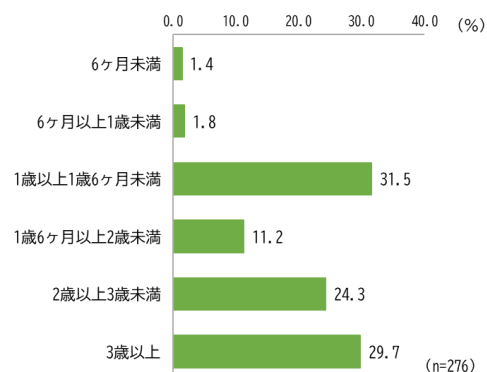
図表 112 職場への復帰時期

	人数	割合(%)
6ヶ月未満	13	4.0
6ヶ月以上1歳未満	27	8.4
1歳以上1歳6ヶ月未満	190	59.0
1歳6ヶ月以上2歳未満	37	11.5
2歳以上3歳未満	39	12.1
3歳以上	16	5.0
合計	322	100.0



図表 113 希望の復帰時期

	人数	割合(%)
6ヶ月未満	4	1.4
6ヶ月以上1歳未満	5	1.8
1歳以上1歳6ヶ月未満	87	31.5
1歳6ヶ月以上2歳未満	31	11.2
2歳以上3歳未満	67	24.3
3歳以上	82	29.7
合計	276	100.0

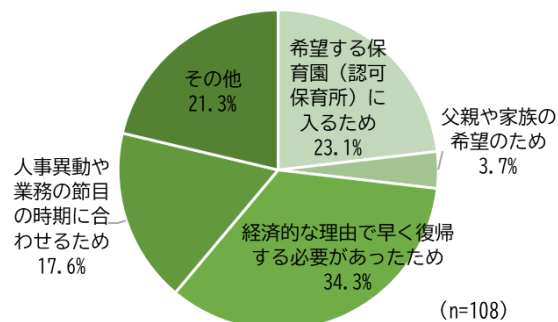


- ・ 復帰した人で、復帰時期が希望よりも早かった人にその理由を尋ねると、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」と答えた人の割合が 34.3%で最も高く、次いで「希望する保育園に入るため」が 23.1%であった。
- ・ 逆に、復帰した人で、復帰時期が希望よりも遅かった人にその理由を尋ねると、「希望する保育園に入れないため」と答えた人の割合が 80.0%で最も高かった。

回答対象者：復帰した人で、復帰時期が希望よりも早かった人

図表 114 復帰時期が希望よりも早かった理由

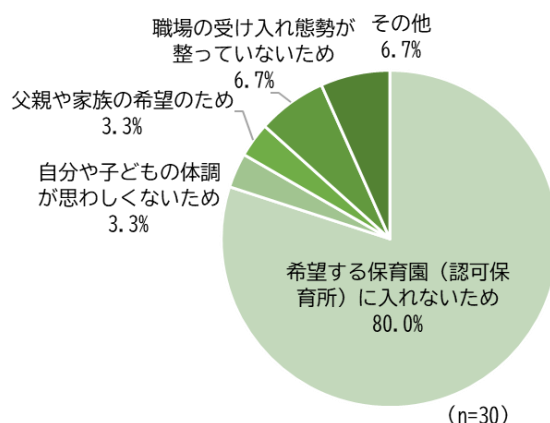
	人数	割合(%)
希望する保育園（認可保育所）に入るため	25	23.1
父親や家族の希望のため	4	3.7
経済的な理由で早く復帰する必要があったため	37	34.3
人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	19	17.6
その他	23	21.3
合計	108	100.0



回答対象者：復帰した人で、復帰時期が希望よりも遅かった人

図表 115 復帰時期が希望よりも遅かった理由

	人数	割合(%)
希望する保育園（認可保育所）に入れないため	24	80.0
自分や子どもの体調が思わしくないため	1	3.3
父親や家族の希望のため	1	3.3
職場の受け入れ態勢が整っていないため	2	6.7
その他	2	6.7
合計	30	100.0

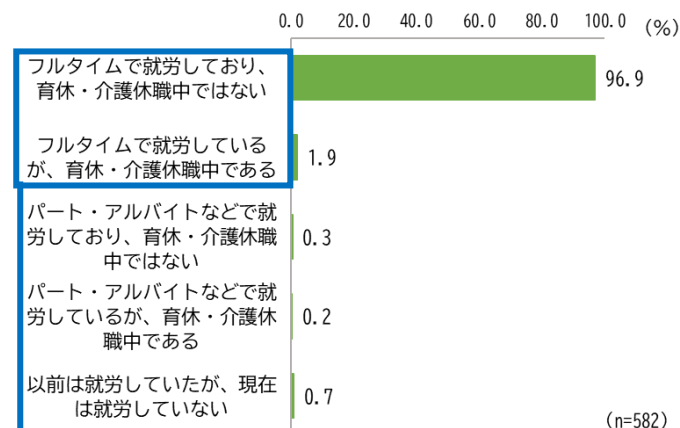


(11) 父親の就労状況

- 父親がフルタイムで就労している割合は 98.8% である。
- フルタイムで就労している人の内訳を見ると、「正社員・正規職員」が 87.5% で最多である。

図表 116 就労状況

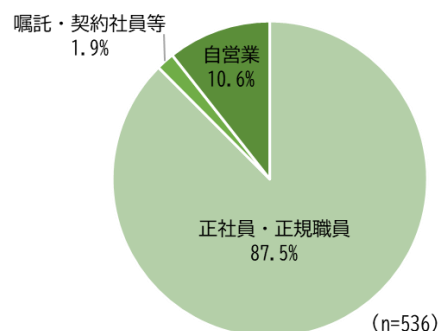
	人数	割合(%)
フルタイムで就労しており、育休・介護休職中ではない	564	96.9
フルタイムで就労しているが、育休・介護休職中である	11	1.9
パート・アルバイトなどで就労しており、育休・介護休職中ではない	2	0.3
パート・アルバイトなどで就労しているが、育休・介護休職中である	1	0.2
以前は就労していたが、現在は就労していない	4	0.7
合計	582	100.0



回答対象者：フルタイムで就労している人（休職中含む）

図表 117 就労形態

	人数	割合(%)
正社員・正規職員	469	87.5
嘱託・契約社員等	10	1.9
自営業	57	10.6
合計	536	100.0

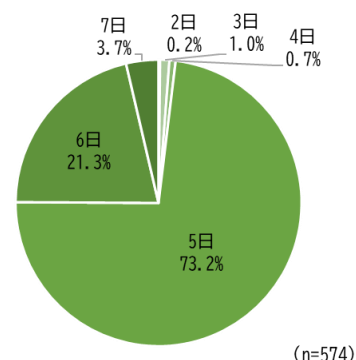


- 就労中の人の 1 週あたりの就労日数は、「5 日」の割合が最も高く 73.2%、次いで「6 日」が 21.3% である。
- 1 日あたりの就労時間は、「8 時間以上 10 時間未満」が 59.3%、「10 時間以上」が 29.8% である。

回答対象者：就労中の人（休職中含む）

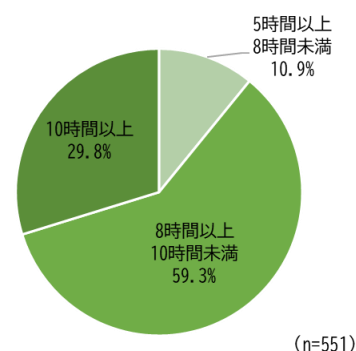
図表 118 1 週あたりの就労日数

	人数	割合(%)
2日	1	0.2
3日	6	1.0
4日	4	0.7
5日	420	73.2
6日	122	21.3
7日	21	3.7
合計	574	100.0



図表 119 1 日あたりの就労時間

	人数	割合(%)
5時間以上8時間未満	60	10.9
8時間以上10時間未満	327	59.3
10時間以上	164	29.8
合計	551	100.0

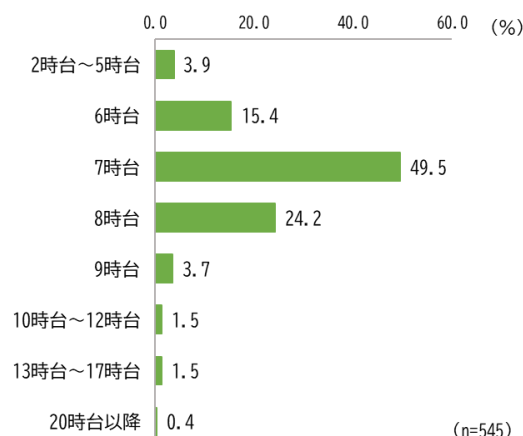


- 家を出る時間は、「7時台」が49.5%で最も高く、次いで「8時台」が24.2%である。
- 帰宅時間は、「18時台」が33.4%で最も高く、次いで「20～23時台」が24.7%、「19時台」が20.7%である。
- 土曜日に就労している人は62.3%、日曜日に就労している人は35.8%である。

回答対象者：就労中の人（休職中含む）

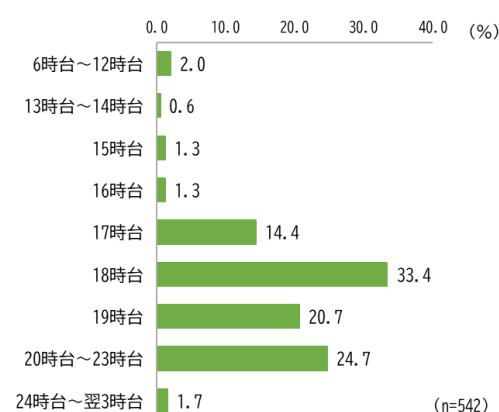
図表 120 家を出る時間

	人数	割合(%)
2時台～5時台	21	3.9
6時台	84	15.4
7時台	270	49.5
8時台	132	24.2
9時台	20	3.7
10時台～12時台	8	1.5
13時台～17時台	8	1.5
20時台以降	2	0.4
合計	545	100.0



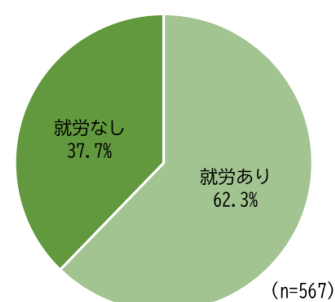
図表 121 帰宅時間

	人数	割合(%)
6時台～12時台	11	2.0
13時台～14時台	3	0.6
15時台	7	1.3
16時台	7	1.3
17時台	78	14.4
18時台	181	33.4
19時台	112	20.7
20時台～23時台	134	24.7
24時台～翌3時台	9	1.7
合計	542	100.0



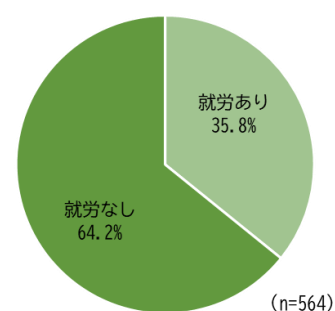
図表 122 土曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	353	62.3
就労なし	214	37.7
合計	567	100.0



図表 123 日曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	202	35.8
就労なし	362	64.2
合計	564	100.0

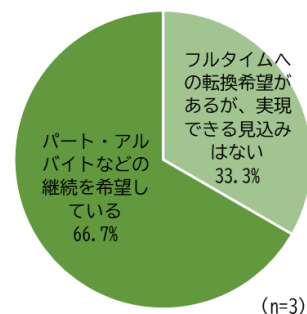


- パート・アルバイト等で就労している人のうち、そのままの就労形態を希望している人は 66.7%である。一方、フルタイムへの転換希望がある人は 33.3%である。
- 現在就労していない人のうち、すぐにでも、または1年以内に就労したい人は 75.0%、1年より先、または一番下の子どもが一定年齢になってから就労したい人は 25.0%である。

回答対象者：パート・アルバイト等で就労している人

図表 124 フルタイムへの転換希望

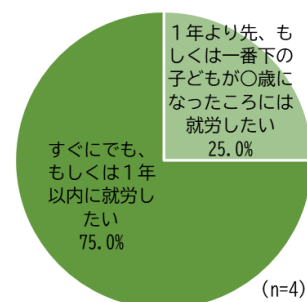
	人数	割合(%)
フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない	1	33.3
パート・アルバイトなどの継続を希望している	2	66.7
合計	3	100.0



回答対象者：現在就労していない人

図表 125 就労への希望

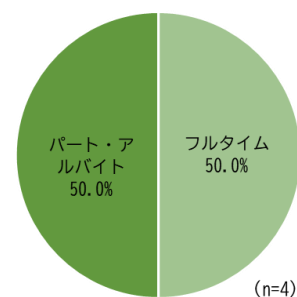
	人数	割合(%)
1年より先、もしくは一番下の子どもが〇歳になったところには就労したい	1	25.0
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	3	75.0
合計	4	100.0



回答対象者：就労希望がある人

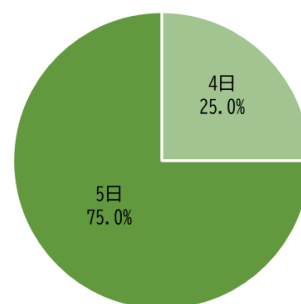
図表 126 希望する就労形態

	人数	割合(%)
フルタイム	2	50.0
パート・アルバイト	2	50.0
合計	4	100.0



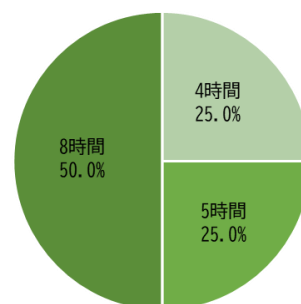
図表 127 1週あたりの希望就労日数

	人数	割合(%)
4日	1	25.0
5日	3	75.0
合計	4	100.0



図表 128 1日あたりの希望就労時間

	人数	割合(%)
4時間	1	25.0
5時間	1	25.0
8時間	2	50.0
合計	4	100.0

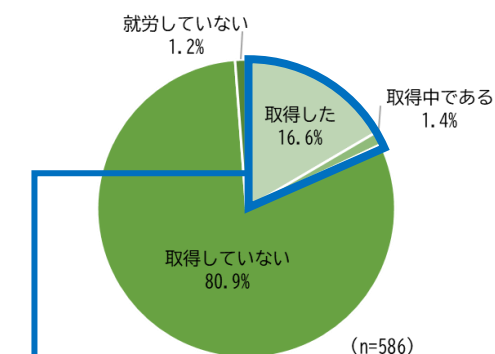


(12) 父親の育児休業

- ・ 育児休業を取得した、または取得中であると回答した人は 18.0%である。
- ・ 取得期間は「1ヶ月未満」の割合が 50.0%で最も高い。
- ・ 取得理由は「積極的に育児参加したいため」と答えた人の割合が 60.6%で最も高く、次いで「母親や家族の希望のため」が 52.9%、「職場の制度や理解が進んでいて取得しやすかったため」が 37.5%である。

図表 129 育児休業の取得状況

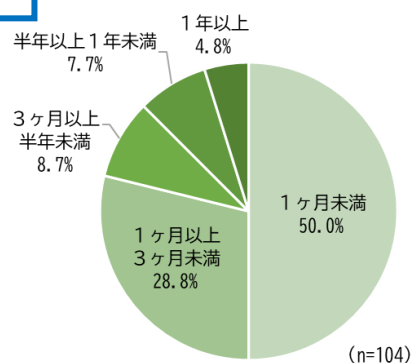
	人数	割合(%)
取得した	97	16.6
取得中である	8	1.4
取得していない	474	80.9
就労していない	7	1.2
合計	586	100.0



回答対象者：取得した、または取得中の人

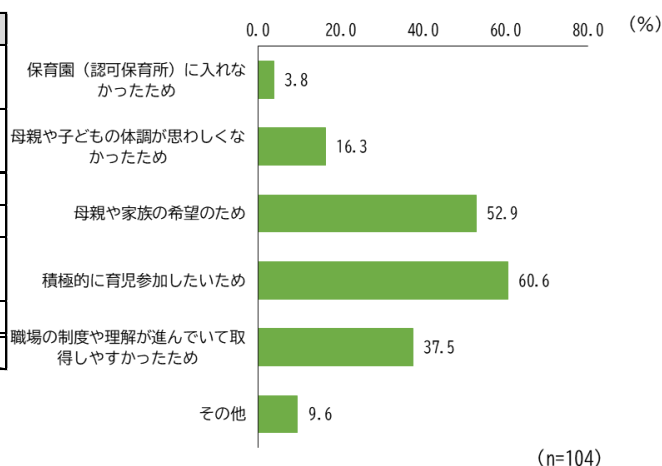
図表 130 育児休業の取得期間

	人数	割合(%)
1ヶ月未満	52	50.0
1ヶ月以上3ヶ月未満	30	28.8
3ヶ月以上半年未満	9	8.7
半年以上1年未満	8	7.7
1年以上	5	4.8
合計	104	100.0



図表 131 取得した理由（複数回答）

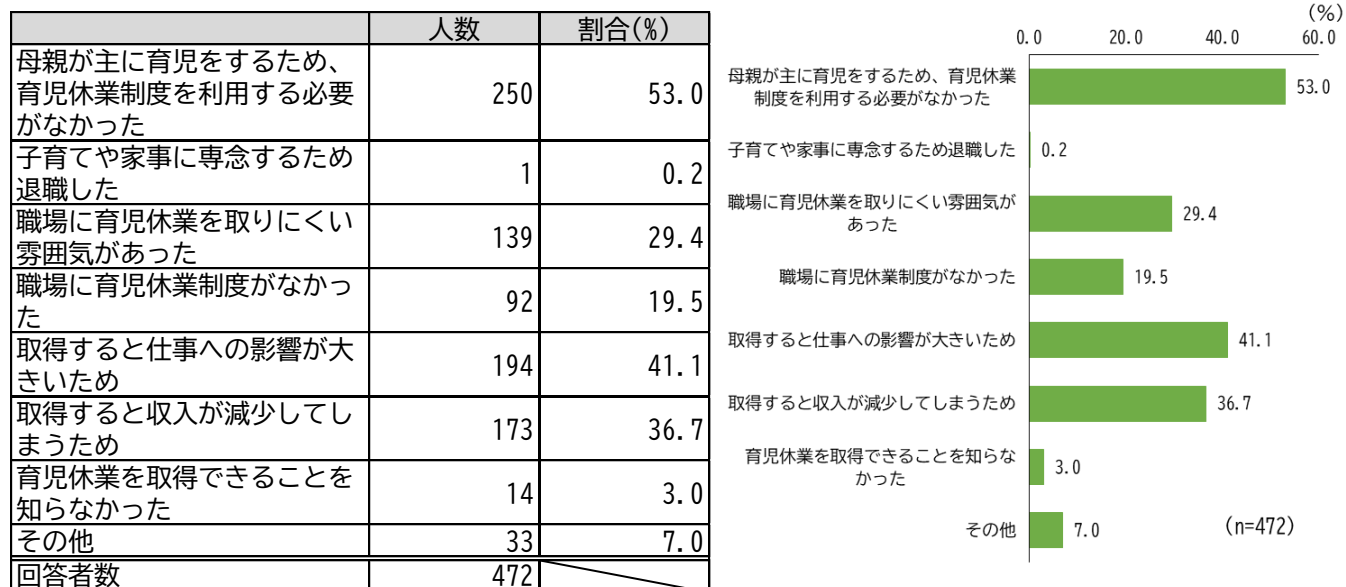
	人数	割合(%)
保育園（認可保育所）に入れなかったため	4	3.8
母親や子どもの体調が思わしくなかったため	17	16.3
母親や家族の希望のため	55	52.9
積極的に育児参加したいため	63	60.6
職場の制度や理解が進んでいて取得しやすかったため	39	37.5
その他	10	9.6
回答者数	104	



- ・ 育児休業を取得していない人にその理由を尋ねると、「母親が主に育児をするため育児休業制度を利用する必要がなかった」と答えた人の割合が 53.0%で最多であり、次いで「取得すると仕事への影響が大きい」が 41.1%、「取得すると収入が減少してしまうため」が 36.7%、であった。

回答対象者：取得していない人

図表 132 取得していない理由

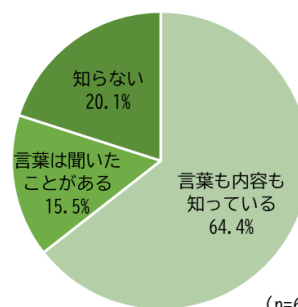


(13) ヤングケアラー

- ・ ヤングケアラーについて、「言葉も内容も知っている」と答えた人の割合が 64.4%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が 15.5%、「知らない」が 20.1%である。
- ・ 身近にヤングケアラーと思われる人がいた場合の対応方法としては、「本人に様子を聞く」と答えた人の割合が 51.1%で最も高い。

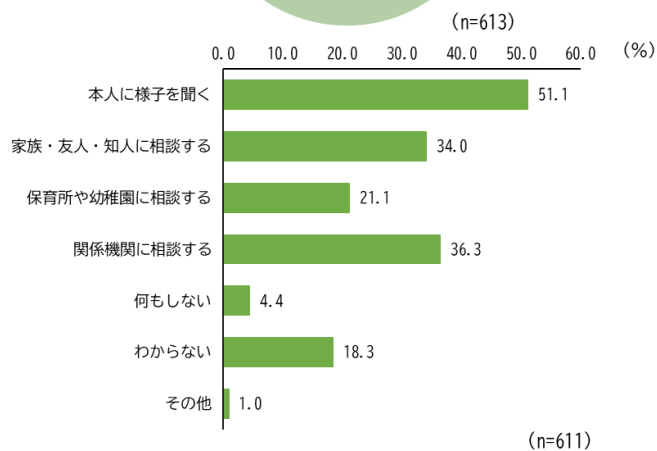
図表 133 「ヤングケアラー」という言葉の認知度

	人数	割合(%)
言葉も内容も知っている	395	64.4
言葉は聞いたことがある	95	15.5
知らない	123	20.1
合計	613	100.0



図表 134 ヤングケアラーへの想定される対応方法

	人数	割合(%)
本人に様子を聞く	312	51.1
家族・友人・知人に相談する	208	34.0
保育所や幼稚園に相談する	129	21.1
関係機関に相談する	222	36.3
何もしない	27	4.4
わからない	112	18.3
その他	6	1.0
回答者数	611	



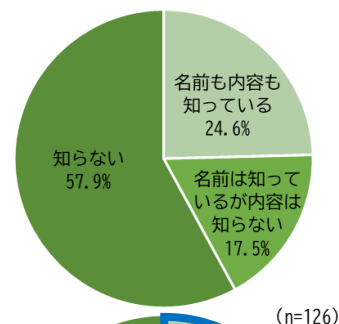
(14) こども誰でも通園制度

回答対象者：0～2歳で保育園等に通っていない子どもがいる人

- 「こども誰でも通園制度」について、「名前も内容も知っている」と答えた人は24.6%、「名前は知っているが内容は知らない」と答えた人は17.5%、「知らない」と答えた人は57.9%である。
- 制度を「とても利用したい」は17.3%、「できれば利用してみたい」は48.0%で、合わせると65.3%である。
- 利用を希望する理由としては、「育児疲れの軽減」と答えた人の割合が44.6%で最も高く、次いで「自分の自由時間を作るため」が43.6%、「求職活動のため」が19.8%である。

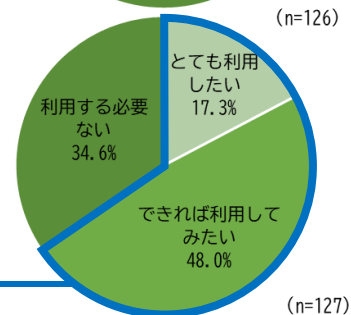
図表 135 「こども誰でも通園制度」の認知度

	人数	割合(%)
名前も内容も知っている	31	24.6
名前は知っているが内容は知らない	22	17.5
知らない	73	57.9
合計	126	100.0



図表 136 「こども誰でも通園制度」の利用意向

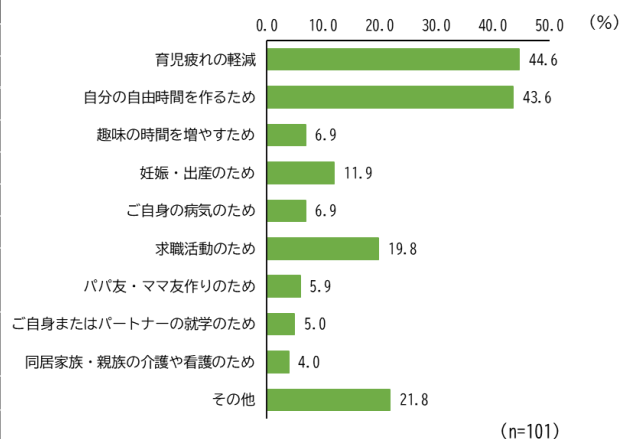
	人数	割合(%)
とても利用したい	22	17.3
できれば利用してみたい	61	48.0
利用する必要はない	44	34.6
合計	127	100.0



回答対象者：利用を希望する人

図表 137 利用を希望する理由

	人数	割合(%)
育児疲れの軽減	45	44.6
自分の自由時間を作るため	44	43.6
趣味の時間を増やすため	7	6.9
妊娠・出産のため	12	11.9
ご自身の病気のため	7	6.9
求職活動のため	20	19.8
パパ友・ママ友作りのため	6	5.9
ご自身またはパートナーの就学のため	5	5.0
同居家族・親族の介護や看護のため	4	4.0
その他	22	21.8
回答者数	101	

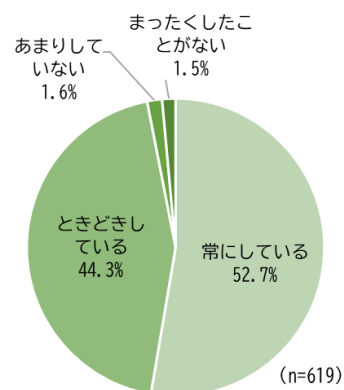


(15)「子どもの権利」

- 子どもからの意見や要望を取り入れるように意識しているかを尋ねると、「常にしている」と答えた人の割合が52.7%と最も高く、次いで「ときどきしている」が44.3%である。
- 「子どもの権利」について、「名前は知っているが内容は知らない」が42.4%で最も高く、次いで「名前も内容も知っている」と答えた人の割合が34.9%、「知らない」が22.7%である

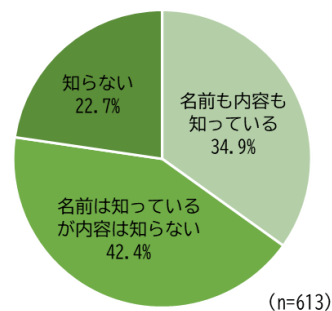
図表 138 子どもからの意見や要望を取り入れるように意識しているか

	人数	割合(%)
常にしている	326	52.7
ときどきしている	274	44.3
あまりしていない	10	1.6
まったくしたことがない	9	1.5
合計	619	100.0



図表 139 「子どもの権利」の認知度

	人数	割合(%)
名前も内容も知っている	214	34.9
名前は知っているが内容は知らない	260	42.4
知らない	139	22.7
合計	613	100.0

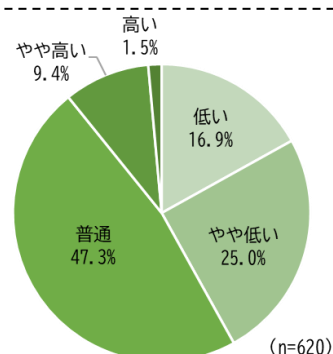


(16) 子育て全般

- ・ 小諸市における子育ての環境や支援の満足度は、「普通」の割合が 47.3%で最も高い。
- ・ 「低い」は 16.9%、「やや低い」は 25.0%で、合わせると 41.9%である。
- ・ 子育ての環境や支援に関する自由記述では、様々な要望が見られた。

図表 140 小諸市における子育て環境・支援への満足度

	人数	割合(%)
低い	105	16.9
やや低い	155	25.0
普通	293	47.3
やや高い	58	9.4
高い	9	1.5
合計	620	100.0



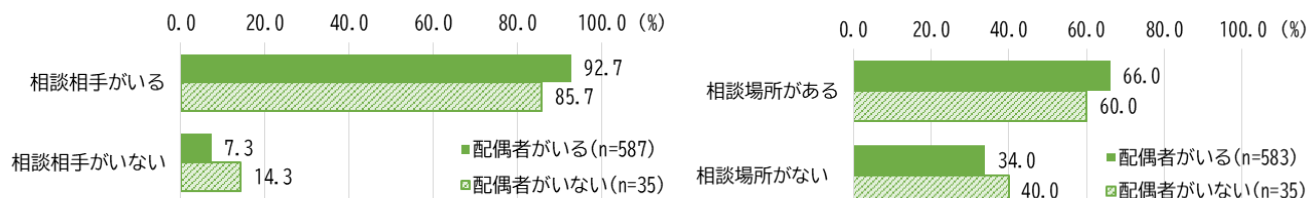
図表 141 自由記述欄に多く見られた要望

保育園の利用	・ 保育士の確保と保育園への受け入れ拡大 ・ 育休退園制度の撤廃 ・ 長期休暇期間中や土日祝日の負担軽減
子育て支援事業	・ 一時預かりやファミリーサポート事業の利用枠の拡大、低料金化
病児保育	・ 手続きの簡略化
子育て応援チケット	・ 増額や定期的な配布
保育料・副食費	・ 3歳未満児の保育料の負担軽減 ・ 3歳以上児の副食費無償化
医療費	・ 子どもの医療費の無償化 ・ 妊婦の医療費の低料金での定額化
子育て支援施設	・ 室内の遊び場の充実 ・ 公園・プールの整備 ・ こもロッジの日曜日・祝日利用や利用対象者の拡大 ・ 児童館利用料の無償化
子育て支援情報	・ 子育て支援情報の集約化、わかりやすい発信

(17) 属性等によるクロス集計結果

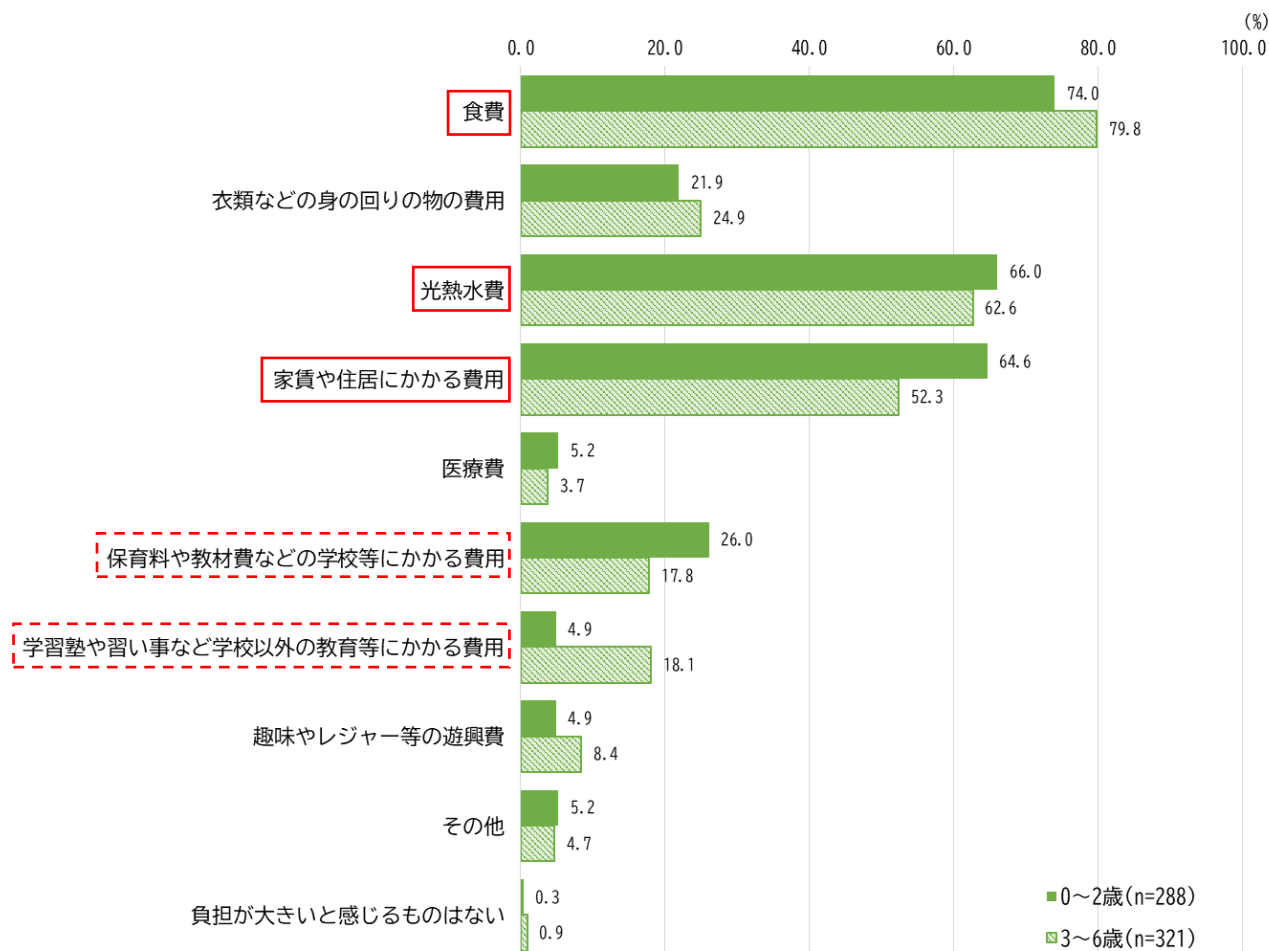
- 配偶者の有無別に、気軽に相談できる人や場所の有無をみると、配偶者がいない人の方が、配偶者がいる人に比べて、相談相手や相談場所がない場合が多くなっている。

図表 142 気軽に相談できる人がいるか／場所があるか（配偶者の有無別）



- 子どもの年齢別に負担が大きい支出をみると、どちらの場合も「食費」、「光熱水費」、「家賃や住居にかかる費用」の順に、割合が高くなっている。
- 「保育料や教材費などの学校等にかかる費用」は、特に0～2歳児の保護者で特に負担感が大きくなっている。一方、「学習塾や習い事など学校以外の教育等にかかる費用」は、特に3～6歳児の保護者で負担感が大きくなっている。

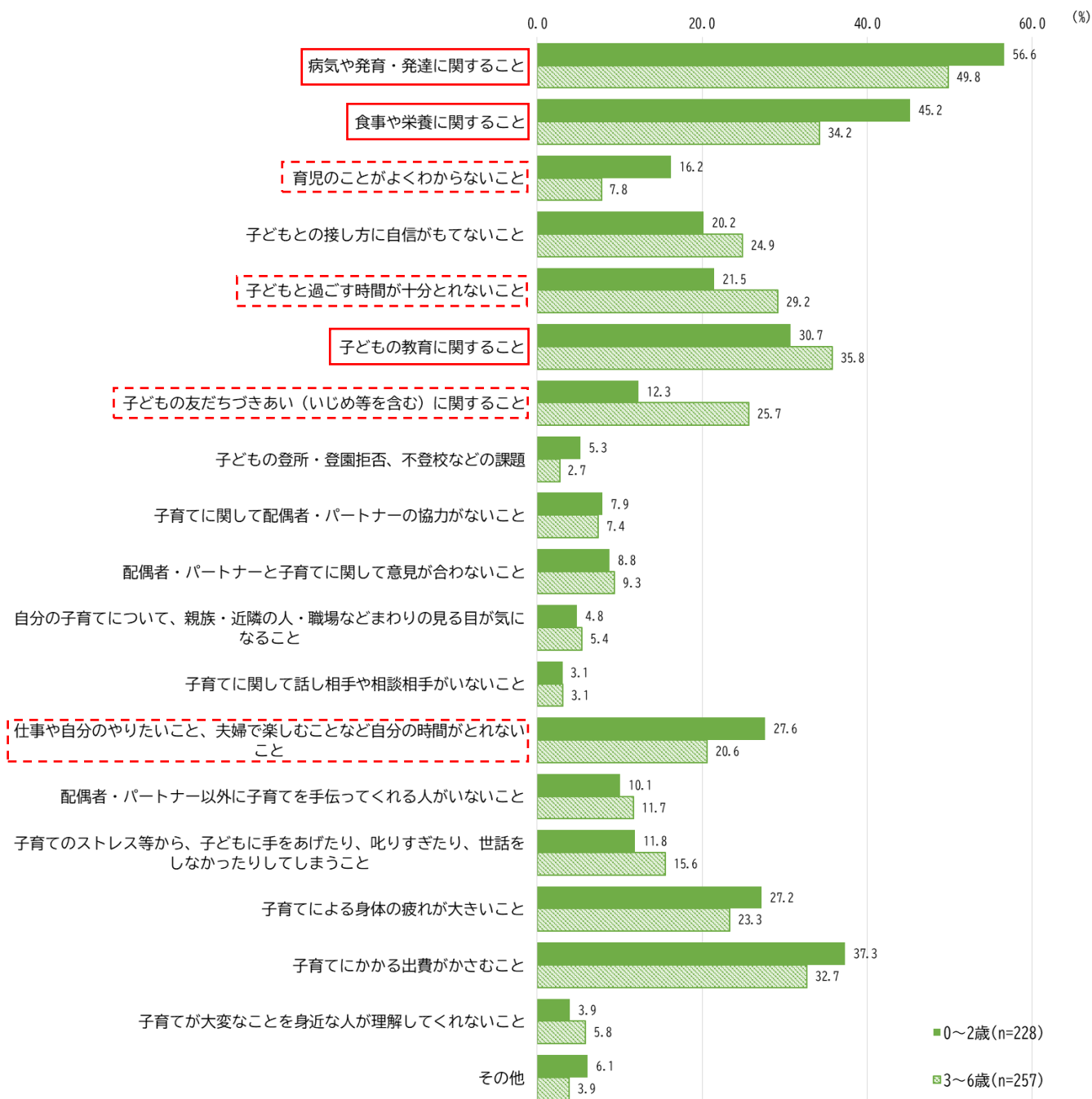
図表 143 負担が大きい支出（子どもの年齢別）



- 子どもの年齢別に、子育てをするうえで感じる悩みや不安の内容をみると、どちらの場合も最も割合が高いのは「病気や発育・発達に関すること」で、次いで、2歳以下の子どもの保護者では「食事や栄養に関すること」、3歳以上の子どもの保護者では「子どもの教育に関すること」が続く。
- 2つの層を比較して、特に2歳以下の子供の保護者からより多く挙げたのは「育児のことがよくわからないこと」や「仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間がとれないこと」といった項目である。一方、特に3歳以上の子どもの保護者からより多く挙げたのは「子どもと過ごす時間が十分とれないこと」や「子どもの友だちづきあいに関すること」などである。

回答対象者：悩みや不安が「ある」または「ときどきある」と回答した人

図表 144 子育てをするうえで感じる悩みや不安の内容（子どもの年齢別）



4 調査結果：小学生から高校生等の子どもの保護者

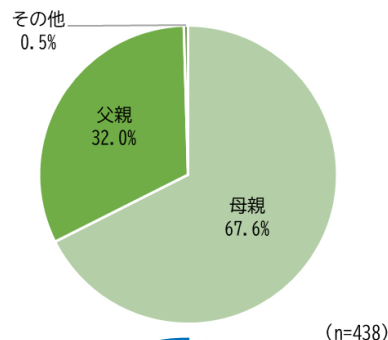
本章では、調査2（小学生から高校生等の子どもの保護者を対象とした調査）の結果を示す。

(1) 回答者

- 調査回答者は、母親が 67.6%、父親が 32.0%となっている。
- 配偶者は「いる」が 83.6%となっている。
- 回答者の年齢は、40 歳代の割合が 59.4%で最も高く、次いで 50 歳代が 25.5%、30 歳代が 12.4%となっている。

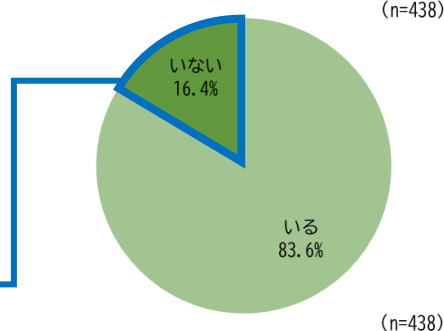
図表 145 調査回答者

	人数	割合(%)
母親	296	67.6
父親	140	32.0
その他	2	0.5
合計	438	100.0



図表 146 配偶者の有無

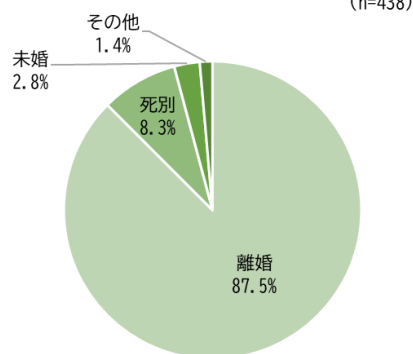
	人数	割合(%)
いる	366	83.6
いない	72	16.4
合計	438	100.0



回答対象者：配偶者がいない人

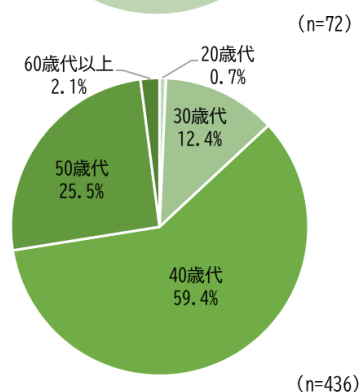
図表 147 配偶者無しの内訳

	人数	割合(%)
離婚	63	87.5
死別	6	8.3
未婚	2	2.8
その他	1	1.4
合計	72	100.0



図表 148 年齢

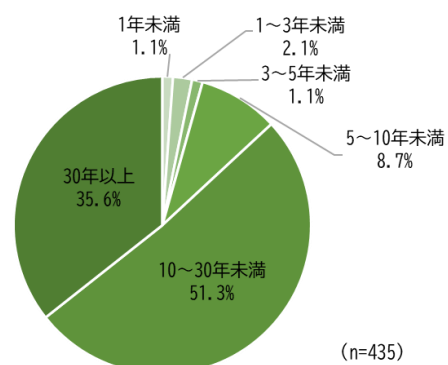
	人数	割合(%)
20歳代	3	0.7
30歳代	54	12.4
40歳代	259	59.4
50歳代	111	25.5
60歳代以上	9	2.1
合計	436	100.0



- 小諸市の居住年数は、10～30年未満の割合が51.3%で最も高い。10年以上居住している人は、86.9%となっている。

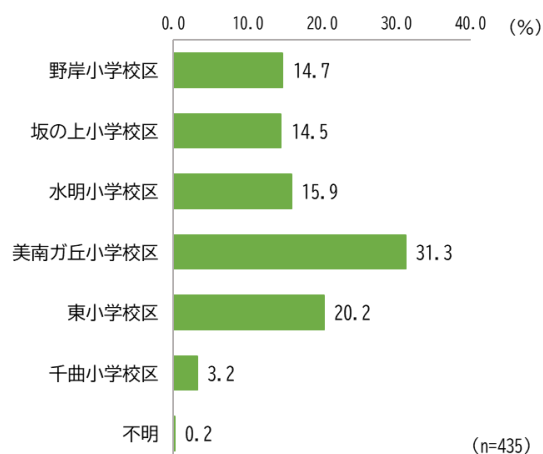
図表 149 小諸市の居住年数

	人数	割合(%)
1年未満	5	1.1
1～3年未満	9	2.1
3～5年未満	5	1.1
5～10年未満	38	8.7
10～30年未満	223	51.3
30年以上	155	35.6
合計	435	100.0



図表 150 居住地区

	人数	割合(%)
野岸小学校区	64	14.7
坂の上小学校区	63	14.5
水明小学校区	69	15.9
美南ガ丘小学校区	136	31.3
東小学校区	88	20.2
千曲小学校区	14	3.2
不明	1	0.2
合計	435	100.0

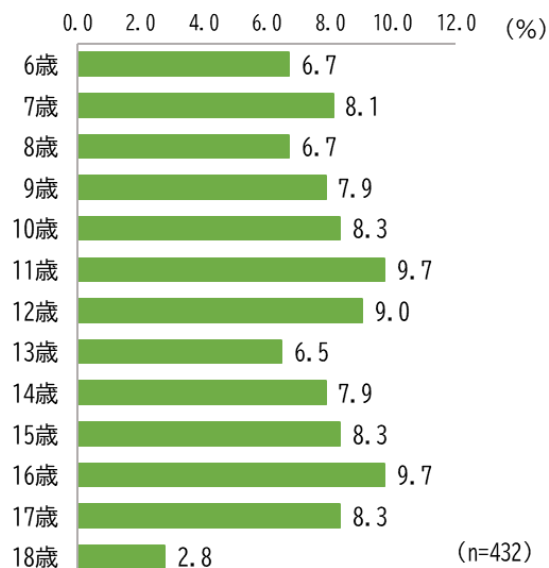


(2) 子どもとその家族の状況

- あて名の子どもの年齢は、11歳と16歳の割合が最も高く9.7%である。
- あて名の子どもの性別は、男子が51.0%、女子が49.0%である。
- 子どもの人数は、「2人」の割合が48.6%で最も高く、次いで「1人」が25.3%、「3人」が21.9%である。

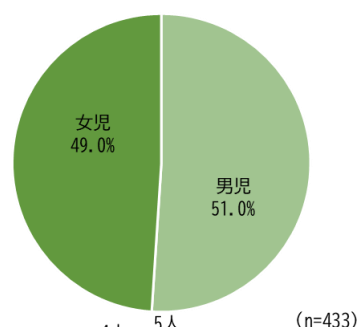
図表 151 あて名の子どもの年齢

	人数	割合(%)
6歳	29	6.7
7歳	35	8.1
8歳	29	6.7
9歳	34	7.9
10歳	36	8.3
11歳	42	9.7
12歳	39	9.0
13歳	28	6.5
14歳	34	7.9
15歳	36	8.3
16歳	42	9.7
17歳	36	8.3
18歳	12	2.8
合計	432	100.0



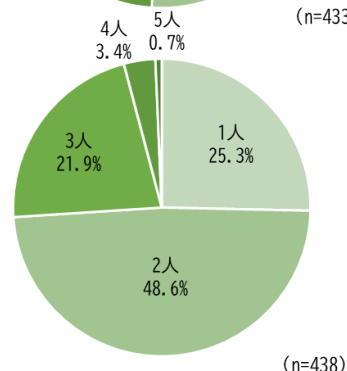
図表 152 あて名の子どもの性別

	人数	割合(%)
男児	221	51.0
女児	212	49.0
合計	433	100.0



図表 153 子どもの人数

	人数	割合(%)
1人	111	25.3
2人	213	48.6
3人	96	21.9
4人	15	3.4
5人	3	0.7
合計	438	100.0



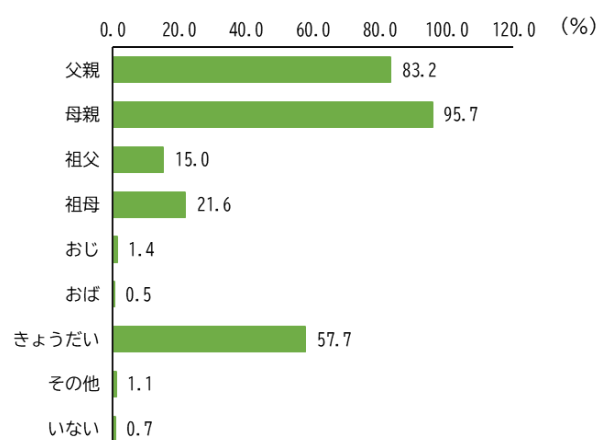
図表 154 子どもの年齢内訳

	1人	2人	3人	4人	合計
就学前児童	5	0	0	0	5
小学校低学年(1~3年生)	99	8	0	0	107
小学校高学年(4~6年生)	157	12	0	0	169
中学生	165	27	0	0	192
高校生・高専生	173	8	1	0	182
短大生・専門学校生・大学生・大学院生	72	7	0	0	79

- 同居者では母親の割合が 95.7%と最も高く、次いで父親が 83.2%である。きょうだい同居している割合は 57.7%である。
- 同居人数は、「4人」の割合が 35.5%で最も高く、次いで「3人」が 28.7%、「5人」が 19.1%である。

図表 155 同居者（複数回答）

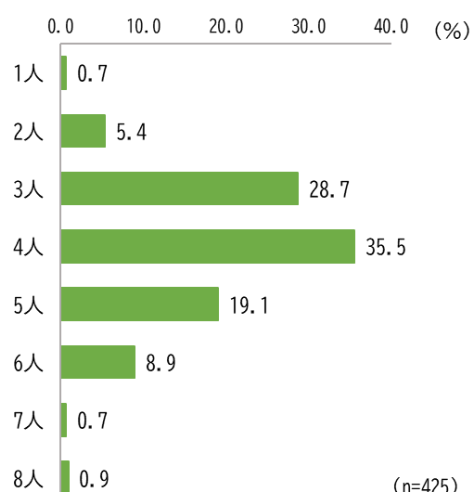
	人数	割合(%)
父親	366	83.2
母親	421	95.7
祖父	66	15.0
祖母	95	21.6
おじ	6	1.4
おば	2	0.5
きょうだい	254	57.7
その他	5	1.1
いない	3	0.7
回答者数	440	



(n=440)

図表 156 同居人数

	人数	割合(%)
1人	3	0.7
2人	23	5.4
3人	122	28.7
4人	151	35.5
5人	81	19.1
6人	38	8.9
7人	3	0.7
8人	4	0.9
合計	425	100.0

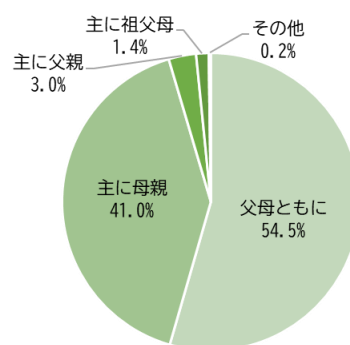


(n=425)

- 子育てを主に行っている人は、「父母ともに」の割合が 54.5%で最も高く、次いで「主に母親」が 41.0%である。「主に父親」は 3.0%となっている。
- 父親の最終学歴は、「大学またはそれ以上」の割合が 33.7%で最も高い。
- 母親の最終学歴は、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が 44.9%で最も高い。

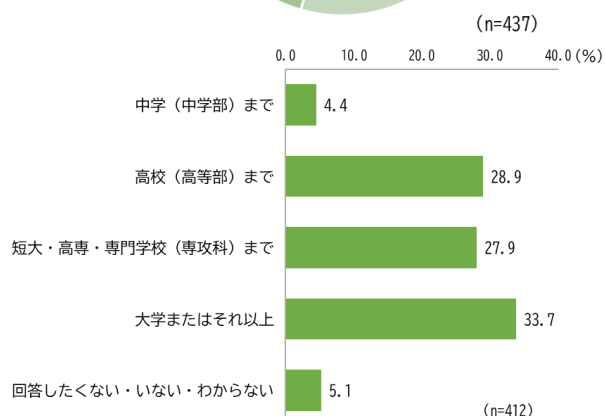
図表 157 子育てを主に行っている人

	人数	割合(%)
父母ともに	238	54.5
主に母親	179	41.0
主に父親	13	3.0
主に祖父母	6	1.4
その他	1	0.2
合計	437	100.0



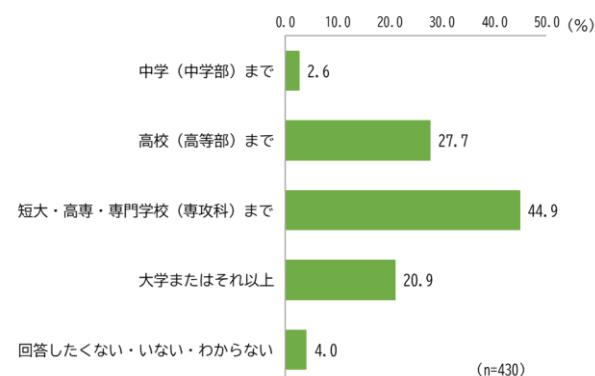
図表 158 父親の最終学歴

	人数	割合(%)
中学（中学部）まで	18	4.4
高校（高等部）まで	119	28.9
短大・高専・専門学校（専攻科）まで	115	27.9
大学またはそれ以上	139	33.7
回答したくない・いない・わからない	21	5.1
合計	412	100.0



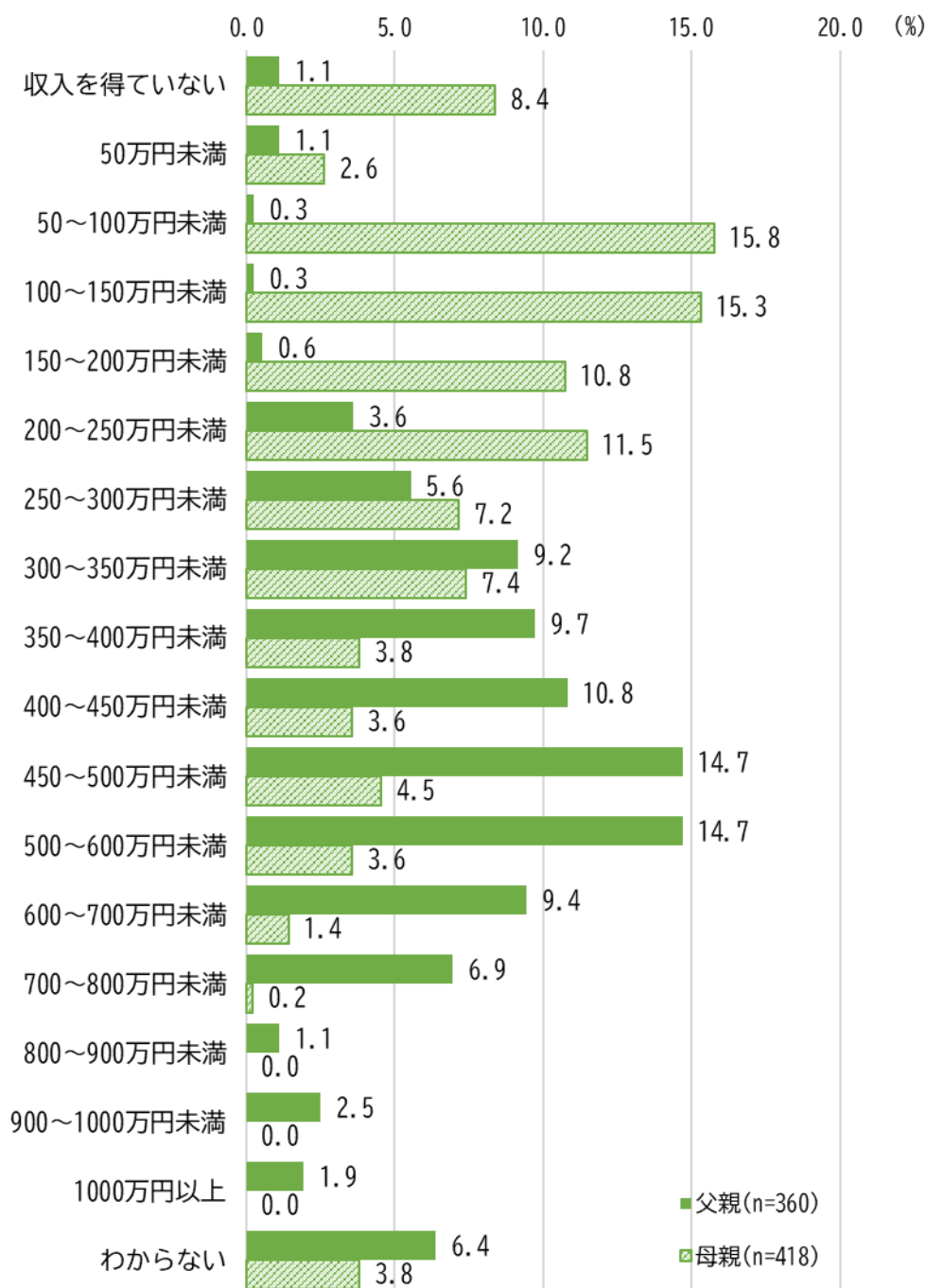
図表 159 母親の最終学歴

	人数	割合(%)
中学（中学部）まで	11	2.6
高校（高等部）まで	119	27.7
短大・高専・専門学校（専攻科）まで	193	44.9
大学またはそれ以上	90	20.9
回答したくない・いない・わからない	17	4.0
合計	430	100.0



- 父親の年収は、「450～500 万円未満」と「500～600 万円未満」の割合が、ともに 14.7%で高い。
- 母親の年収は、「50～100 万円未満」の割合が 15.8%で最も高く、次いで「100～150 万円未満」が 15.3%である。

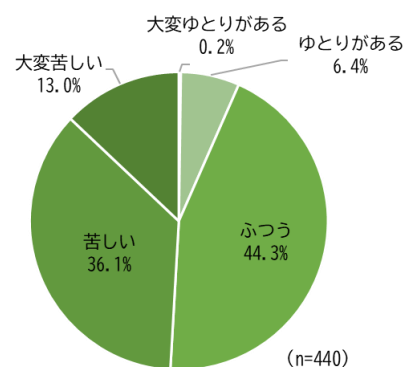
図表 160 父母の年収



- 暮らしにゆとりがあるかを尋ねると、最も割合が高い回答は「ふつう」で 44.3%となった。「苦しい」は 36.1%、「大変苦しい」は 13.0%で、合わせると 49.1%を占めている。
- 負担が大きい支出については、「食費」と答えた人の割合が 75.7%で最も高く、次いで「光熱水費」が 51.9%、「家賃や住居にかかる費用」が 40.8%である。

図表 161 暮らしにゆとりがあるか

	人数	割合(%)
大変ゆとりがある	1	0.2
ゆとりがある	28	6.4
ふつう	195	44.3
苦しい	159	36.1
大変苦しい	57	13.0
合計	440	100.0



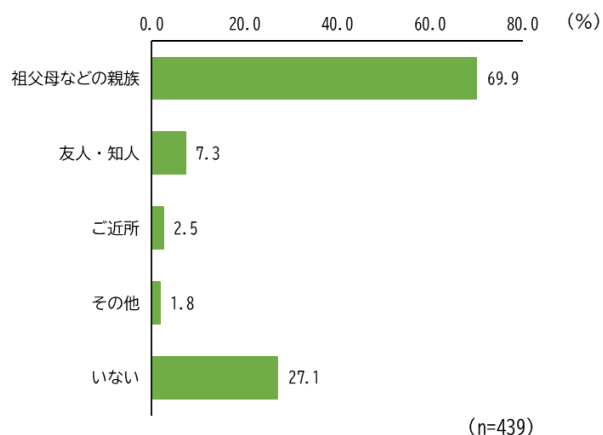
図表 162 負担が大きい支出（複数回答）

	人数	割合(%)
食費	334	75.7
衣類などの身の回りの物の費用	81	18.4
光熱水費	229	51.9
家賃や住居にかかる費用	180	40.8
医療費	22	5.0
授業料や教材費などの学校等にかかる費用	123	27.9
学校の部活にかかる費用	31	7.0
学習塾や習い事など学校以外の教育等にかかる費用	142	32.2
趣味やレジャー等の遊興費	16	3.6
その他	33	7.5
負担が大きいと感じるものはない	3	0.7
回答者数	441	

- 子どもを預けられる人としては、「祖父母などの親族」の割合が、日常では 69.9%、緊急時では 80.1% で、ともに最も高い。
- 「いない」と答えた人は、日常では 27.1%、緊急時では 16.7%となっている。

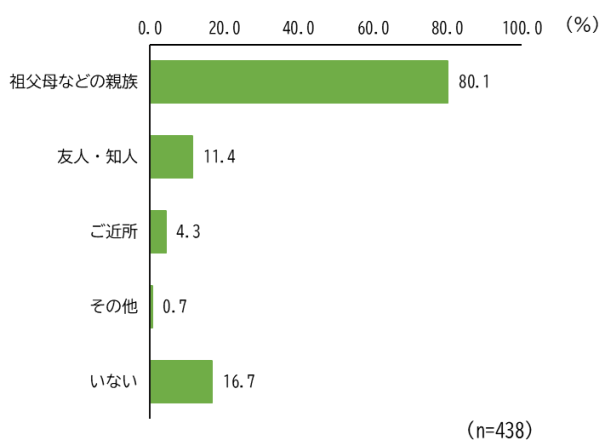
図表 163 日常で子どもを預けられる人（複数回答）

	人数	割合(%)
祖父母などの親族	307	69.9
友人・知人	32	7.3
ご近所	11	2.5
その他	8	1.8
いない	119	27.1
回答者数	439	



図表 164 緊急時に子どもを預けられる人（複数回答）

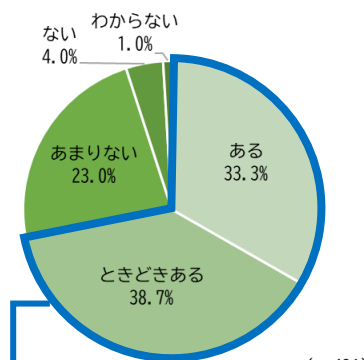
	人数	割合(%)
祖父母などの親族	351	80.1
友人・知人	50	11.4
ご近所	19	4.3
その他	3	0.7
いない	73	16.7
回答者数	438	



- ・ 子育てをするうえで悩みや不安が「ある」、「ときどきある」と答えた人は合わせて 72.0%であった。
- ・ 内容としては「子どもの教育に関すること」が 68.3%で最多であった。

図表 165 子育てをするうえで悩みや不安があるか

	人数	割合(%)
ある	140	33.3
ときどきある	163	38.7
あまりない	97	23.0
ない	17	4.0
わからない	4	1.0
合計	421	100.0



回答対象者: 「ある」または「ときどきある」と回答した人

(n=421)

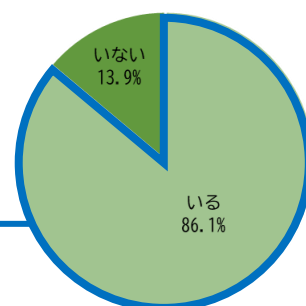
図表 166 悩みや不安の内容 (複数回答)

	人数	割合(%)
病気や発育・発達に関すること	105	34.7
食事や栄養に関すること	51	16.8
子育てのことがよくわからないこと	20	6.6
子どもとの接し方に自信がもてないこと	45	14.9
子どもと過ごす時間が十分とれないこと	82	27.1
子どもの教育に関すること (進学や就職等を含む)	207	68.3
子どもの友だちづきあい (いじめ等を含む) に関すること	91	30.0
子どもの登校拒否、不登校などの課題	38	12.5
子育てに関して配偶者・パートナーの協力がいないこと	27	8.9
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	26	8.6
自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場などまわりの見目が気になること	12	4.0
子育てに関して話し相手や相談相手がいないこと	19	6.3
仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間がとれないこと	51	16.8
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	19	6.3
子育てのストレス等から、子どもに手をあげたり、叱りすぎたり、世話をしなかったりしてしまうこと	22	7.3
子育てによる身体の疲れが大きいこと	25	8.3
子育てにかかる出費がかさむこと	113	37.3
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれないこと	11	3.6
その他	9	3.0
回答者数	303	

- 子育てをするうえで、気軽に相談できる人が「いる」と答えた人は86.1%、「いない」は13.9%である。
- 相談相手は「配偶者」の割合が最も高く66.6%、「祖父母などの親族」が62.3%、「友人や知人」が58.9%である。
- 子育てをするうえで、気軽に相談できる場所が「ある」と答えた人の割合は42.7%、「ない」は57.3%である。相談場所として「学校」を挙げた人は77.3%である。

図表 167 気軽に相談できる人がいるか

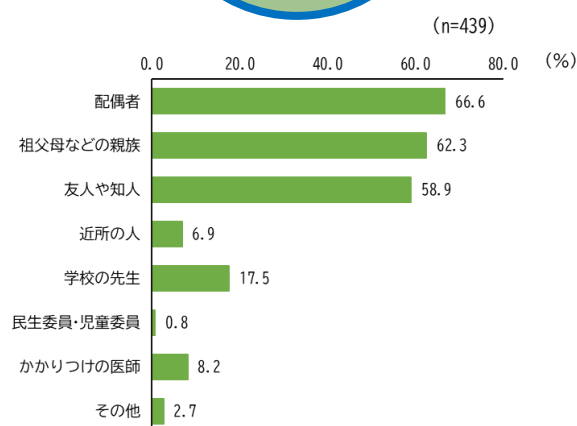
	人数	割合(%)
いる	378	86.1
いない	61	13.9
合計	439	100.0



回答対象者：「いる」と回答した人

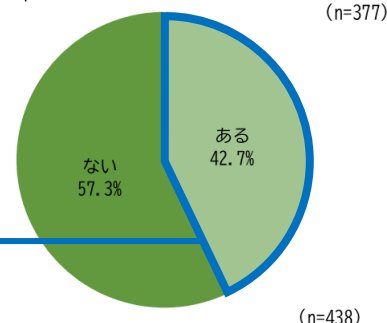
図表 168 相談相手（複数回答）

	人数	割合(%)
配偶者	251	66.6
祖父母などの親族	235	62.3
友人や知人	222	58.9
近所の人	26	6.9
学校の先生	66	17.5
民生委員・児童委員	3	0.8
かかりつけの医師	31	8.2
その他	10	2.7
回答者数	377	



図表 169 気軽に相談できる場所があるか

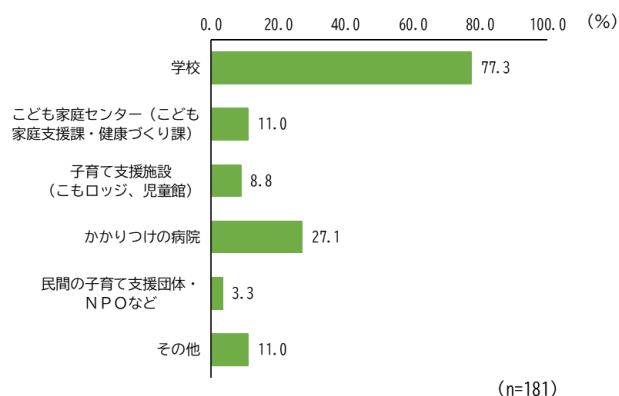
	人数	割合(%)
ある	187	42.7
ない	251	57.3
合計	438	100.0



回答対象者：「ある」と回答した人

図表 170 相談場所（複数回答）

	人数	割合(%)
学校	140	77.3
こども家庭センター（こども家庭支援課・健康づくり課）	20	11.0
子育て支援施設（こもロッジ、児童館）	16	8.8
かかりつけの病院	49	27.1
民間の子育て支援団体・NPOなど	6	3.3
その他	20	11.0
回答者数	181	



- 地域に期待することとしては、「通園・通学時に安全を確保してくれる」が最も高く 59.5%、次いで「子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる」が 47.6%、「子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる」が 47.1%である。

図表 171 地域に期待すること（複数回答）

	人数	割合(%)
子どもに気軽にあいさつやおしゃべりをしてくれる	208	47.6
子どもがいたずらや危険なことをしたときに注意や報告をしてくれる	206	47.1
通園・通学時に安全を確保してくれる	260	59.5
子どもにスポーツや遊びなどの指導をしてくれる	118	27.0
緊急時に子どもを一時的に預かってくれる	86	19.7
子育てについて気軽に相談やアドバイス、情報交換をしてくれる	74	16.9
関わってほしくない	13	3.0
その他	8	1.8
特になし	46	10.5
回答者数	437	

（３）子育て支援施設・事業の利用状況

- 子育て支援事業の認知度と利用状況では「保健センターの情報・相談事業」が最多で、認知度が 62.7%、利用状況が 22.4%である。
- それ以外の選択肢では、利用状況が 10%を下回っており、今後の利用意向が現在の利用状況よりも高くなっている。

図表 172 子育て支援事業の認知度・利用状況・利用意向

	知っている (%)	利用した (%)	今後 利用したい (%)
保健センター（健康づくり課）の 情報・相談事業	62.7	22.4	10.2
家庭教育に関する学級・講座	24.0	2.9	11.5
就学相談（学校教育課）	30.1	5.9	13.8
教育支援センター・教育相談	33.5	5.0	12.9
こども家庭センター（こども家庭 支援課こども相談係）	33.5	5.0	10.4

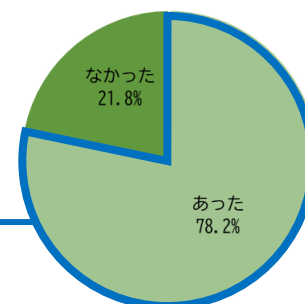
(n=442)

(4) 子どもが病気などになった時

- 子どもが病気等で学校に通えなかった経験が「あった」と答えた人は78.2%である。
- その際の対処方法としては、「母親が休んだ」と答えた人が82.3%と最多で、そのうち、5日以上休んだ人が66.2%である。
- 「父親が休んだ」と答えた人は40.5%で、その日数は「5日未満」が68.8%で最多である。

図表 173 病気等で学校に通えなかった経験の有無

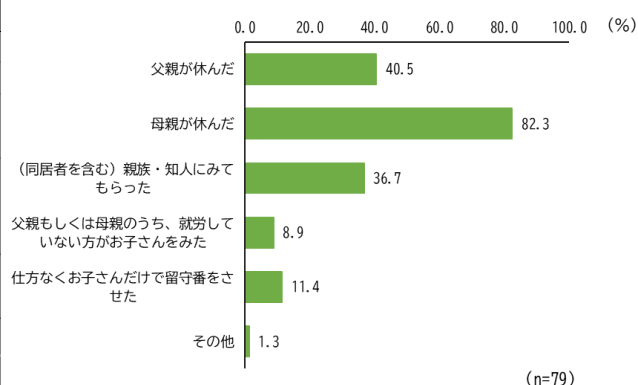
	人数	割合(%)
あった	79	78.2
なかった	22	21.8
合計	101	100.0



回答対象者：「あった」と回答した人

図表 174 この1年間に行った対処方法（複数回答）

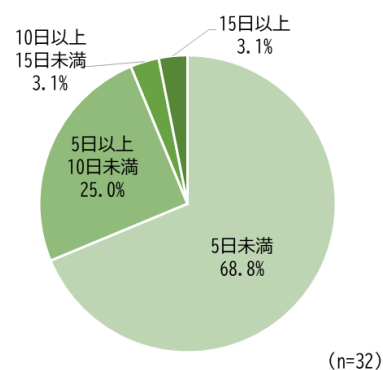
	人数	割合(%)
父親が休んだ	32	40.5
母親が休んだ	65	82.3
(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった	29	36.7
父親もしくは母親のうち、就労していない方がお子さんをみた	7	8.9
仕方なくお子さんだけで留守番をさせた	9	11.4
その他	1	1.3
回答者数	79	



回答対象者：「父親が休んだ」と回答した人

図表 175 父親が休んだ日数

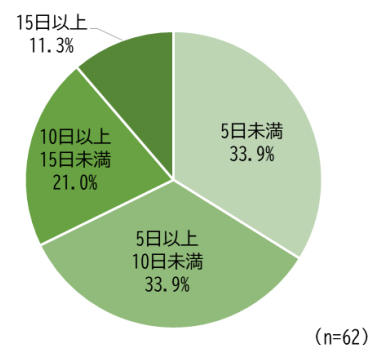
	人数	割合(%)
5日未満	22	68.8
5日以上10日未満	8	25.0
10日以上15日未満	1	3.1
15日以上	1	3.1
合計	32	100.0



回答対象者：「母親が休んだ」と回答した人

図表 176 母親が休んだ日数

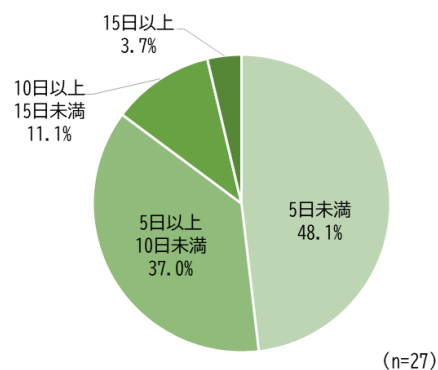
	人数	割合(%)
5日未満	21	33.9
5日以上10日未満	21	33.9
10日以上15日未満	13	21.0
15日以上	7	11.3
合計	62	100.0



回答対象者：「親族・知人にみてもらった」と回答した人

図表 177 (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった日数

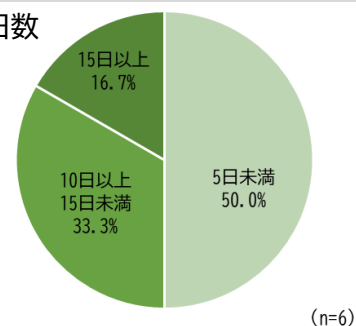
	人数	割合(%)
5日未満	13	48.1
5日以上10日未満	10	37.0
10日以上15日未満	3	11.1
15日以上	1	3.7
合計	27	100.0



回答対象者：「父親もしくは母親のうち、就労していない方がお子さんをみた」と回答した人

図表 178 父親もしくは母親のうち、就労していない方がお子さんをみた日数

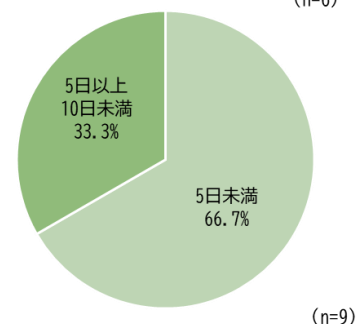
	人数	割合(%)
5日未満	3	50.0
5日以上10日未満	0	0.0
10日以上15日未満	2	33.3
15日以上	1	16.7
合計	6	100.0



回答対象者：「仕方なくお子さんだけで留守番をさせた」と回答した人

図表 179 仕方なくお子さんだけで留守番をさせた日数

	人数	割合(%)
5日未満	6	66.7
5日以上10日未満	3	33.3
10日以上15日未満	0	0.0
15日以上	0	0.0
合計	9	100.0

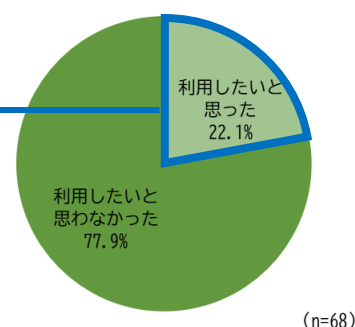


- ・ 父親または母親が休んだ人に、病児・病後児のための保育施設等の利用意向を聞くと、「利用したいと思った」と答えた人は22.1%であった。
- ・ 利用を希望する人に、利用希望日数を尋ねると、「5日」と答えた人が50.0%で最多であった。

回答対象者：父親または母親が休んだ人

図表 180 病児保育のための保護施設等の利用意向

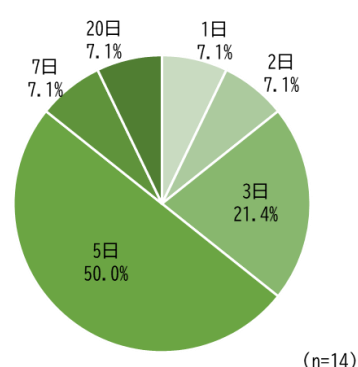
	人数	割合(%)
利用したいと思った	15	22.1
利用したいと思わなかった	53	77.9
合計	68	100.0



回答対象者：利用を希望する人

図表 181 病児保育のための保護施設等の利用希望日数

	人数	割合(%)
1日	1	7.1
2日	1	7.1
3日	3	21.4
5日	7	50.0
7日	1	7.1
20日	1	7.1
合計	14	100.0

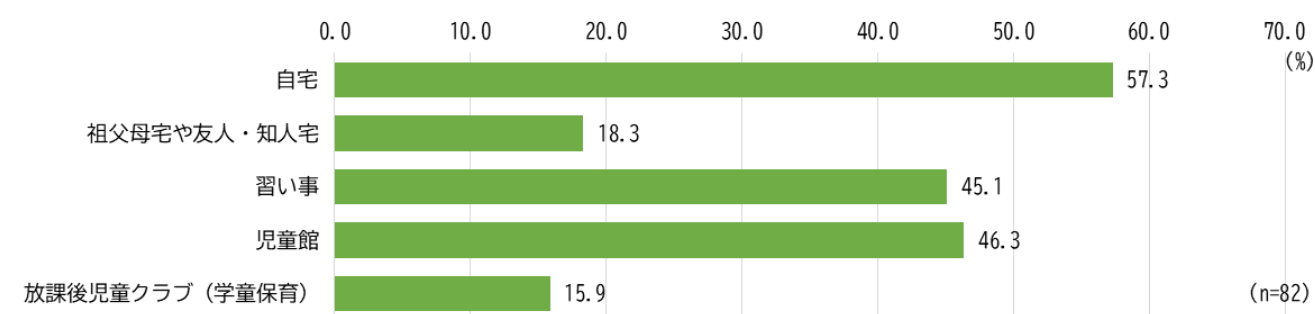


(5) 放課後や自由時間の過ごし方

回答対象者：あて名の子どもが小学校低学年の人

- 平日の放課後の過ごし方について、「低学年の間」と「高学年になったら」の利用意向を比較すると、「児童館」や「放課後児童クラブ」と答えた人の割合は低学年の方が高く、「自宅」や「習い事」は高学年の方が高い。
- 放課後児童クラブは、低学年・高学年どちらも「18 時台」まで希望する人が多い。

図表 182 平日の放課後の場所・事業の利用意向（低学年の間）



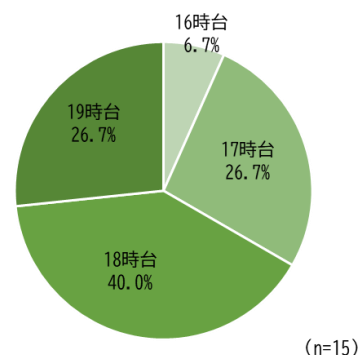
図表 183 平日の放課後の場所・事業の利用希望日数（低学年の間）

	1日 (人)	2日 (人)	3日 (人)	4日 (人)	5日 (人)	平均 (日)
自宅	7	13	13	3	11	1.7
祖父母宅や友人・知人宅	5	1	4	2	3	0.5
習い事	22	9	6	0	0	0.7
児童館	3	13	4	6	12	1.5
放課後児童クラブ (学童保育)	1	2	2	5	3	0.6
ファミリーサポートセンター	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0.0

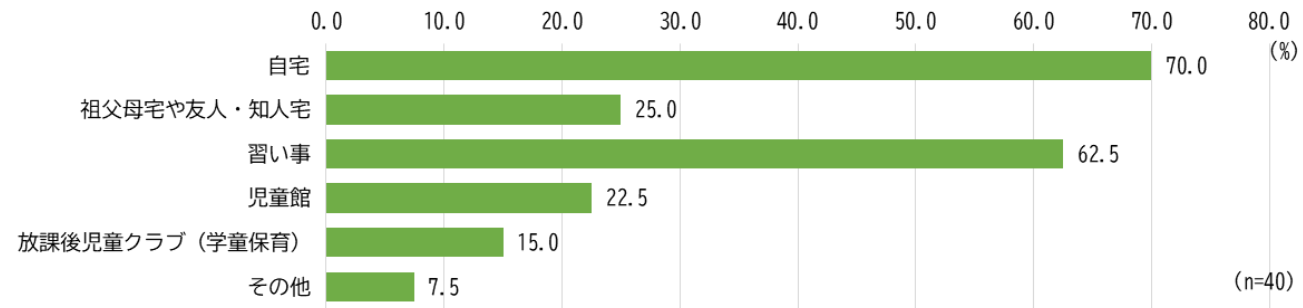
回答対象者：放課後児童クラブ（学童保育）の利用を希望する人

図表 184 利用終了希望時刻

	人数	割合 (%)
16時台	1	6.7
17時台	4	26.7
18時台	6	40.0
19時台	4	26.7
合計	15	100.0



図表 185 平日の放課後の場所・事業の利用意向（高学年になったら）



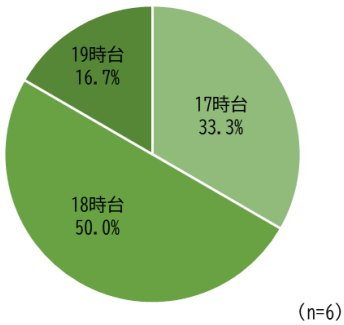
図表 186 平日の放課後の場所・事業の利用希望日数（高学年になったら）

	1日 (人)	2日 (人)	3日 (人)	4日 (人)	5日 (人)	平均 (日)
自宅	4	7	3	5	9	2.3
祖父母宅や友人・知人宅	5	1	3	0	1	0.5
習い事	12	10	3	0	0	1.0
児童館	2	4	1	0	2	0.6
放課後児童クラブ（学童保育）	0	2	3	0	1	0.5
ファミリーサポートセンター	0	0	0	0	0	0.0
その他	2	0	1	0	0	0.1

回答対象者：放課後児童クラブ（学童保育）の利用を希望する人

図表 187 放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望時刻

	人数	割合 (%)
16時台	0	0.0
17時台	2	33.3
18時台	3	50.0
19時台	1	16.7
合計	6	100.0



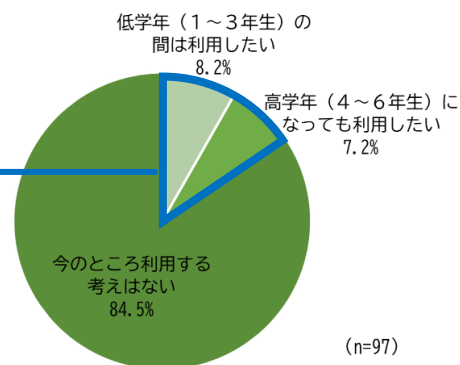
■平日以外の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望

1) 土曜日

- 土曜日に放課後児童クラブの利用を希望する人は 15.4%である。
- 利用開始希望時刻は、「7時台」と答えた人の割合が、46.7%で最も高い。
- 利用終了希望時刻は、「18時台」と答えた人の割合が、53.3%で最も高い。

図表 188 利用希望

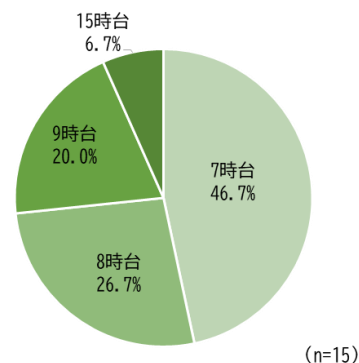
	人数	割合(%)
低学年（1～3年生）の間は利用したい	8	8.2
高学年（4～6年生）になっても利用したい	7	7.2
今のところ利用する考えはない	82	84.5
合計	97	100.0



回答対象者：利用を希望する人

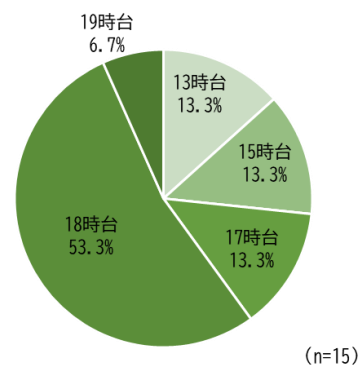
図表 189 利用開始希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	7	46.7
8時台	4	26.7
9時台	3	20.0
15時台	1	6.7
合計	15	100.0



図表 190 利用終了希望時刻

	人数	割合(%)
13時台	2	13.3
14時台	0	0.0
15時台	2	13.3
16時台	0	0.0
17時台	2	13.3
18時台	8	53.3
19時台	1	6.7
合計	15	100.0

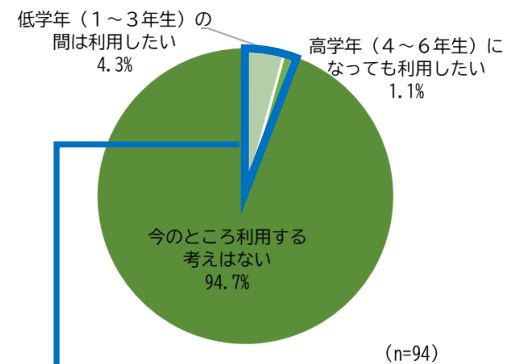


2) 日曜日・祝日

- ・ 日曜日・祝日に放課後児童クラブの利用を希望する人は 5.4%である。
- ・ 利用開始希望時刻は、「7時台」と答えた人の割合が、60.0%で最も高い。
- ・ 利用終了希望時刻は、「18時台」と答えた人の割合が、60.0%で最も高い。

図表 191 利用希望

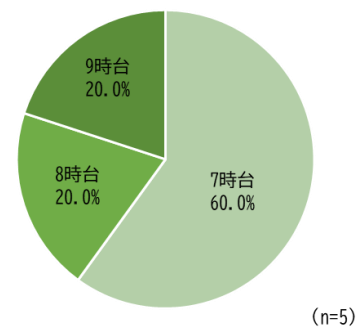
	人数	割合(%)
低学年（1～3年生）の間は利用したい	4	4.3
高学年（4～6年生）になっても利用したい	1	1.1
今のところ利用する考えはない	89	94.7
合計	94	100.0



回答対象者：利用を希望する人

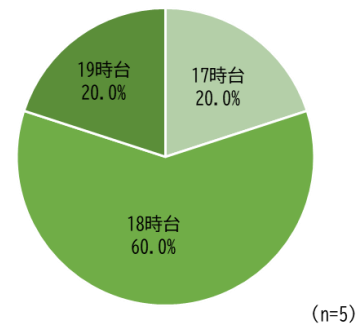
図表 192 利用開始希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	3	60.0
8時台	1	20.0
9時台	1	20.0
合計	5	100.0



図表 193 利用終了希望時刻

	人数	割合(%)
17時台	1	20.0
18時台	3	60.0
19時台	1	20.0
合計	5	100.0

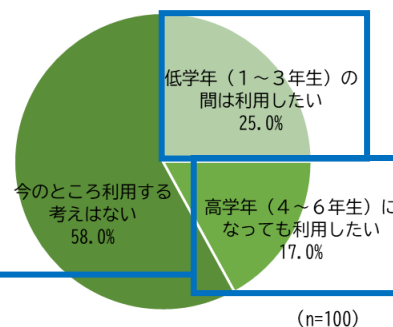


3) 長期休暇期間中（夏休み・冬休み）

- ・ 長期休暇期間中に放課後児童クラブの利用を希望する人は 42.0%である。
- ・ 利用開始希望時刻は、「8 時台」と答えた人の割合が、52.4%で最も高い。
- ・ 利用終了希望時刻は、「18 時台」と答えた人の割合が、59.5%で最も高い。

図表 194 利用希望

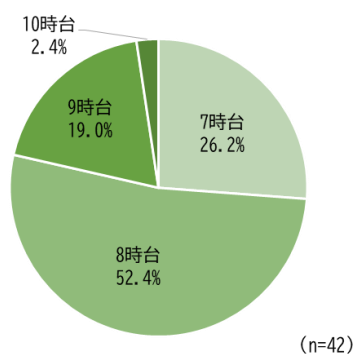
	人数	割合(%)
低学年（1～3年生）の間は利用したい	25	25.0
高学年（4～6年生）になっても利用したい	17	17.0
今のところ利用する考えはない	58	58.0
合計	100	100.0



回答対象者：利用を希望する人

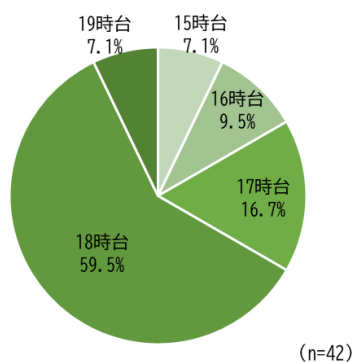
図表 195 利用開始希望時刻

	人数	割合(%)
7時台	11	26.2
8時台	22	52.4
9時台	8	19.0
10時台	1	2.4
合計	42	100.0



図表 196 利用終了希望時刻

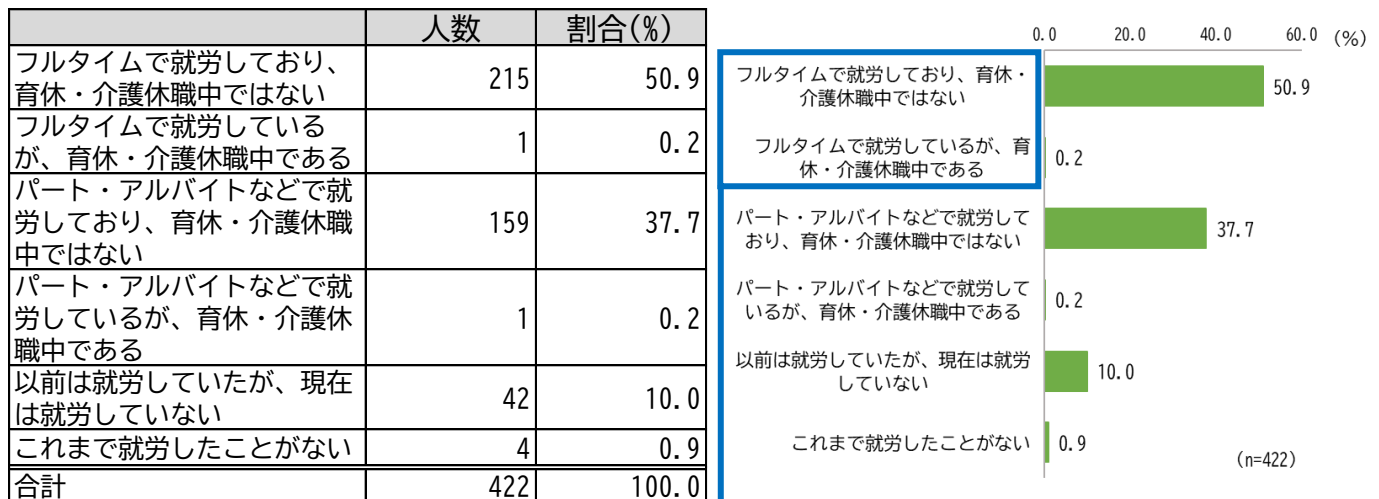
	人数	割合(%)
15時台	3	7.1
16時台	4	9.5
17時台	7	16.7
18時台	25	59.5
19時台	3	7.1
合計	42	100.0



(6) 母親の就労の状況

- 母親がフルタイムで就労している割合は51.1%、パート・アルバイトなどで就労している割合は37.9%である（それぞれ休職中を含む）。
- フルタイムで就労している人の内訳を見ると、「正社員・正規職員」が78.0%で最多である。

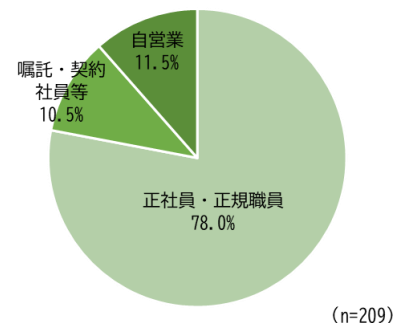
図表 197 就労状況



回答対象者：フルタイムで就労している人（休職中含む）

図表 198 就労形態

	人数	割合(%)
正社員・正規職員	163	78.0
嘱託・契約社員等	22	10.5
自営業	24	11.5
合計	209	100.0

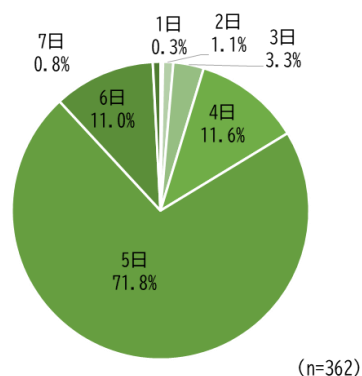


- 就労中の人の1週あたりの就労日数は、「5日」の割合が71.8%で最も高く、次いで「4日」が11.6%、「6日」が11.0%である。
- 1日あたりの就労時間は、「8時間以上10時間未満」の割合が43.0%で最も高く、次いで「5時間以上8時間未満」が41.0%である。

回答対象者：就労中の人（休職中含む）

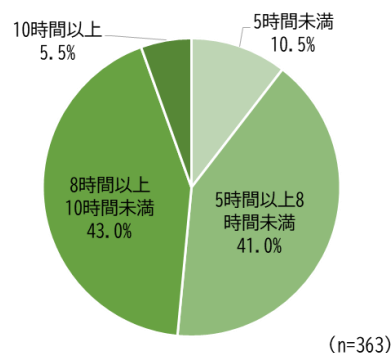
図表 199 1週あたりの就労日数

	人数	割合(%)
1日	1	0.3
2日	4	1.1
3日	12	3.3
4日	42	11.6
5日	260	71.8
6日	40	11.0
7日	3	0.8
合計	362	100.0



図表 200 1日あたりの就労時間

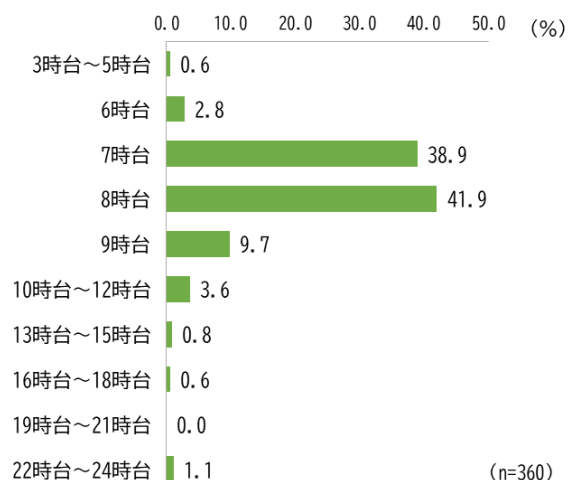
	人数	割合(%)
5時間未満	38	10.5
5時間以上8時間未満	149	41.0
8時間以上10時間未満	156	43.0
10時間以上	20	5.5
合計	363	100.0



- ・ 家を出る時間は、「8時台」の割合が最も高く 41.9%、次いで「7時台」で 38.9%である。
- ・ 帰宅時間は、「18時台」の割合が最も高く 33.7%で、次いで「17時台」が 18.8%である。
- ・ 土曜日に就労している人は 48.8%、日曜日に就労している人は 30.7%である。

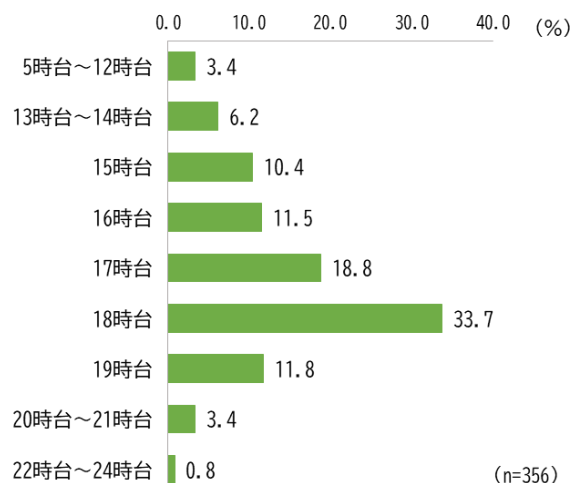
図表 201 家を出る時間

	人数	割合(%)
3時台～5時台	2	0.6
6時台	10	2.8
7時台	140	38.9
8時台	151	41.9
9時台	35	9.7
10時台～12時台	13	3.6
13時台～15時台	3	0.8
16時台～18時台	2	0.6
19時台～21時台	0	0.0
22時台～24時台	4	1.1
合計	360	100.0



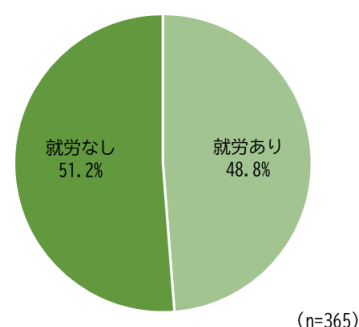
図表 202 帰宅時間

	人数	割合(%)
5時台～12時台	12	3.4
13時台～14時台	22	6.2
15時台	37	10.4
16時台	41	11.5
17時台	67	18.8
18時台	120	33.7
19時台	42	11.8
20時台～21時台	12	3.4
22時台～24時台	3	0.8
合計	356	100.0



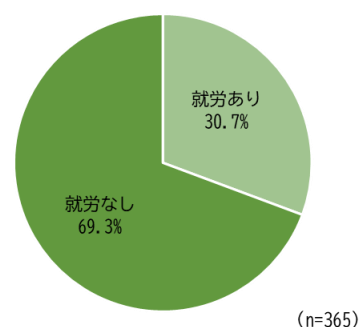
図表 203 土曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	178	48.8
就労なし	187	51.2
合計	365	100.0



図表 204 日曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	112	30.7
就労なし	253	69.3
合計	365	100.0

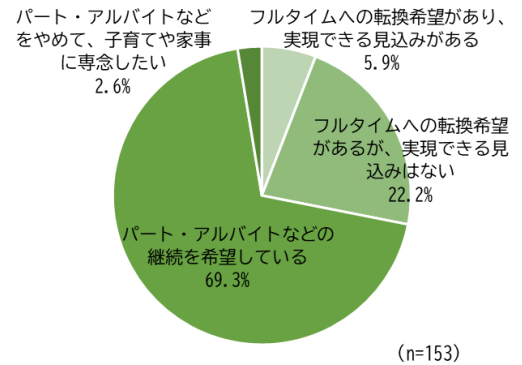


- パート・アルバイト等で就労している人のうち、そのままの就労形態を希望している人は 69.3%である。
- 一方、フルタイムへの転換希望がある人は 28.1%で、そのうち 5.9%は希望を叶えられる見込みがある。

回答対象者：パート・アルバイト等で就労している人

図表 205 フルタイムへの転換希望

	人数	割合(%)
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	9	5.9
フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない	34	22.2
パート・アルバイトなどの継続を希望している	106	69.3
パート・アルバイトなどをやめて、子育てや家事に専念したい	4	2.6
合計	153	100.0

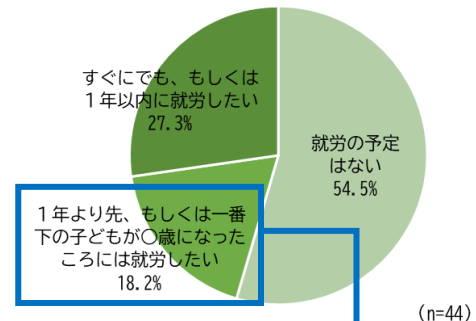


- 現在就労していない人のうち、就労の予定がない人は 54.5%である。
- 一方、すぐにでも、または1年以内に就労したい人は 27.3%、1年より先もしくは一番下の子どもが一定年齢以上になってから就労したい人は 18.2%である。

回答対象者：現在就労していない人

図表 206 就労への希望

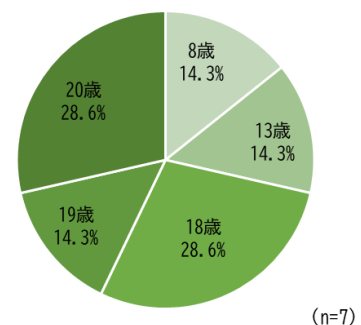
	人数	割合(%)
就労の予定はない	24	54.5
1年より先、もしくは一番下の子どもが〇歳になったころには就労したい	8	18.2
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	12	27.3
合計	44	100.0



回答対象者：「一番下の子どもが〇歳になったころには就労したい」と回答した人

図表 207 就労時の末子の年齢の希望

	人数	割合(%)
8歳	1	14.3
13歳	1	14.3
18歳	2	28.6
19歳	1	14.3
20歳	2	28.6
合計	7	100.0

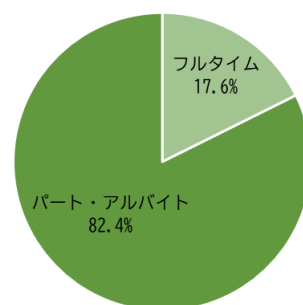


- ・ 現在就労していない人のうち、就労の希望がある人に働き方の意向を尋ねたところ、就労形態では「パート・アルバイト」の割合が82.4%で最も高かった。
- ・ 1週あたりの希望就労日数は「5日」の割合が46.7%で最も高かった。
- ・ 1日あたりの希望就労時間は「4時間」、「5時間」、「6時間」の割合がそれぞれ26.7%である。

回答対象者：就労希望がある人

図表 208 希望する就労形態

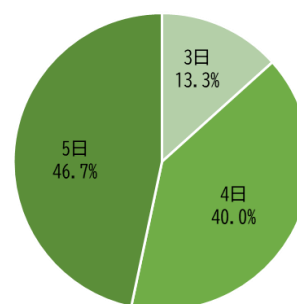
	人数	割合(%)
フルタイム	3	17.6
パート・アルバイト	14	82.4
合計	17	100.0



(n=17)

図表 209 1週あたりの希望就労日数

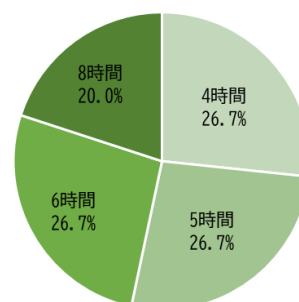
	人数	割合(%)
3日	2	13.3
4日	6	40.0
5日	7	46.7
合計	15	100



(n=15)

図表 210 1日あたりの希望就労時間

	人数	割合(%)
4時間	4	26.7
5時間	4	26.7
6時間	4	26.7
7時間	0	0.0
8時間	3	20.0
合計	15	100.0



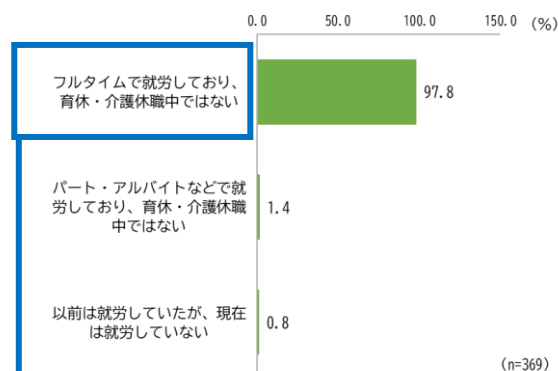
(n=15)

(7) 父親の就労状況

- ・ 父親がフルタイムで就労している割合は 97.8%である。
- ・ フルタイムで就労している人の内訳を見ると、「正社員・正規職員」が 83.0%で最多である。
- ・ 就労中の人の 1 週あたりの就労日数は、「5日」が 71.3%、「6日」が 24.1%である。
- ・ 1 日あたりの就労時間は、「8時間以上 10 時間未満」が 63.2%、「10 時間以上」が 26.7%である。

図表 211 就労状況

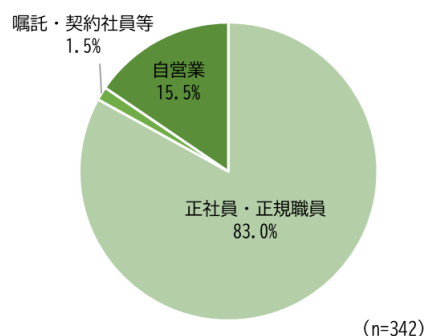
	人数	割合(%)
フルタイムで就労しており、育休・介護休職中ではない	361	97.8
パート・アルバイトなどで就労しており、育休・介護休職中ではない	5	1.4
以前は就労していたが、現在は就労していない	3	0.8
合計	369	100.0



回答対象者：フルタイムで就労している人（休職中含む）

図表 212 就労形態

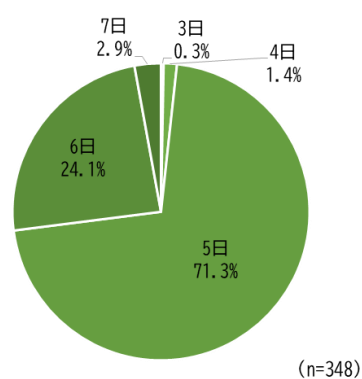
	人数	割合(%)
正社員・正規職員	284	83.0
嘱託・契約社員等	5	1.5
自営業	53	15.5
合計	342	100.0



回答対象者：就労中の人（休職中含む）

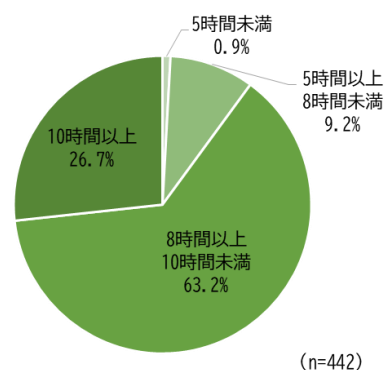
図表 213 1 週あたりの就労日数

	人数	割合(%)
1日	0	0.0
2日	0	0.0
3日	1	0.3
4日	5	1.4
5日	248	71.3
6日	84	24.1
7日	10	2.9
合計	348	100.0



図表 214 1 日あたりの就労時間

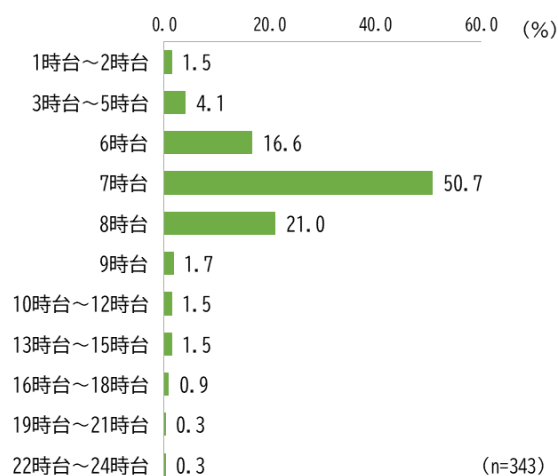
	人数	割合(%)
5時間未満	3	0.9
5時間以上8時間未満	32	9.2
8時間以上10時間未満	220	63.2
10時間以上	93	26.7
合計	348	100.0



- 家を出る時間は、「7時台」が50.7%で最も高く、次いで「8時台」が21.0%である。
- 帰宅時間は、「18時台」が34.1%で最も高く、次いで「19時台」が23.0%、「20～21時台」が19.8%である。
- 土曜日に就労している人は56.6%、日曜日に就労している人は34.1%である。

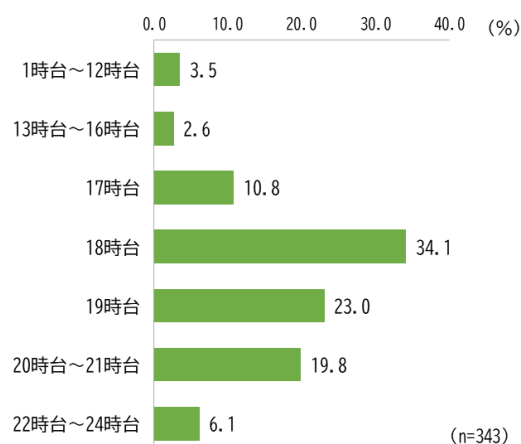
図表 215 家を出る時間

	人数	割合(%)
1時台～2時台	5	1.5
3時台～5時台	14	4.1
6時台	57	16.6
7時台	174	50.7
8時台	72	21.0
9時台	6	1.7
10時台～12時台	5	1.5
13時台～15時台	5	1.5
16時台～18時台	3	0.9
19時台～21時台	1	0.3
22時台～24時台	1	0.3
合計	343	100.0



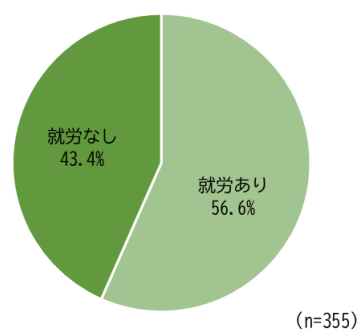
図表 216 帰宅時間

	人数	割合(%)
1時台～12時台	12	3.5
13時台～16時台	9	2.6
17時台	37	10.8
18時台	117	34.1
19時台	79	23.0
20時台～21時台	68	19.8
22時台～24時台	21	6.1
合計	343	100.0



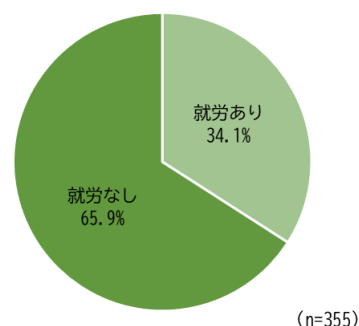
図表 217 土曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	201	56.6
就労なし	154	43.4
合計	355	100.0



図表 218 日曜日の就労の有無

	人数	割合(%)
就労あり	121	34.1
就労なし	234	65.9
合計	355	100.0

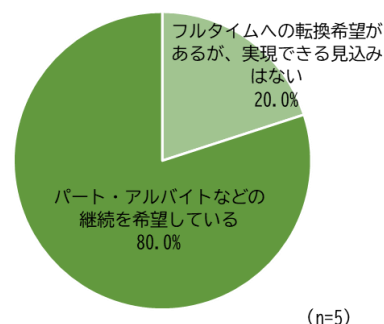


- パート・アルバイト等で就労している人のうち、そのままの就労形態を希望している人は 80.0%である。
- 一方、フルタイムへの転換希望がある人は 20.0%である。
- 現在就労していない人のうち、就労の予定がない人は 33.3%である。一方、すぐにでも、または1年以内に就労したい人は 66.7%である。

回答対象者：パート・アルバイト等で就労している人

図表 219 フルタイムへの転換希望

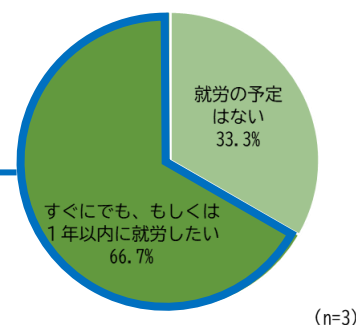
	人数	割合(%)
フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない	1	20.0
パート・アルバイトなどの継続を希望している	4	80.0
合計	5	100.0



回答対象者：現在就労していない人

図表 220 就労への希望

	人数	割合(%)
就労の予定はない	1	33.3
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	2	66.7
合計	3	100.0



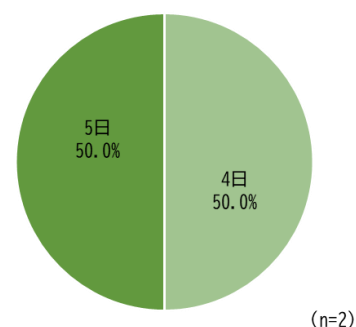
回答対象者：就労希望がある人

図表 221 希望する就労形態

	人数	割合(%)
フルタイム	1	100.0
合計	1	100.0

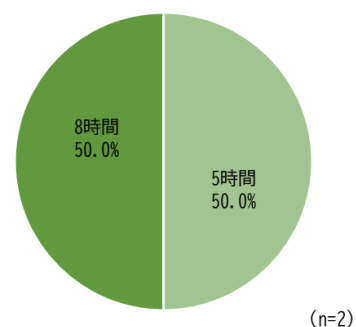
図表 222 1週あたりの希望就労日数

	人数	割合(%)
4日	1	50.0
5日	1	50.0
合計	2	100.0



図表 223 1日あたりの希望就労時間

	人数	割合(%)
5時間	1	50.0
8時間	1	50.0
合計	2	100.0

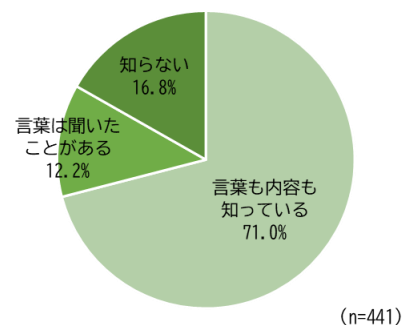


(8) ヤングケアラー

- ヤングケアラーについて、「言葉も内容も知っている」と答えた人の割合が71.0%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が12.2%、「知らない」が16.8%である。
- 身近にヤングケアラーと思われる人がいた場合の対応方法としては、「本人に様子を聞く」と答えた人の割合が44.7%で最も高い。

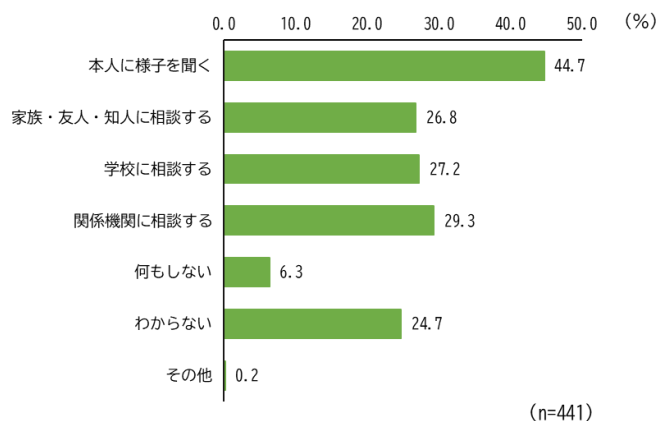
図表 224 「ヤングケアラー」という言葉の認知度

	人数	割合(%)
言葉も内容も知っている	313	71.0
言葉は聞いたことがある	54	12.2
知らない	74	16.8
合計	441	100.0



図表 225 ヤングケアラーへの想定される対応方法

	人数	割合(%)
本人に様子を聞く	197	44.7
家族・友人・知人に相談する	118	26.8
学校に相談する	120	27.2
関係機関に相談する	129	29.3
何もしない	28	6.3
わからない	109	24.7
その他	1	0.2
回答者数	441	

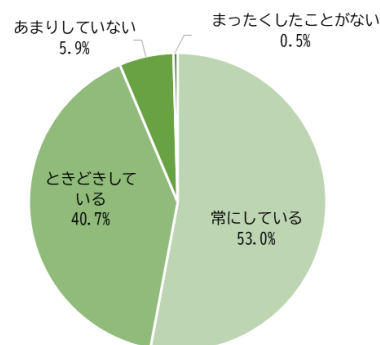


(9)「子どもの権利」

- 子どもからの意見や要望を取り入れるように意識しているかを尋ねると、「常にしている」と答えた人の割合が53.0%と最も高く、次いで「ときどきしている」が40.7%である。
- 「子どもの権利」については、「名前は知っているが内容は知らない」と「名前も内容も知っている」がそれぞれ4割強で、「知らない」が2割弱である

図表 226 子どもからの意見や要望を取り入れるように意識しているか

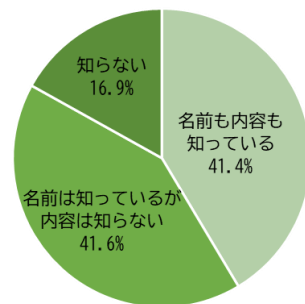
	人数	割合(%)
常にしている	233	53.0
ときどきしている	179	40.7
あまりしていない	26	5.9
まったくしたことがない	2	0.5
合計	440	100.0



(n=440)

図表 227 「子どもの権利」の認知度

	人数	割合(%)
名前も内容も知っている	181	41.4
名前は知っているが内容は知らない	182	41.6
知らない	74	16.9
合計	437	100.0



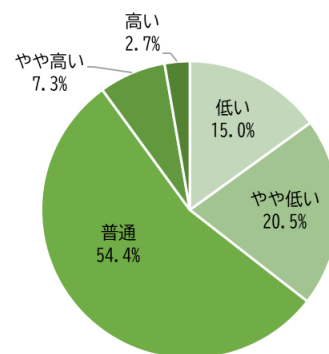
(n=437)

(10) 子育て全般

- ・小諸市における子育ての環境や支援の満足度は、「普通」の割合が54.4%で最も高い。
- ・「低い」は15.0%、「やや低い」は20.5%で、合わせると35.5%である。
- ・子育ての環境や支援に関する自由記述では、様々な要望が見られた。

図表 228 小諸市における子育て環境・支援への満足度

	人数	割合(%)
低い	66	15.0
やや低い	90	20.5
普通	239	54.4
やや高い	32	7.3
高い	12	2.7
合計	439	100.0



図表 229 自由記述欄に多く見られた要望

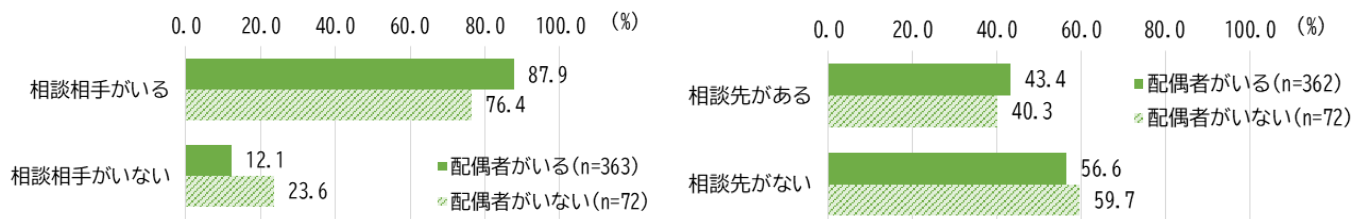
(n=439)

ひとり親家庭への支援	・所得制限の緩和など支援の充実
医療費	・子どもの医療費の無償化
給食費	・無償化
児童館	・利用枠の拡大 ・延長利用時の利用料の低減
放課後児童クラブ	・長期休暇中の配食 ・利用料の支払い方法の簡素化
不登校児の支援	・教育支援センター以外の居場所への支援
発達支援	・放課後デイサービス提供施設の増設
中高生の放課後の居場所	・中高生が利用しやすい居場所の確保
通学・交通	・スクールバスの充実 ・通学路の整備
学校・地域の活動への保護者の参加	・活動内容の見直しによる負担軽減 ・手続き等の簡素化
相談体制	・自発的な相談が困難な家庭の様子を周囲がすくいあげ、支援につなげられる体制づくり
子育て支援情報	・子育て支援情報の集約化、わかりやすい発信 ・子どもの年齢に合わせた情報の「プッシュ型」通知

(11) 属性等によるクロス集計結果

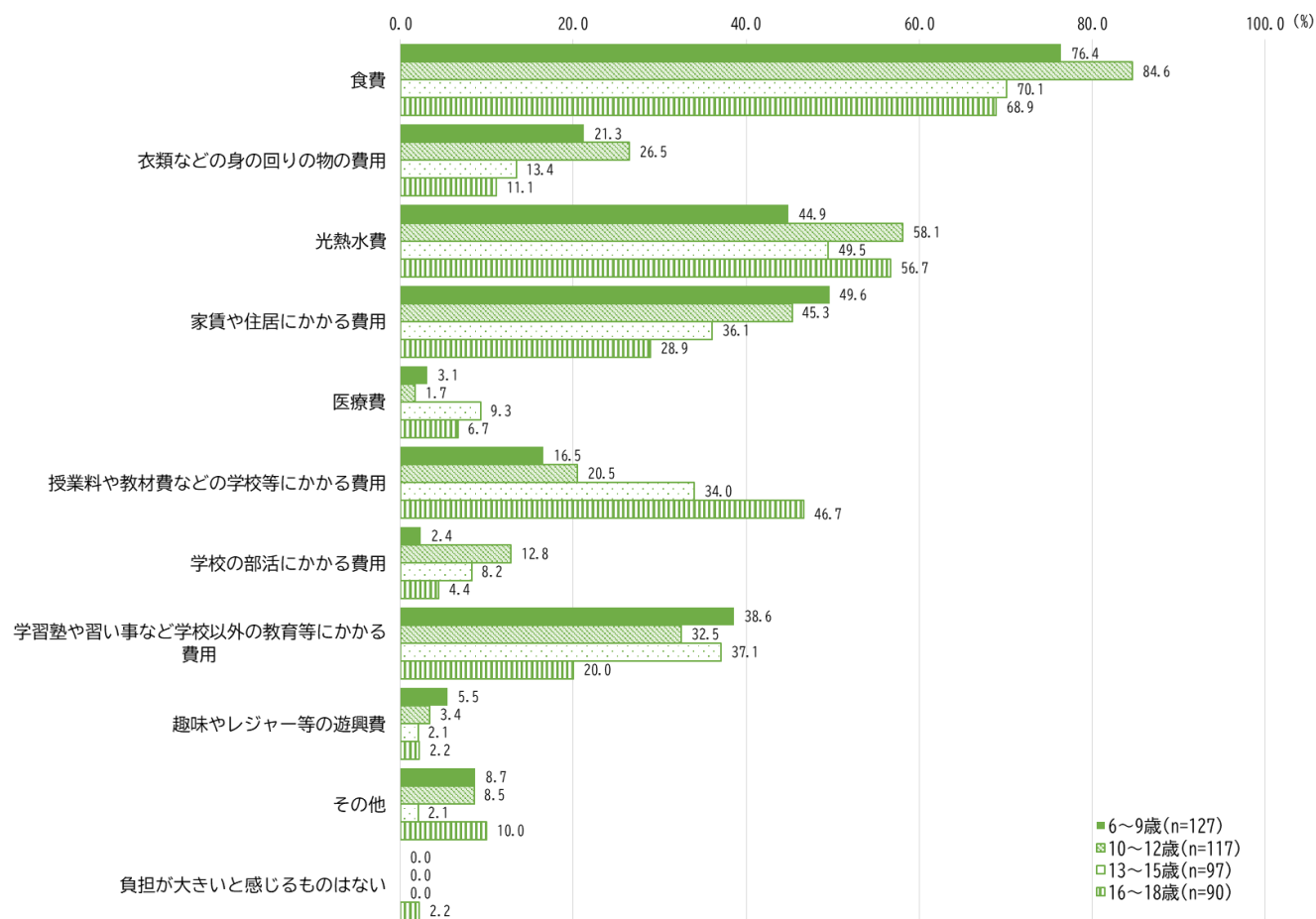
- 配偶者の有無別に、気軽に相談できる人や場所の有無をみると、配偶者がいない人の方が、配偶者がいる人に比べて、相談相手や相談場所がない場合が多くなっている。

図表 230 気軽に相談できる人がいるか／場所があるか（配偶者の有無別）



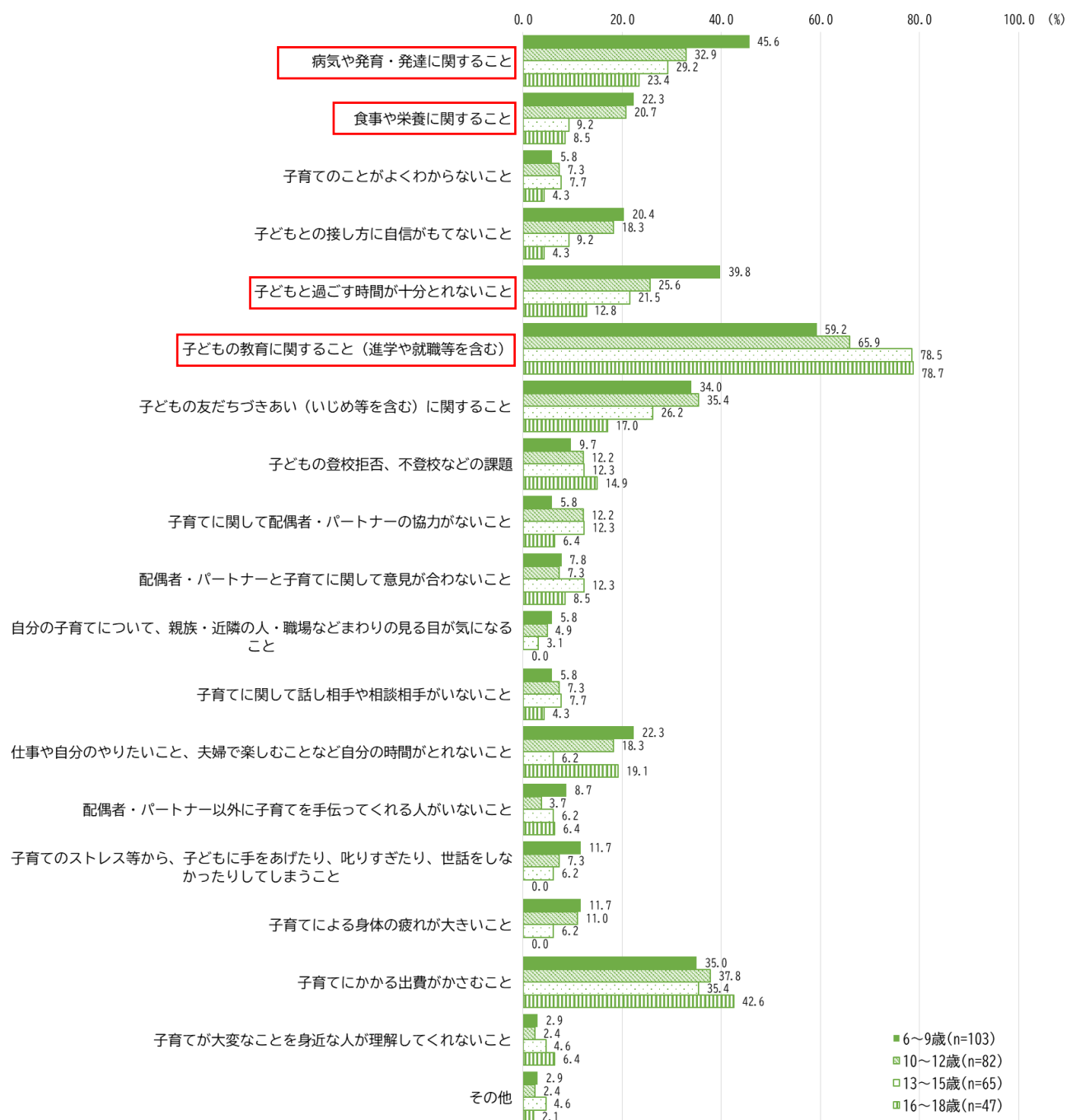
- 子どもの年齢別に負担が大きい支出をみると、いずれの場合も「食費」の割合が最も高い。
- 「家賃や住居にかかる費用」は、6～9歳の子どもと保護者では食費に次いで割合が高いが、子どもの年齢が上がるにつれて低くなっている。
- 逆に、「授業料や教材費などの学校等にかかる費用」の割合は、子どもの年齢が上がるにつれて高くなっている。

図表 231 負担が大きい支出（子どもの年齢別）



- 子どもの年齢別に、子育てをするうえで感じる悩みや不安の内容をみると、いずれの年齢でも最も割合が高いのは「子どもの教育に関すること」である。
- 子どもの年齢が小さいほど割合が高いのは、「病気や発育・発達に関すること」や「子どもと過ごす時間が十分とれないこと」、「食事や栄養に関すること」などである。
- 逆に子どもの年齢が大きいほど割合が高いのは、「子どもの教育に関すること」などである。

図表 232 子育てをするうえで感じる悩みや不安の内容（子どもの年齢別）



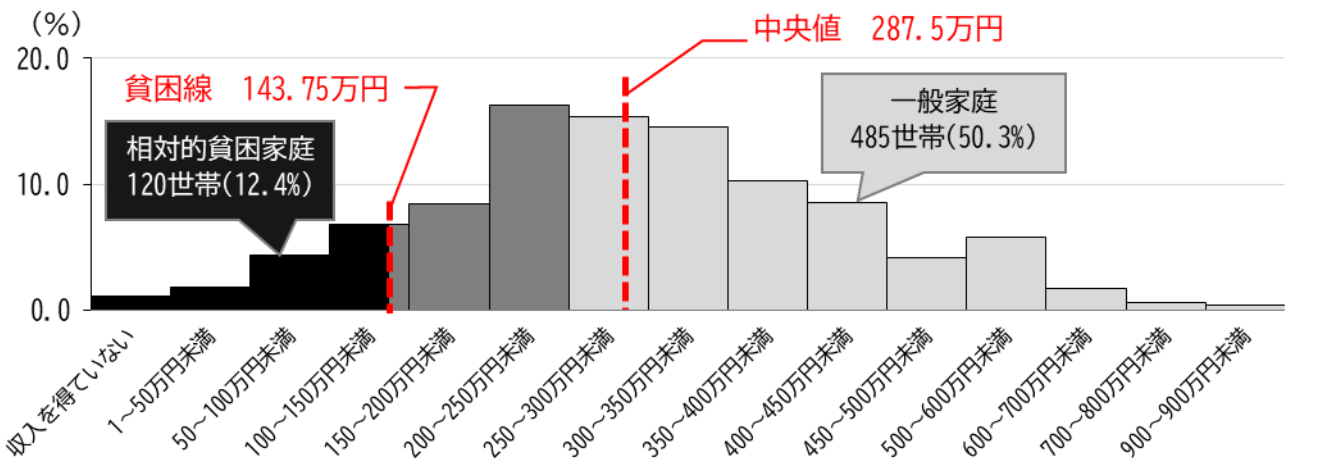
5 調査結果：経済状態に基づく分析

本章では、両調査を横断するかたちで、経済状態に基づく分析結果を示す。

(1) 相対的貧困家庭の推定

- 就学前児童、小学生～高校生等の保護者に対するアンケート結果を合わせ、当市における相対的貧困世帯の推定を行ったところ、貧困線は 143.75 万円、貧困線を下回る相対的貧困世帯は 12.4%となった。なお、分析対象は世帯年収及び同居人数の回答があった 976 世帯である。
- 貧困線とは、世帯収入を世帯人員の平方根で調整した所得（等価世帯収入）の中央値（所得を多い順に並べた時にちょうど真ん中に来る値）の半分の値とした。OECD における可処分所得の計算式を世帯収入に置き換えている。
- 以降では、94 図表 233 の分類で分析を行う。

図表 233 等価可処分所得と相対的貧困家庭の推定



図表 234 相対的貧困家庭等の分析の分類

相対的貧困家庭	貧困線以上中央値未満の世帯	中央値以上の家庭
等価可処分所得が 143.75 万円未満の世帯	等価可処分所得が 143.75 万円以上 287.5 万円未満の世帯	等価可処分所得が 287.5 万円以上の世帯

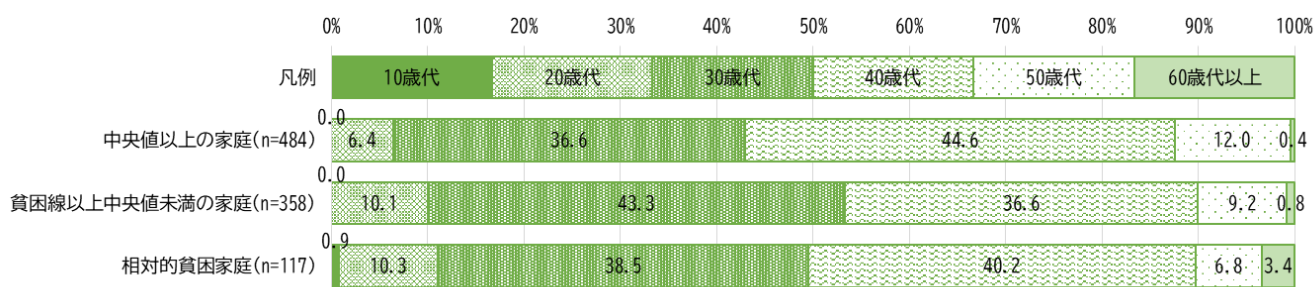
(2) 回答者属性と子育ての状況

- 相対的貧困家庭では、配偶者がいない割合が 40.0%である。また、10～20 歳代の割合が 11.2%で比較的高い。
- 相対的貧困家庭の回答者のうち、70.1%が小諸市に 10 年以上居住している。
- 子育てを主に行っている人の割合では、「主に母親」が 63.9%で最多である。

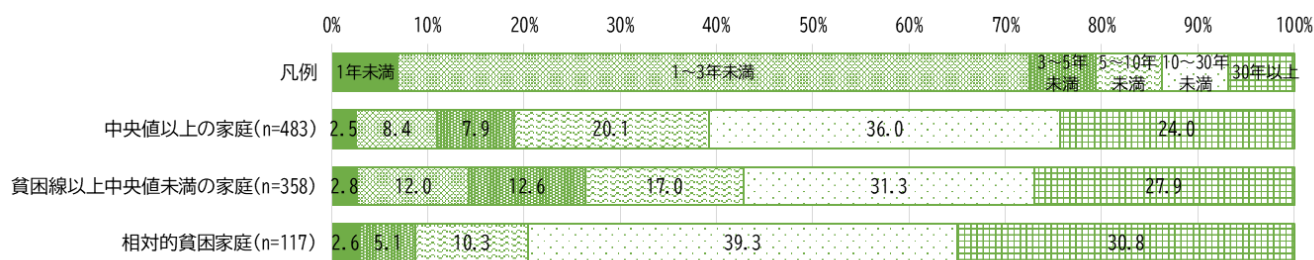
図表 235 配偶者の有無



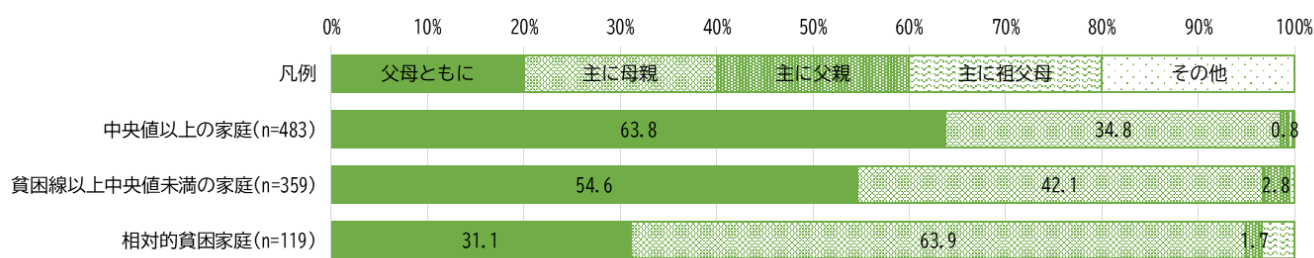
図表 236 年齢



図表 237 小諸市の居住年数



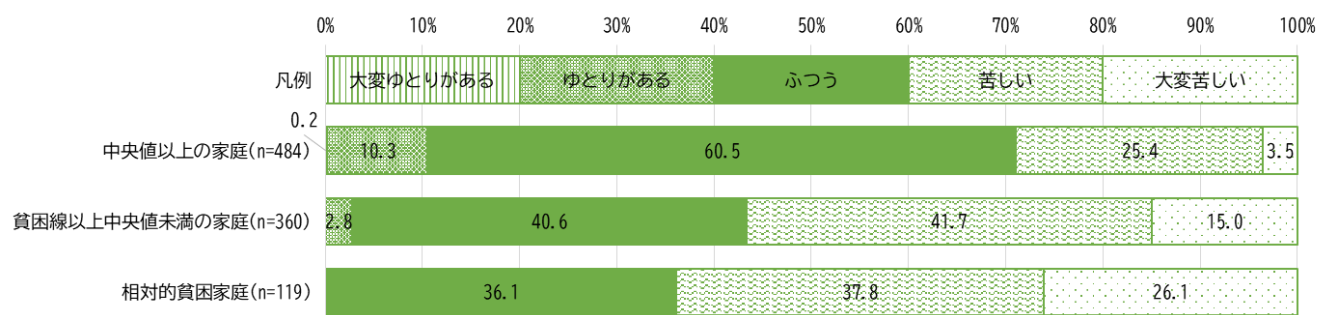
図表 238 子育てを主に行っている人



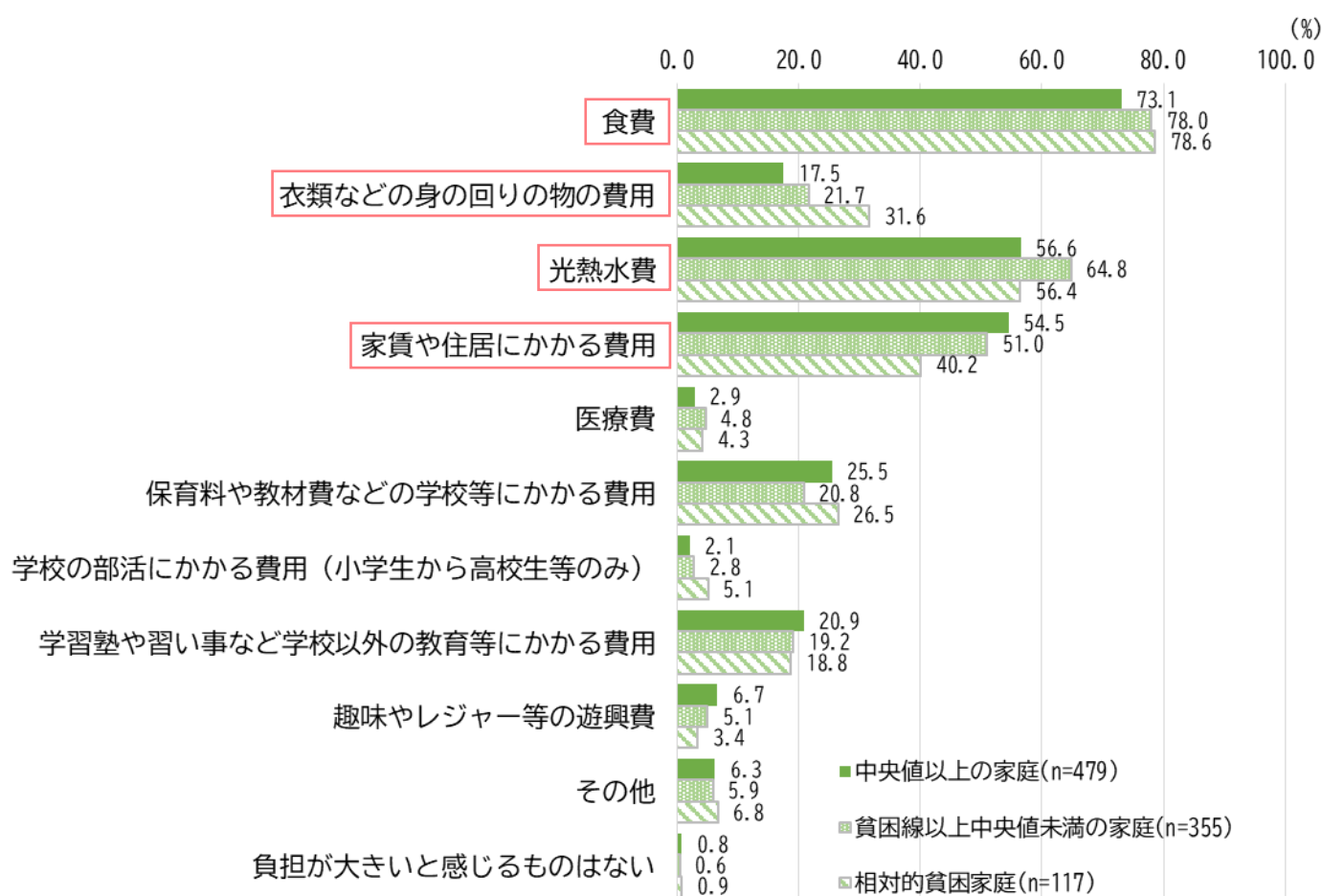
(3) 経済状況

- 暮らしにゆとりがあるかを尋ねると、貧困線以上中央値未満の家庭の 56.7%、相対的貧困家庭の 63.9%が、「苦しい」または「大変苦しい」と回答した。
- 負担が大きいと感じる支出としては、いずれの場合も「食費」と答えた人の割合が7割を超えて最も高く、次いで「光熱水費」、「家賃や住居にかかる費用」である。
- 相対的貧困家庭が、それ以外の家庭に比較して特に高い割合で挙げたのは、「衣類などの身の回りの物の費用」である。

図表 239 暮らしにゆとりがあるか



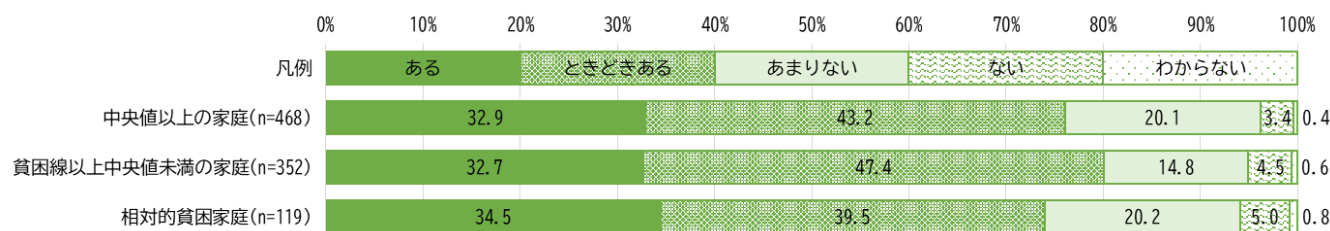
図表 240 負担が大きい支出（複数回答）



(4) 悩み・不安と相談先

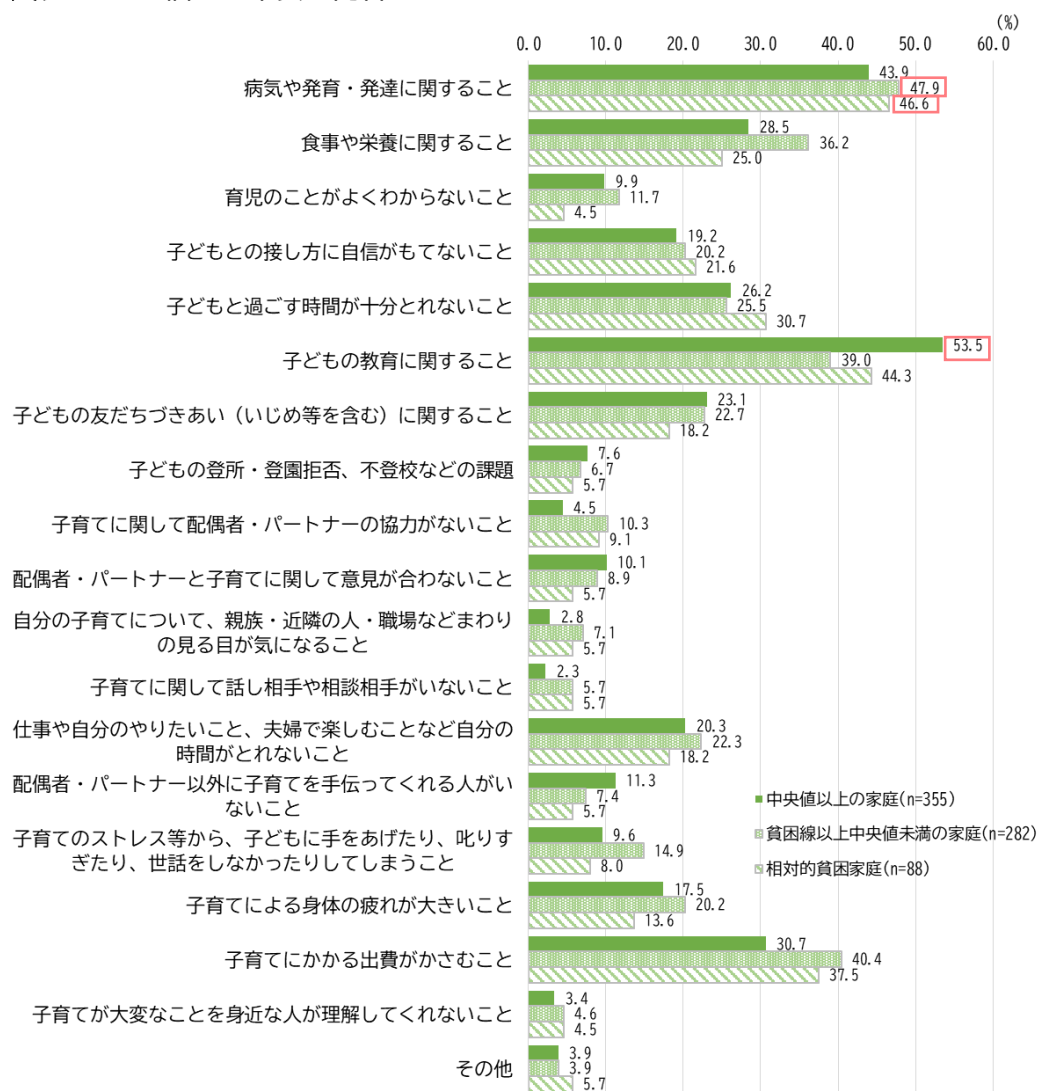
- 子育てをするうえで悩みや不安が「ある」または「ときどきある」と答えた人の割合は、貧困線以上中央値未満の家庭で高く 80.1%である。
- 悩みや不安の内容をみると、貧困線以上中央値未満の家庭及び相対的貧困家庭では「病気や発育・発達に関すること」の割合が最も高いのに対し、中央値以上の家庭では「子どもの教育に関すること」が最も高い。

図表 241 子育てをするうえで悩みや不安があるか



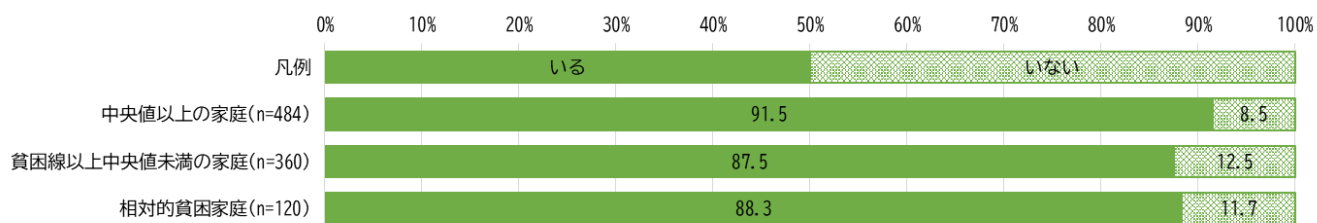
回答対象者：「ある」または「ときどきある」と回答した人

図表 242 悩みや不安の内容

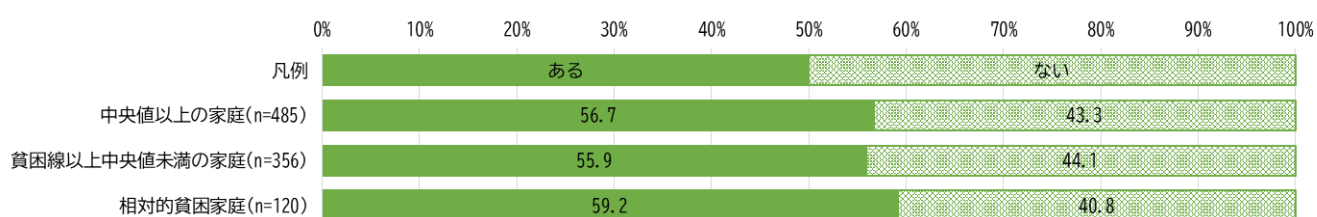


- 気軽に相談できる人が「いない」と答えた人の割合は、貧困線以上中央値未満の家庭で最も高く 12.5%であった。
- 気軽に相談できる場所が「ない」と答えた人の割合もまた、貧困線以上中央値未満の家庭で最も高く 44.1%であった。

図表 243 気軽に相談できる人がいるか



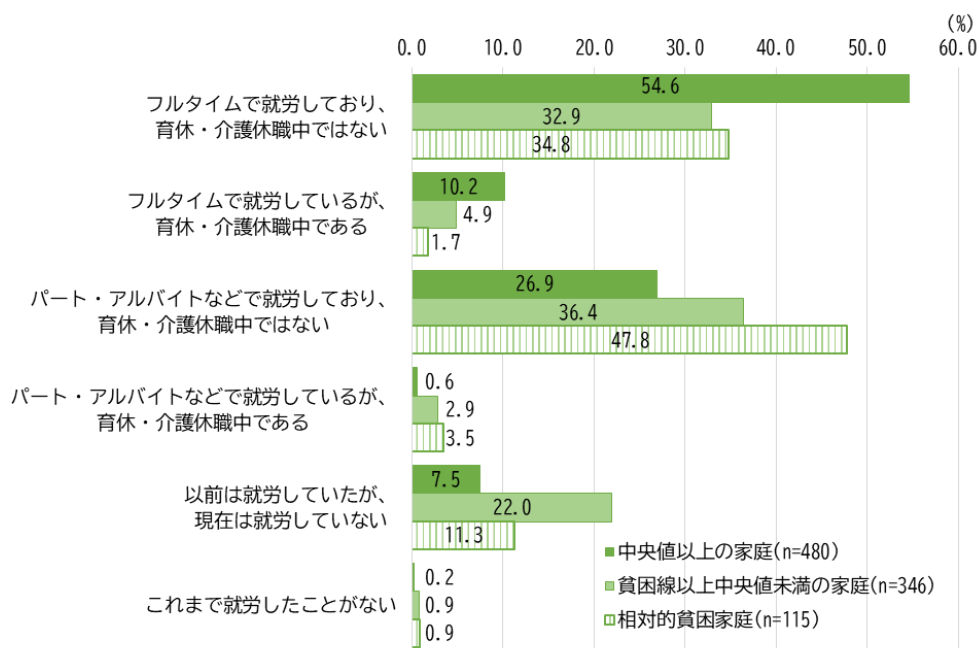
図表 244 気軽に相談できる場所があるか



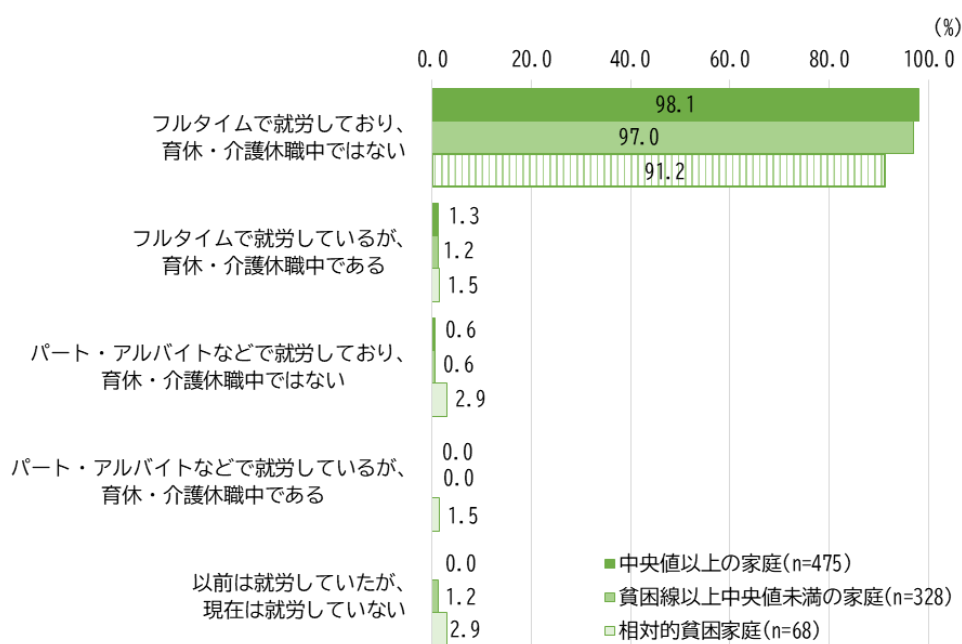
(5) 両親の就労状況

- 相対的貧困家庭では、母親は「パート・アルバイトなどで就労しており、育休・介護休職中ではない」場合が最も多く、47.8%である。
- 父親は、いずれの場合も9割以上がフルタイムで就労しているが、中央値以上の家庭、貧困線以上中央値未満の家庭、相対的貧困家庭の順に、その割合が低くなっている。

図表 245 母親の就労状況



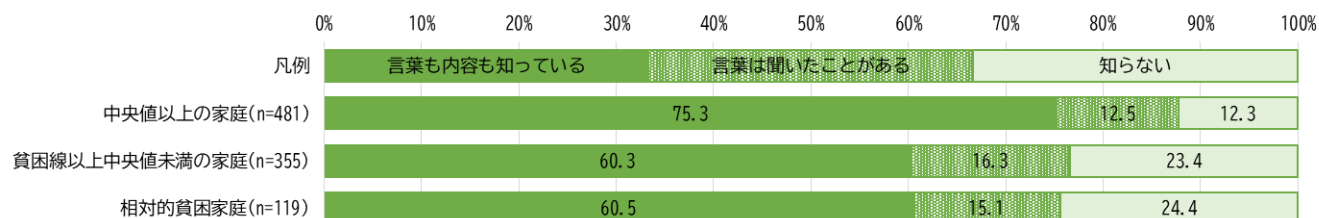
図表 246 父親の就労状況



(6) ヤングケアラー

- 「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、中央値以上の家庭で高く、「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせると 87.8%である。

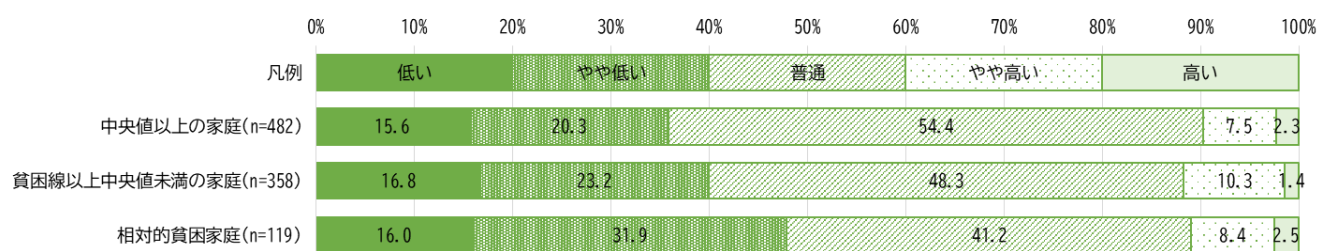
図表 247 「ヤングケアラー」という言葉の認知度



(7) 子育て全般

- 小諸市における子育て環境・支援への満足度が「低い」「やや低い」と答えた人の割合は、相対的貧困家庭で最も割合が高く、47.9%である。

図表 248 小諸市における子育て環境・支援への満足度



小諸市 子育てに関する調査（0歳～未就学児の保護者）

Q54 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

no	子どもの年齢	回答者	回答内容
1	0	母親	近隣の町でやっている保育料、18歳未満の医療費、給食費の無償化を小諸でもしてほしい。年間にすると負担がかなり違ってくる。
2	0	母親	現在子供は11カ月です。小さい子供になればなるほど手ではとても手厚い物とありがたく思いますが、小学校中学校（小諸市立の）選択の自由が無い事が将来的に負担がものすごく大きく又不安です。少子化で統合はしかたないと思います。しかし通学への不都合から入学前に通学選択の自由を求めます。よろしくお願いします。
3	0	母親	育児休暇中の人でも児童館の利用を多くさせてもらいたい。とくに長期休みなど。
4	0	母親	保育園がなかなか入れず困る。みまんじでももう少し入れるようにしてほしい。
5	0	母親	小諸市は定期的に子育て世代にお買い物券の配布がありとても助かります。ただ、保育士数が足りず、一時預かりすら抽選であり、利用したい時にも利用できない状況で、新規で求職活動しても預け先が無いという不安な状況です。医療費も毎月500円かかるので、無償の地域から移住してきたので、まだまだ改善して欲しい所も多々あります。より、子育て世代が安心して暮らせるように改善していただきたいです。
6	0	母親	妊娠期間中、医療機関を受診する事が多かったのですが、1レセプト500円など隣の佐久市民は、優遇されていたのですが小諸市はなし、大きな出費になってしまった。出産後のママの一時ケア（仕事、マッサージ子の預かりなど）伊那市が行っていたりする、そのようなママに対する優遇があれば良い。おっぱいマッサージに使える券も他の市に比べ、金額が安い。また、ゴミ袋代が小諸市は高い。学区により通学時間がとても長くなってしまふ所もあり、近々、佐久市や他の市に家を建てようか検討中です。
7	0	母親	子供の医療費は最大500円で医療サービスを受けているが、無償化になるよう期待しています。
8	0	母親	・御代田町で育ったため、習い事が小学校の近くに多数あった、小諸市では習い事の場所が点在しており親の送りむかえが大変なことにおどろいた。習いごとをしやすい環境だとうれしいと思う。・双子の会がほしい（東御や佐久にはあるが…）
9	0	母親	未満児の保育料を見直してもらいたい。（高すぎる）学校給食の無料化等、少しでも家庭の負担を減らしてもらいたい。
10	0	母親	出産祝金を増やしてほしいです。
11	0	母親	医療費、給食費、他市町村のように無償化希望します。助産師さんの訪問がもっとあれば嬉しいです。7ヶ月健診や教室（?）もあると良いです。近隣の市町村はもう少し充実しているようです。父親や参加しやすい教室があると良いです。どうしても平日は行きにくい。ため。
12	0	母親	子どもと一緒に周りに気づかうことなく過ごせる遊び場が多くできるといいと思います。特に土日使える所が増えて欲しいです。夏場は室内だとありがたい。
13	0	母親	・未満児保育の金銭的支援を充実して欲しい。（オムツ代など）・お盆などの長期休みをなくして欲しい。
14	0	母親	保育園に入りたいが、あきがない。
15	0	母親	・屋外で遊べる場所は充実しているが、屋内施設は少ないと感じます。（こもロッジ、図書館くらいしか思いつきません…）。・小諸駅前駐車場ガーデンは季節の花も多くカフェもあり子どもとお散歩するのに良い所だと思います。・乳幼児向けのイベントをもっと多く企画して頂けると嬉しいです。
16	0	母親	保育園入園について、下の子（0才）が居ること、保育園が2年保育できるからと言うことで、上の子（3才）も自宅で過ごしています。子供のことを考えると、4月に入園できたら友達ができやすかったのかなと思っています。
17	0	母親	・子供の遊び場が少ない（プールや噴水、室内で遊具のある遊び場） ・未満児無償化 ・園、学校の給食無償化
18	0	母親	保育園の情報をもっと知らせてほしい。知らなかったせいで申し込みができておらず途中入園できないというふうに言われる。もっと早いうちから話してほしかった。

19	0	母親	第一子を出産し、来年保育園に預けて仕事を再開する予定です。月齢が上がるにつれ子供が成長し、育児の悩みも日々変わっていきますので、ちょっとしたことを気軽に相談できる母親のよりどころになるような窓口があればいいと思います。市役所の窓口は敷居が高く、相談しづらいです。こもロッジを利用できていないので、近々行ってみようと思っています。私が県外出身のため身近に相談できる人がいなく、孤立しやすいです。移住者の多い県ですし、そういった方への厚いフォローができる体制作りを希望いたします。
20	0	母親	給付金が増えたい 出産したら祝い金等 援助が欲しい
21	0	母親	保育料が無償でも 教材費、給食費など年々上がっている為 少しでも安くなればありがたい。
22	0	母親	2人兄弟で、兄が市立保育園の未満児クラスに通っています。弟は0歳です。兄弟バラバラの保育園になることもある、と聞きます。 そうならないためには、必ず1年で復帰しないと同じ保育園は難しいらしく… 兄が年少だったら、そういう問題もクリアになると思いますが、未満児は下の子との年齢差を開けるなどを気にしないと、保育料など経済的にも苦しいんだなと思いました。 小諸市さんは移住の方を推進してお店を開いてくださったり、最近マルシェなどもよくやってくれていて、よく行きたいとも思いますが、小さい子2人を親1人で見ながら、は厳しいものがあるので、最近足が遠のきがちです。 こもろっじも、勧められますが、予約制と聞いてから行き辛く感じて、一度も行ったことはないです。
23	0	母親	支援センターが一つしかないのが物足りないです。他に市内で遊べる室内施設が欲しいです。
24	0	母親	近隣市町村の施策で、子育て支援センターで子供用品の譲渡会をしているそうなので、小諸市でも取り入れてほしい
25	0	母親	とにかく保育園に希望通り入園できるようにしてほしい。認可保育園を希望していたが保育士不足という市の都合で入園できないにもかかわらず、認可外保育施設への手続きや費用は個人に任せるとするのは無責任ではないですか？ 公共のサービスが受けられない為に、職場復帰も遅れ、今後の様々な人生設計が狂います。早急に改善を望みます。
26	0	母親	保育園の情報がもっと欲しいです。
27	0	母親	他の地域より保育園に入園するのが 難しいとよく聞きます。職場に復帰したくても保育園に入られず、家計が苦しくなる一方で子育て世代には良い環境だと思いません。子供が安全に遊べる場所も少なく、 結局小諸から出て遊ばなくていけない。 小諸市ならではの子育て支援が増える事を願うばかりです！！
28	0	母親	0歳児からでも保育園入園に漏れることがないように保育士さんの雇用や待遇改善をしてもらえたら嬉しいです。
29	0	母親	陣痛タクシーのような出産時の移動手段のサポートを充実させてほしい
30	0	母親	比較的子育てしやすい環境ではあると思うが、もうちょっと支援があると助かるのにな…という部分もある 物価高で経済面での負担が大きくなっているの、市独自の減税や物品の支給（スーパーや薬局などで使えるミルク券、おむつ券などのチケット）があるといいと思う ※現金での支給だと育児以外のことに使ってしまう可能性もあるので、育児に関する物品のチケットだと配る側としても安心できるのではと思う
31	0	母親	広報こもろがうるさい 朝7時になると起きてしまうし、 お昼寝の時間にもなると起きる 夜早く寝てしまう時もあると起きる ご年配の方は聞こえないだろうし 今はXで情報をえたりしてるので、 やめてほしいです 医療費無料や給食費無料、子育て世代への給付金など、小諸市独自にやっていただきたい
32	0	母親	（1）保育料が高すぎる。 （2）育休退園について。 仕事復帰をしたらずぐに妊娠してしまいました。「下の子が1歳になつたら仕事復帰するのなら退園なし」のルールはともいいと思います。しかし公務員のため育休は3年取れます。第一希望の園に入園できたので悩みましたが、退園を決めました。ですが、上の子が家にいながら下の子の面倒を見るのは覚悟していた以上大変でした。上の子はまだ2歳で受け入れてくれる幼稚園ありませんでした。どこに助けを求めていいかわからず、せっかくの育休がとても苦しく辛いです。 他の方の話を聞いていたら、正社員でなく、一度仕事（パート）を辞めて1歳になる頃に「どこで働こうか」と言っている方が退園せずにいました。私は仕事を辞めたわけでもなく、復帰の時はフルタイムが待っています。 どうか育休を1年以上取れる公務員などの正社員は「1年縛り」をなくしてほしいです！ 仕事は辞めず、必ず復帰しますので。 次の復帰の時、兄弟2人が一緒に希望する保育園に入れるのか不安しかありません。（3）こども誰でも通園について。 閉鎖した保育園の跡地を利用して作っていただきたいです。育休退園の1年縛りのルールをなくして、育休退園した幼児達を優先に入れてもらえれば、保育園に空きができるので、本当に必要としている家庭が助かると思います。保育士さんが不足しているのは承知していますが、大至急お願いしたいです。行事などいろいろな事です。預かってくれるだけで助かります！ 私達は下の子の成長を見逃したくありません。 （4）保育園の入園資料について。 市から届いた入園や通園に必要な物の資料通りに準備しましたが、いざ通い始めてみると先生から「～こうしてください」と言われて大変でした。資料にはそんな事一言も書いていないし、仕事が始まってから言われても直すのが大変でした。現場の先生達とご確認をお願いしたいです。

33	0	父親	子供達が安全に生活できる環境作りをお願いします。
34	0	父親	子供のあそび場所が少なすぎる。(プール等)室内でのあそび場子供一人からの支援の充実、子育て中からしてみると住み易い市には思えない。裕福な家庭の方には良いのでは？物価高の今、国に頼らず市がもっと動くべき、給食費の無料化、園費、学費を下げる等、親の所得に関係なくしてほしい。(無料等)アンケートするなら上記の事をやるほうが良い。とても無駄に感じる。税金の無駄に感じるので、使い方をかんがえてほしい。
35	0	父親	多胎児育児を経験し、ミルク、おむつ、離乳食等全て3倍。それに関するゴミ袋等も3倍消費する。育児に対する(特に母親の)苦労は数倍とを感じるが、行政からの支援は全く感じられない。費用面での補助、例えば消耗品購入を補助してくれる等や、人的補助(〇〇ヶ月検診や、離乳食教室に出向くのも一苦労です)があるとうれしい。今の制度では利用料が高すぎる。
36	0	父親	一時的保育を利用したいが、定員オーバーのため利用不可であったことがある。ぜひ利用したい人の全員が利用できる環境づくりに力を入れていただきたいです。またこども・妊婦の医療費をゼロ円にしていきたいです。
37	0	父親	現在の環境に満足しています。引き続き子育て支援政策を継続してもらえればと思います
38	0	父親	オムツの量に対し、週1回の燃えるゴミの回収では圧倒的に頻度不足。免税などによる金銭的支援が乏しい。長野県全般ではあるが、子供よりも高齢者優先が目立つ印象。高齢者は大切にしますが、他は切り捨てているのでは？と常々考えています。市長選挙などでも子育てを応援するとの文言はあっても具体的な内容が無く、財源の確保については明記すらされていません。このアンケートに関しては反映される事を祈っていますが、恐らく無駄なのだろうとも思います。そもそも時間が中々取れないなか、これほどの量のアンケートを依頼してくるあたり、何も考えてないんだらうなと感じざるを得ません。これで反映されないのであればここまでにかけた時間はどうなるか考えて頂きたい。市民に労力・労働を課すだけ課し、対価が無い。これがこのアンケートの実態では無いでしょうか？昨今の情勢を鑑みれば、アンケート回答者に対し何かしらの報酬を用意すべきかと存じます。
39	0	父親	子育てにかかる費用への援助がもっと欲しいです
40	0	父親	給食費、保育料無償化等、子育てにかかる金銭的負担を限りなくゼロに近づけて欲しい
41	0	父親	経済的な事情で育休や2人目以降を考えることが出来ません。生活保護世帯等には補助等があるようですが、母親育休中は収入が減ってしまいますし、保育料無償化の年齢まで父親だけの収入では暮らしていけないので復職してもらえないのですが、子供の保育料を考えると生活がカツカツです。。。(子供が生まれてから毎月赤字で貯金を切り崩してなんとかやっています)医療費はほとんどかからず大変助かっていて、ちょっとした事でも病院にかかることが出来てありがたいです。ぜひ粉ミルクやオムツなどの面で子供にかかる費用をもっと減らせたならもっと先のことを考えることができそうです。
42	0	父親	市外の私立小学校に通っている場合でも、コモロッジの延長利用を認めていただきたいです。現在の条例では市立小学校に通っている場合のみ延長利用が認められていますが、その点を区別する合理的な理由がありません。
43	0	父親	子どもの医療費有料は、隣県は無料なのに、何故なのでしょう？子どもこそ、ほぼ毎月受診を必要とするのに。長野市は無料に向けて動いているようですので、小さな自治体である小諸市こそ先駆けて動くべきかと思います。また、オムツ無料の自治体、ゴミ袋配布をしている自治体もあるので、子育てしやすい、住みやすいと謳うのであれば、納税者である子育て世代にこそ還元するべきかと思います。
44	0	父親	自営業、農業従事者を対象にしていない、想定していない項目が多々ありました。項目を設けるか、そもそも回答対象から外すなどしないと、無理やり選択しただけのあまり意味のないアンケートになっていると思いました。当世帯がそうでした。
45	0	父親	医療費ゼロ
46	0	父親	早期の職場復帰を考えていたが、1歳以上にならないと保育園に預けることが出来ず、ぼっぼの家も確認したが、空きがないとの事なので、預かってくれる場所が増えるとありがたいです。職場復帰しても、保育料が高く、子どもの体調不良が長引いたりすると負担が大きい為、補助とかがあれば助かるし子どもを育てやすいです。
47	1	母親	保育園に入れるようにしてほしいです。
48	1	母親	保育園や幼稚園、新しくなる小学校の情報がもっと欲しい
49	1	母親	・児童館の利用料がかかるのを無償化してほしい ・室内の遊び場などがない ・検診時や出生届出すときなどに、ファミサポや子育て支援センターなどの案内や説明をしてほしい。 ・料金、支援、場、共に佐久市や御代田町に劣っている。

50	1	母親	下の子（１歳）を園にあずけて働きたいが保育料が高く、働いてもプラスにならないので、家で見る事しかできない。もう少し子供支援金ばど上げてくれるとうれしい。それか、保育料（未満児さん）下げてほしいです。
51	1	母親	保健師の言葉が嫌味に聞こえることがよくある。健診が嫌になることもあった。
52	1	母親	家庭支援課の方には本当に親切にいただいております。初めての育児でわからない事が多い中でも丁寧に説明していただき本当に感謝しております。ありがとうございます。子育てがんばりまーす！！
53	1	母親	休日に子供が発熱、けいれんを起こしたが、どこの病院でもみてもらえず、夜救急車を利用した。どこでも＃８０００に電話しろと言われたが時間外でかけられない。
54	1	母親	食費（給食費）を全保育、ようち園で無料にしてほしい。ふんすい公園が欲しい。プールも
55	1	母親	子育てしながらの就労は、本当に大変だと身をもって感じている。希望する保育園を３才で退園するため、次に入れなければ、仕事/働き方を変えざるを得ない。そうならないために、よろしくをお願いします。保育園には、本当に感謝している。ぜひ、先生方に手厚い報しゅうをお願いします。
56	1	母親	物価高で生活が苦しい中でも、小諸市は子供に対して何も対応してくれない。保育料を無償化にするや、１人あたりの給付金も視野にいれてくれないと、子供がどんどん減っていくと思います。子育ての環境については全く満足できません！！もう少し環境や支援について考えてほしいです。
57	1	母親	まだ先のことですが、給食の無料よりお金を払っても安心安全の栄養バランスの整った質のよいものを子供達に食べさせたいと思います。
58	1	母親	環境が充実してるとは全く思わない。１ターン、リターンなどにより、小諸市在住者への支援を手厚くしてほしい。例えば、第２子以降の定義を１８才以下にしたり、義務教育中の給食費無償化など。子育て世帯の税金（国定資産税や下水道受益者負担金など）補助など。
59	1	母親	・県の決めた第２子保育料半額はどうなるのか。・佐久はおたふくのほじょがある。 ・けんしんのスタッフのレベルが低い。 ・すべてにおいて小諸市は子育てしにくい。市長の力不足だと思う。もっと他の市町村を見て良い所を取り入れるべきだ。６年前から書いているけど何も変わらない。
60	1	母親	土よう日保育が合同なのが不満（保育園）職場からの通勤に便利な所を選び保育園にあずけているのに土よう日だけ真逆に行かなきゃいけない月もあり出勤時間にまにあわないためその月の利用を仕方なくあきらめたりしている。すごく不便。働く親のための土よう日保育なのに逆に働きづらくしている。
61	1	母親	父親が育児休業を取得し、１年後復職したが、会社から不当な扱いを受けました。父親の育児休業がもっと理解されるようになってほしい。未満児の土曜保育の利用はダメなのですか？園に希望を出すが断られてしまいます。それなら土曜保育の利用について詳しく書いておいてほしい。
62	1	母親	もっと室内で遊べる場所が増えてほしい。年齢制限なし、土日祝日営業しているような場所。
63	1	母親	当番医を充実させていただくか、医療センターが小児受入可になるようにしていただきたいです。（土日祝に当番医に連絡→小児不可、医療センター→小児不可と言われた事があり困ったため）
64	1	母親	財政状況も当然考慮しなければならないと思いますが、他市の施策も参考にしつつ、市政運営をしていただきたい。福祉医療担当職員（男性）を是非とも行っていただきたい。
65	1	母親	・医療費毎回５００円かかるのをなくしてほしい。 ・こもロッジのようないい施設を土日あけてほしい。 ・冬や雨のあそび場、あそび方を教えてほしい
66	1	母親	・小諸市に住み数年たちましたが、子育てはしやすいと思います。ただ、子育てへの支援をもう少し手厚くしてもらえるとありがたいです。他の市のようにお金面での支援もありがたいと思いますが、コロナがおちついてきたので、参加しての子供達の遊びや学び、お金ではない「物」（たとえば本やクレヨン、）などの支援でもいいと思う。あとは１人親や子供が１人で大変な思いをしている所へ、支援してあげて欲しい。小諸市で小学生くらいまでの親子でフリーマーケットや不用品（もらって使っていない物や、新品同様の物）のリサイクルで欲しい人へなどはどうでしょうか？
67	1	母親	フルタイム勤務のため保育園には大変お世話になっています。ですがやはり保育料はかなり負担があります。現在親権問題を旦那と争い（離婚は両者納得）実家に帰ってきていますが家裁で決まるまでは保育料（約４０，０００）を私が払っています。かなり負担があります。

68	1	母親	まず育児休業明け時短勤務をしつつ更に保育料を支払いと高出費です。フルでやっても子供が具合が悪くなった時の対応の職場の認識がまだうすい。晩婚化が進んできている今、もっと不妊治療など助成してほしい（増額）又は取組内容をふやすなど。
69	1	母親	0才から未就学児は病院に行くことが多いです。事情があって複数の病院に行かなくてはならない事もあり、その度に500円かかるのはなかなかの出費です。1ヶ所で済まない事もあるのでその補助とかもあると助かります。特に子供の医療費を無料にしてもらいたい。（例えば0才～15才まで）など学校で使う備品類なども補助してもらいたい。特に1年生（第1子）は買いそろえるのに大変でした。
70	1	母親	母親である自分と、父親である夫の就労体制が異なります。私は年間休日が夫よりかなり少ないため、夫が休みで私が仕事の時は希望保育で預けづらく、片方の重荷になります。在宅勤務で子供が家にいると仕事にならないため、長期休暇の際の平日、自分が仕事の時は遠慮なく預けられると良いなと思います。
71	1	母親	育児手当が入らない人のために給付金などあればありがたい。
72	1	母親	医療費を無償にしてほしい
73	1	母親	市の規模の割に幼稚園、子ども園、保育園と選択肢が多くどこがいいかわからず悩ましいです。保活について気軽に相談できる場所や人が欲しい。ママ友伝手に佐久市の小学生に対する事業（サマーキャンプ等夏休み中のイベント、海外姉妹都市との交流やホームステイ事業）が充実していそうだと聞き、羨ましく感じています。まだ先のことですが、共働きのため夏休み中どうしようかと不安です。小諸市でも何かサマーキャンプやホームステイ等の斡旋はないでしょうか？
74	1	母親	保育利用可能な就労時間の制限が厳しい こどもの医療費を無料にしてほしい
75	1	母親	いま二人目を検討中だが、懸念理由は産後ケアがもっと充実してほしいということ。産後は思った以上にしんどいけれど、その後の子育てを左右するとても大事な時期。子育て支援ではそこにもっと力を入れてほしい。他県での実体験も踏まえ、泊まりや日帰りのどちらかが選べ、格安でご飯もついてきて利用しやすい環境が必須だと思う。そこが小諸市の弱いところで、いま二人目をためらっている理由。改善をしてくださったらすぐにでも二人目が欲しいです。
76	1	母親	希望するタイミングで希望する保育園に入園できるとありがたいです。
77	1	母親	就労の理由で子供を預ける事は可能だとしても、親のリフレッシュでの一時預かりはよく思われない様子（保育士不足もあると思うが）なので、仕事以外で預ける事に罪悪感を感じてしまう。それによりストレスを溜めやすい保護者もいるのではないかと思う。
78	1	母親	予約等の必要がなく気軽に子供が遊べる室内の遊び場がほしい
79	1	母親	多少料金はかかっても良いので、雨の日など室内で遊べる場所がもっと増えると嬉しいです。
80	1	母親	出産手当金などもっとでたら嬉しい。産休にはいると、収入がなくなるのできびしい。兄弟が欲しいが、手当がもう少しであれば、いいとおもう。
81	1	母親	年少から保育園に入りましたが準備するものが多い割に、ぎりぎりの日程での説明会や書類郵送で、両親がフルタイムで仕事をしていた時だったので用意がしんどかったです。希望休も締め切った後だったので、上司に嫌な顔をされながら日程調整してもらいました。
82	1	母親	保育士さんが少なく、保育現場が大変だと思います。知識がない素人の意見ですが、給与待遇の改善や仕事内容の軽減を実現していただき保育士さんを増やしてもらえるとありがたいです。
83	1	母親	土日祝に屋内で遊べるような施設。公園の整備（夏は日陰のある公園がほぼない）。プールの再度開園。給食費無償化。
84	1	母親	少子化対策をしようとしているが、子供が多い訳ではないのに待機児童が多すぎて保育園に預けられない… まずは保育士確保をどうにか早急に進めて欲しい。待機児童で自営業だと点数が低く入れない。自営業だから子供の面倒を見れるだろうと言う考えはおかしい。家族経営の自営業だからこそ保育を頼みたい。働けなければ家計収入にダイレクトに影響する。
85	1	母親	未満児だとどうしても保育園、幼稚園に入りづらい為入れるようになるといいなあと思います。
86	1	母親	・子どもを遊ばせる所がない。 ・この先、住んでいる地区に スクールバスが来ないと 子どもの送り迎えが難しい。
87	1	父親	未満児も無料で預かっていただけると仕事に専念でき、お金の面で苦労しなくなる
88	1	父親	子育ての支援金をもっともっと増やしてほしいです。期待しております。よろしくお願い致します。
89	1	父親	子どもがいる家庭への金銭的な支援が増えて欲しい

90	1	父親	小諸市の保育園に入りづらいというのが、このエリアでは認知されており、職場では子育てする なら他の市や町が良いと口コミが広がっております。実際に他の自治体に比べて職場復帰できな い小諸市在住の社員が多く、保育園の充実がされると子育て環境のイメージもより上がると思 います。ご参考になれば幸いです。
91	1	父親	初めて子供が生まれた家庭では、保育園への申込時期（特に未満児）から分からないため、そう いった情報をプレママパパ等で教えていただけるとありがたいです。また、未満児がスムーズに 入れるよう、ご配慮をお願いいたします。
92	1	父親	近隣自治体で実施されている給食費の無料化。子育てはとにかく経済的負担が大きい。移住者は じめ子育て世代を増やしていきたいのであれば少なくとも他の自治体と同水準にしないと居住地 選択で漏れてしまうとおもいます。 こもロッジも日曜も開けて、屋内で子供が体を動かせる場 所を提供して欲しい。そういう場所が充実してくればその施設に自然に人が集まる。家の中で親 2人が2人の子供を見るよりも、こもロッジのような施設で20人の大人が20人の子を見てい る方が気が楽だと思ふし自然に親同士も話やすくストレスの解消につながると思います。こも ロッジの施設の充実を希望します。
93	1	父親	1.義務教育では、学校にかかるもの全てを無償化にしてほしい。（給食、絵の具、裁縫道具、 問題集、旅行費） 2.医療費についても500円とる必要がありますか？どうせなら無償化して もらえばワザワザ金を払う待ち時間を待つ必要がなくなり違う時間の使い方ができる。
94	1	父親	子どもの教育も大切だと思いますが、私も含めて保護者の教育が必要だと思うことが多々ありま す。
95	1	父親	市立小中保育園において自校給食としているのは、他の市町村と比べてもとても素晴らしい施策 ですので、今後も継続していただきたいです。これがあるからこそ小諸市に住んでいる（残って いる）子育て世代も少なくないと思います。 子育て支援については、支援の内容や所得制限に ついて、他の市町村と同程度かやや物足りないものと感じます。他の市町村より経済的に手厚い ものがなければ、よりよい市町村への流出は当然起きてくるように思います。現在は都心等から の流入があるかとは思いますが、やはり若い世代がここに住みたいと思える施策を、特に経済面 においての施策があると大きな魅力になると思います。 また、周辺市町村に比べ、公園やプー ルなどこどもや家族が過ごしたり遊べるところが少ないのが残念です。現在増えているキャンプ 施設などは県外などからのややハイクラスな観光客向けのものが多いように感じます。日々暮ら す地元の子どもや家族が楽しく安全に過ごせる場がもう少しあるとありがたいなと感じます。懐 古園の動物園や遊園地なども、子どもたちは大好きなのでより充実していただけると楽しめる施 設となると思います。
96	1	父親	子供の一時預かりの際、臨機応変に即応体制で対応できる仕組みが欲しい
97	1	父親	一番大変なのは子どもが体調が悪いのと仕事の繁忙期が重なった時です。一緒にいてあげたいけ れど、仕事に出なければいけない。病児保育で預けられないかと思いましたが、結局病院に行っ て診断書をもらえば半日は終わり、預けたい時に預けられないのを身をもって知りました。もっ と使いやすい制度になれば本当に困った時に助かると思います。 また、市内に木陰があるよう な公園がないので夏は暑くて外で遊べません。有料でもいいので室内で遊べるような施設が小諸 市にできれば有難いです。
98	1	無回答	未就学児の受け入れ体制をもう少し見直して頂きたい。（受け入れ人数を増やしてほしい）
99	1	無回答	市内で子育て支援、環境に差がある様に感じるが多々ある。教育委員会に伝えても、納得の いく回答は得られない（小学校に関して）長野県内をみても、もう少し子育てしやすい環境整 備、支援（ソフト、ハード）が必要ではないだろうかと感じてしまう。私でそう感じてしまうく らいなので家族の協力が得にくい人はより感じるのではないのでしょうか。
100	2	母親	保育園に途中入園がしやすい、保育士さんの確保、人数増員していただけると嬉しいです。（産 休・育休の時に定員いっぱいに入れませんでした）
101	2	母親	小児科や耳鼻科をもっと増やしてほしい。室内施設をもっと充実させてほしい。（小さい子が遊 べるところ）大きな公園をもっと欲しい。補助金の制度がもっと充実していたら、もっと嬉し い。
102	2	母親	コモロッジに主活動のある日を増やしてほしい。月2回の音楽遊びと読み聞かせしかなく、何も ない日は保育士さんと世間話する雰囲気だが、苦手。基本的に予約なくして、もっとオープンで 誰でも（兄妹も、市外の友達も）来られる場になってほしい。公民館等と連携して、子連れヨガ 等の講座やベビーマッサージ、リトミック、子育て講座、ハローワークの出張相談など、外から の空気も入るとより行きやすい。有料でもよいです。
103	2	母親	導尿をしていて保育園でみてもらえず、私がみています。去年から言っではいるのですが、そう いう体制を作ってもらえず困ります。
104	2	母親	物価高騰しているので、もう少しその辺の介入を取り組んでほしいです。オムツや食事などで給 料がほとんどなくなってしまって困っています。

105	2	母親	自分が子供だった時、親との信頼関係を築けなかったので、学校生活、社会人になってもいろいろな場面で苦手意識があり、振り返れば自分はヤングケアラーだと感じました。なのでこれから子供が成長する上で、集団生活に変化していく時、自分がどう関わるか不安です。一歩踏み出すのが怖い。
106	2	母親	小諸市内の公園に、日陰ができる工夫や、お砂場があったら、とても嬉しいです。ぜひよろしくおねがいいたします！
107	2	母親	チャイルドシートの購入や子育てに対する助成金を検討してほしい。
108	2	母親	給食費の無償化を一刻も早く実施してほしい
109	2	母親	市で行う形の運動教室など（軽井沢で行われている）があると今後ありがたいと思います。いつもありがとうございます。
110	2	母親	・一時保育に預けたくても空きがない、職員が足りていないなどで断られてしまったことがあります（何日も）安心して預けられる先が確保されると子育てがしやすいと思います。 ・復職に向け、急にあずかってほしいとなった時のあずけ先がないのが心配なのと、病児保育を利用したいときに利用できないのが心配があります。
111	2	母親	以前、住んでいた所より子育て支援や、他の支援が少くないのかなと感じています。子供たちが色んな体験や色んな遊びが出来る場所が少ないので、公園でも遊べる施設が増えたらいいと思います。休日、遊びに出かけるのも他県だったり他の市の方が多く小諸で遊びに行こうと思える場所が少ないです。
112	2	母親	土日、こもロッジの様な施設があると良いなと思います。
113	2	母親	家の近くに子供が遊べる公園などが欲しい！高齢者のことばかりでなく、子供のための施設を増やしてほしい！！保育料が高すぎるので見直してほしい。
114	2	母親	子供の具合の悪い時 気持ちよく休めたり、安心して子供を預けられないかな？第3子年齢に関わらず無料にしてもらいたい。子育て応援チケットなどとてもありがたいです。
115	2	母親	インクルーシブな公園が小諸市にあったらうれしいです。
116	2	母親	子どもの遊び場の増設→数を増やす・充実→季節ごとイベントをやるなど。長期的な子育て支援：子育てチケットの配布は有難いが、不定期なので半年に1回や年1回など継続した取り組みにして頂きたい。予算があったら、市長選があるからなど突発的な取り組みではなく。
117	2	母親	学校の（美南が丘小）駐車場がなさすぎて行事に困る。保育士の確保が難しいなら、育児中の方達にサポートの形で参加してもらって（働いてもらう）保育士の負担を少なくする！！など、皆に良い形で協力し合う！！っていう事も考えてほしい。
118	2	母親	待機児童はいないと聞いて移住して来たが、1才になる時点での入園は叶わず、こども育成課の対応も大変粗雑なものだった。佐久に住んでいる時は、妊婦への医療費補助があったが、小諸ではそのような対応は無く、非常に育児がしづらい環境である。保育の無償化が進む昨今、時代遅れな地域と言わざるをえない。
119	2	母親	もっと具合悪くなったときにサポートしてくれる制度がほしいです。外にでなくても室内であそべるところをもっとふやしてほしいです。
120	2	母親	上の子の時に頭を床にうちつける行動があり、初めての子供だったのでどうしてやるのか理解できなくて悩んでいた時に、保健センター（健康づくり課）に電話しました。どうしてそういう行動をとるのかを丁寧に教えていただき、私の心配もしてお話を聞িয়েくれました。おもわず泣いてしまいました。すごく気持ちが楽になってそのあとはとても楽しく子育てしています。嬉しい支援でした！
121	2	母親	現在保育園に通わせていただいて様々なことを親子共に学ばせてもらっています。何でも相談できる環境で、安心して子供を委ねています。最近、対機児童やきょうだい別の園など、負担の大きいご家庭もいると聞き人事でないと思います。保育士さんにとっても小諸で働いていただけるようにいい対策をしていただいて、子ども家庭が増える小諸市になってほしいと思います。
122	2	母親	子供達が使う施設や公園をもっとより良いものにしてほしい。保育園、幼稚園、公園の遊具など古くなっているものが多い。市役所などの大人の施設ばかり新しくするのではなく、もっと子供達に目をむけてほしい。
123	2	母親	美南ヶ丘小学校へ通う予定ですが、遠すぎるように感じます。通学路が遠回りな上、あまり安全な道路ではないので心配です。欲を言えば、もう一校、小学校が増えるといいです。（保育園も足りてない）

124	2	母親	・ 3歳以下をみてる病院がない（緊急で電話をしても全て断られ、佐久総合病院、本院まで行った。） ・ 双子など多胎児の支援がない…兄弟と違い、同時にお金がかかるのに（おさがりなどができない） ・ 保育園の立地が悪い（公立の保育園） ・ 保育士の人員不足で入園希望が通らない。 ・ 病児保育の保育料が高く選択肢に入らない。また利用条件（手続き）が煩雑でそこまでするなら仕事を休む選択をとってしまう ・ 小諸市独自で子供に対する手当を創出してほしい。もしくは以前、配布していただいた“こもろ子育て応援チケット”を定期的（2ヶ月に1回など）に配布していただけるとありがたいです。
125	2	母親	未満児を保育園あずかってもらえない、とかいろいろ子育てに対する環境がとても良くない。子供のあそべる場所が少ない。子供を産むなら他の市のが良いとさえ思う。もう少しいろいろがんばってほしいです。
126	2	母親	シングルマザーの家庭の経済的支援をもっと積極的にねがいたい。物価高騰給付金や割引券、等欲しいです。
127	2	母親	小諸市内で室内で遊べる場所（雨の時、子どもがまだ歩けない頃遊べる所）が欲しい。南城プールがなくなったのがとても残念。
128	2	母親	朝8時からの受入（登園）が積極的にしてもらえるとありがたい。短時間の16時までが難しい。長くなるといい。2、3人めが登園していないと割引きがないが、保育料軽減してもらえると助かる。←今年度改定の案内が来たがもっと早くからあると上の子達の時助かった。今後小学校、中学校の負担軽減のためにもお願いしたい。
129	2	母親	近隣の市町村は保育料等の無料（第3子）や給食費の助成があるのに対し、小諸市は対応が遅い。また、市役所などに相談に行ってもマニュアル通りの事しか言わず、不親切だと思う。
130	2	母親	未満児の保育料無料にしてほしい。
131	2	母親	公園の設備を増やしてほしい。あったとしても古いので逆にこわい。
132	2	母親	佐久市では妊娠中、妊婦の医療費も子供と同じように月500円でした。出産前にできる治療などを行うきっかけになったので、ぜひ小諸市も取り入れて欲しいです。
133	2	母親	病児保育の利用するにあたり、病院での診断書にお金かかるのと、利用料金もかかるので、使いたいけど、使いづらいので、もう少し考えて頂ければと感じます。
134	2	母親	保育園を増やして欲しい。 保育料を下げしてほしい。 オムツの処理は保育園でしてほしい。
135	2	母親	公教育を早急に改革してほしい。いつまでも戦後の教育を続けないでほしい。自治体だからこそ市民を巻き込んでできることはあると思う。
136	2	母親	とても答えにくいアンケートでした。 もっと大まかに答えやすいものにしてください。入力形式も分かりにくく、時間がかかりました。どういう施策のためのアンケートなのか趣旨ももっと丁寧に説明していただきたいです。 教育に必要な保育士、幼稚園教諭、学校教員の待遇改善をして採用人数を増やしてください。どこも人手不足と聞いており不安しかありません。学校設備や子どもの遊び場の経年劣化などを放置されているのも不安です。人手不足、教育予算の不十分さが子どもの安全を脅かします。保育士の採用人数は増えたと新聞で見ましたが、あまり何かに改善されたようには見えません。
137	2	母親	未満児での入園の定員人数を増やしてほしい。希望する保育園に入れるようにしてほしい。兄弟一緒に保育園に入れるように配慮してほしい。多胎児のいる家庭への支援を考えてほしい。
138	2	母親	長男はこもロッジを利用していたが、今は保育士の質が悪く利用する気持ちになれない。世間話、噂話ばかりしており、子どもに挨拶すらしない。職務怠慢。やる気ゼロ。
139	2	母親	昨年度から保育園の未満児のオムツ持ち帰りが無くなりとても助かっています。 保育園の制度の希望は、 1）給食で幼児組のご飯持参がなくなると本当に助かります。特に夏場は食中毒も心配ですし…。全国的なことなので難しいと思いますが、実現したら小諸市のアピールポイントになると思います！ 2）書類の認印を廃止してほしいです 3）保育士の退職者が減るような待遇改善や仕事の軽減をお願いします。お世話になった先生が若くして辞めてしまうのは寂しいです。

140	2	母親	もっと積極的に子供の過ごしやすい環境作りに取り組んで頂けたら嬉しいです。なにをするにもお金がかかり、今後の成長を安心して見守ることが出来ず困っています。全てを援助して欲しいとは言わないので、助成金を出したり、市から区に防犯灯、防犯カメラの設置、道路の幅を広げたりするなど、もっと積極的に声をかけて欲しいと思います。子供を増やすためには子供の過ごしやすい、暮らしやすい状況作り、親がここなら子育てしやすくなるのではないかと、思えるような支援を考えて欲しいです。他の自治体と比べると劣っている箇所が多く思えるので、他の自治体の活動を参考にし、活用して欲しいです。お忙しい中お手数お掛け致しますがよろしくお願いします。
141	2	母親	保育士確保のため、ありとあらゆる手を尽くしていただきたい。公園が少なすぎる。御影公園なんてひどいものだ。石碑があるだけで草が生い茂ってるだけの公園なんて意味がない。雨の日でも遊べる施設が増えて欲しい。ファミサポは事前に日にちを決めて利用する方式じゃ正直意味がない。本当に助けてほしいときは急にくる。そんなときにすぐ利用できる体制をとってほしい。登録したけど結局かたちだけで何の役にも立っていない。
142	2	母親	3歳未満の育児にかかる金額が多いので、支援をしてほしい。
143	2	母親	一年育休を延長し、企業枠で提携している保育園に入園できましたが、小諸市で保育園に未満児を入園させるのは難しいと感じています。
144	2	母親	公立保育園、小学校が、一斉的な学びが多い気がするので、大人も子どもも主体的な学びができる場であつたらいい感じます。
145	2	父親	雨や雪の日に遊べる施設などがあればいいと思います。
146	2	父親	全国的な状況や、周囲自治体の動向を鑑み、給食費への支援を拡充すべきではないか。子ども・若者がいないと、自治体としての存続は見通せない。小諸中心部に活気が出てきてはいるが、高齢者や富裕層向けのもが多く、若い人が気軽にに行ける場所や施設がない。観光客も大切だが、自治体存続のために、子ども・若者へもっと意識を向けるべきだと考える。現状では移住を考える人が周辺の子育て支援が豊かな自治体に流れてしまう。ご検討ください。
147	2	父親	育児をしていると、自分から調べて今使える制度など知るための時間を確保するだけでも努力が必要だったりするので、知るためのきっかけや、キーワードの周知をお願いしたいです。
148	2	父親	・預かり保育が空きが無いことが多い。 ・預かり保育の理由を根掘り葉掘り聞かれることがあるので困る。
149	2	父親	場所によって医療費負担額が500円以上になるのがよく分からない。負担をへらしてほしい。
150	2	父親	・小学校、中学校が遠い、御影地区に小学校を増やしてほしい ・小学校、中学校までの歩道がなく交通事故への不安がある。
151	2	父親	・給食費医療費・水あそびができる場所（できれば無料で） ・赤ちゃんが食事しやすい所
152	2	父親	保育園や幼稚園、認定こども園のシステムがわかりづらいので、わかりやすく説明してもらえる機会が欲しい。
153	2	父親	他の自治体での取り組みや支援内容を共有して今後の教育環境、子育て支援に生かして下さい。
154	2	父親	保育園に上の子も含めて全て落ちました。なので現在幼稚園に通わせています。とても子育てし難いです。御代田は子供の給食費無料と聞きました。小諸も何か子育て支援してください。
155	2	父親	未満児保育が十分でない。待機児童が発生しているので、早期解消に努めてほしい。
156	2	父親	土曜保育の需要がないためか、普通通りの対応をしてもらえなくなっている。園の取り決めが強く、使用者の意見を取り入れてもらえない。
157	2	父親	希望する（自宅近くの）保育園に入れるようにしてほしい
158	2	父親	子育ての相談窓口が充実している印象です。父親学級に参加した時も保健師さんや助産師さんなどから、よく声をかけていただくなど満足しています。ただ、その周知が十分かというと少し疑問符がつきます。また、子どもの遊ぶ施設などについて残念に思うところがあります。（園そのものには満足していますが）南城の保育園の開設場所の決定プロセスや、南城プールの閉鎖など。ハード面での子育て環境の充実を望みます。
159	3	母親	希望する保育園に入りたい。支援がもっとほしい

160	3	母親	保育料が高い
161	3	母親	学童保育、小学校の案内がほしい。学校見学や質問を受けてくれるところがありますか？高校、大学のように早くに学校生活を知る機会があると良い。環境によっては転職が必要だったり引っ越しを検討したりする必要がある。
162	3	母親	・小中学校の全児童 給食無償化・南城公園プールの再利用、プールや噴水等夏でも楽しめる場所 ・子育て支援施設（子ども広場、室内遊技場）雨でも遊べる場所の増設 ・保育士、教師等の給与の増額
163	3	母親	育休退園をなくすよう、保育士さんの確保など検討してほしい。上の子が退園になってしまったため2人目の育休を前倒しして復職し数年経ちますが、もっと一緒にいてあげたかったなと今でも考えます。簡単にはいかないとは思いますが、同じような気持ちになる母親が少なくなればいいなと思っています。
164	3	母親	日曜も保育が利用したい。3才未満も保育料無償化希望。子供の病院が少ない
165	3	母親	こもろっじを、年少以降も利用できるように復活させてほしい。日、祝日でも仕事で子供あずけられる施設がほしい。お盆、年末年始も仕事なのであずかってもらいたい。主人と2人で休みをとるのしんどいです。
166	3	母親	0カ月健診の際の流れをもっとスムーズにして欲しい。話をしたり見てもらう時間よりも待つ時間の方が長く、小さい子供が我慢できるわけがないので、少しでも早く進めて終わらせて欲しい。又始まる時間もお昼頃とお昼寝の時間に影響があり、子供の負担が大きいです。改善して欲しいです。出産一時金やマイナンバーの決定通知書などが申請してから、受け取るまで時間が掛かりすぎている。大体1ヶ月掛かるのは遅すぎだと思います。
167	3	母親	子供をのびのび遊ばせる場所が少ない。子供用品を買う場所が市内に少ない。水あそびできる場所公園などが市内にない。おたふくの予防接種費用の助成がない（佐久市はある）
168	3	母親	・子供の遊べる場が少ないように思う。時に室内施設の充実をお願いしたい。（雨天時、夏の猛暑時、冬時期など、市内で遊べる場所がほとんどなく、市外の施設、遊び場を利用しているの） ・一時保育を利用したかったが、どこも空きがなく利用したい時にできなかった。 ・医療費、給食費の無償化も近い将来でも良いので現実してほしい。
169	3	母親	小児科を増やしてほしい。
170	3	母親	室内で子どもが遊べるところが少ない。休みの日の遊び場に悩む。こもロッジは就学して保育園、幼稚園に登園している人は利用できない。利用できるとありがたい。
171	3	母親	子育て世代の人たちに、給付金が配られた時に物価高で少しでも足しになったので、また支援があるとありがたい。
172	3	母親	土日祝もこもロッジ開放してほしい。園児でも開放してほしい。
173	3	母親	一時保育はいつもいっぱい予約を取りづらいし、取れない。子供のあそび場所（公園以外）が少ない。暑い時期、寒い時期に行ける場所がない。
174	3	母親	子育てサポートの支援がもっとあればいい。商品券や割引券のサポートがあるといい。
175	3	母親	子育て世代への支援が少なく感じる。保育園の希望保育日が多い。年度末など1週間給食なしの希望保育だったが1週間は長すぎるのでせめて1日2日にしてほしい。働いてないと保育園にあずけられないのに希望保育や保育研究日などが多く、仕事を休まないといけないことが多いので、できるだけ保育園をあけてほしい。産前産後の支援も少ないと感じた。小諸は好きだが、子育てしづらい環境だと思う。
176	3	母親	幼稚園も17:00まで無料になったらうれしいです。夏休みも無料になったら最高です！保育園に入りたくても入れなかったのが、2人いるため、地味に延長料金が発生するのがタイ...
177	3	母親	医療費の無料化、給食費の無料化、所得制限撤廃、1000万円以上でも、高校の無料化
178	3	母親	児童手当や子育て、出産に対する支援が少ない。多子世帯への支援を充実させてほしい。税金を高く取るなら、少子化の中で子どもを産み育てている家庭へもう少し還元してほしい。

179	3	母親	・もう少し子育て世代に優しい小諸市にしてもらいたい ・学校用品が高すぎる、すぐサイズも変わってしまうのにいい値段で困る。 ・運動着や、くつなど、もう少し安くならないものかと思っている ・給食費を無料にしてもらいたい。 ・不妊で悩んでいる人に、支援をしてもらいたい。少子化を何とかするには、一番、そこに力を入れるべきだと私は思う。
180	3	母親	年長さんの（夏休み前）時期に学童保育、児童館などの情報を得るには、どちらに相談できるのでしょうか。親の働き方などにも影響が出ることなので、まんべんなく発信していただく機会があるとありがたいと思います。
181	3	母親	ファミリーサポートを利用したいと思いましたが、（子供の習い事の送迎などで）利用料が高く、気軽に利用できる制度ではない感じがしたので、親の通院や子供の送迎で誰かの手助けが必要な時にもっと気軽に利用できる制度があるとありがたいなと思います。
182	3	母親	・いずれ東小学校に入学予定ですが、知人のお子さん（東小に通学中）が、東小のトイレ（洋式トイレが行列になり）が古く一日中排便をがまんして帰りに近くの児童館でトイレに寄って帰宅するという話を聞き、不安に思っています。 ・「香害」という言葉を耳にしますが、柔軟剤や芳香剤に使用される香料などに毒性のある化学物質が含まれているという情報があり、子どもたちへの健康被害をととても心配しています。安曇野市の「香害」に対する取り組みを目にし、ぜひ小諸市でも取り入れていただけたらと強く望んでいます。
183	3	母親	・親が体調を崩した時緊急時など預け先がないので、そういうときに利用できる場所や支援があると大変ありがたいです。 ・体育館的な子どもが気軽に利用できる場所や施設が増えると日々が充実すると思います。夏場なかなかの酷暑で外では遊びづらくなってきていて、行く場所が限られてしまう。 ・幼稚園等の保育施設での冷暖房の充実、温水対応やトイレの立替など教育、保育環境の充実を希望します。
184	3	母親	0～3歳未満児の時の土曜保育を園から理由などくわしくきかれ、その内容ではあずけられないとことわられたことが何度もあったし、（お葬式準備等）あからさまに土曜保育あずけないで下さい、すぐお迎えに来てくださいと言われたり、仕事であずけていても嫌な思いをした。
185	3	母親	子育てしやすい環境や支援、ありがとうございます。補助金もありがたいです。水あそびできる公園があったら嬉しいです。
186	3	母親	水で遊ぶ場がほしい。
187	3	母親	・雨の日の休日などに、遊べる室内施設がないこと、
188	3	母親	毎日幼稚園の先生たちは明るくていねいに子どもたちを見てくれているので安心して預けることができます。先生たちがこれからも”先生を続けたい”と思えるような環境にしてほしいです。
189	3	母親	・プールができれば遊べていい。 ・日陰のある公園があったら休めていい。（南城は陽あたりよすぎて、暑いので困る） ・ふん水であそべる場所がほしい。
190	3	母親	給食費の無償化。
191	3	母親	小学校までの道が遠いが、車社会の為、車通りの激しい道が多い。スクールバスを検討して欲しい。事故があってからでは遅い。土曜保育は17:30までだが、仕事が17:30までの場合とても困る。
192	3	母親	収入面で子供を産む事に不安があったりするので生まれた後の支援をもっと充実してほしい。産みたくても産めない人が多いと思う。
193	3	母親	子供のいる人が働きやすい環境（小さい子供がいても働ける環境作り、求人、資格取得、学校支援など、キャリアアップのサポート）を小諸市に作ってほしい。子供がいるだけで、就活で断られる事が多い（フルタイムで働けない、休む事が多いなどの理由）ので、無償or格安で預けられる環境やフルタイムで働く時の幼稚園の金額サポート、子育てしている人の収入を増やすサポートをしてほしい。収入が増えれば、教育にも力をいれられるし、子供を産んで増やそうと思える。
194	3	母親	子育てとは、子供が就職するまで続くと思います。大学や専門学校への進学となると、一気に出費が増えます。子供の夢をかなえたい親はお金を借りてまでも進学させます。少子化をくいどめるには、就職まで無償化とまではいきませんが、とにかく大学、専門学校無償化を実現させなければ子どもを安心して育てられないと思います。国への意見です。要望としてあげてください。

195	3	母親	支援が手薄い
196	3	母親	第二子を出産予定ですが、育休延長となった場合は上の子が一時退園しなければならないと言われました。復職をしたくとも点数や園の空き次第では希望が通らない可能性もあるかと思えます。子育て支援というのであれば、仕事をしたい人ができる限り望むタイミングで入園でき、育児と仕事に取り組みめるよう配慮いただきたいです。財政状況により難しいのかもしれませんが、保育士さんや延長の先生方の給与を上げるなど人材確保するところからしっかり見直していただきたいです。
197	3	母親	物価や電気代が高騰していくのに、給料は上がらず、生活がどんどん苦しくなる一方。少子高齢化と言う割に、支援は少ない。もっと支援が欲しい（金銭面的に）。この市で子育てすれば支援も豊富で良いと思えるような環境作りにもしてもらえれば、人口が少しは増えていくのではないかと。切実にお願ひします。
198	3	母親	小諸市のお盆時期や年末年始の保育園の休業日のやり繰りについて大変苦慮しております。父親が年末年始年始のお休みが短くお盆休みはなし、母親は一年中シフト制の不定期勤務です。自営の祖父母などの都合もあり気軽に祖父母を頼れない状況です。希望制で保育の受け入れとなる期間についても、給食の提供がない点が働く親にとってはかなりの負担です。普通に仕事をしながら連日子供用のお弁当を作るのは大変です。佐久市は夏期などの休業がなく、給食の提供もあると聞いています。当方、佐久から住居を構えるにあたり移住してきたため、その点については佐久に住めばよかったと後悔しています。共働きでフルタイムで働いてる家庭からすると、休業設けない形にしていただけるとありがたいと思います。また、病児保育があるのは大変ありがたいのですが、預けるまでのステップが多くまた自宅から距離があるため利用しづらいです。主治医の意見書など必要なのは十分承知なのですが、もう少し気軽に利用できる形になればとても助かります。以上の点について子育て環境の改善として御検討いただければと思います。
199	3	母親	雨の日に遊べる施設やプールなど子供が遊べる施設がない。また、小児科が少ない、小児専門の歯医者さんがない。子育てしやすい環境とは言えないと思う。
200	3	母親	所得に関係なく金銭的な支援がほしい。また、3歳を過ぎても利用できるこもロッジのような施設や雨天でも利用できる遊び場、ファミサポだけでなく例えば赤ちゃんを見ている間に家事のサポートを受けられるサービスなど、環境的な支援も欲しい。
201	3	母親	環境は悪いとは言わないが、お金がかかることが多い。もう少し補助がほしい。 経済的な理由で子供を産まない人が周りにいる。（若い層）
202	3	母親	保育園の休みが多い。
203	3	母親	未就学～小学生までが遊べる屋内施設がなく、家で過ごすことが多くなってしまう為、そういった施設をつくってほしい。
204	3	母親	こもロッジを楽しく、ありがたく利用させていただきました。子どもが幼稚園に通うようになり、また3歳も過ぎたので利用できなくなりましたが本人はよく行きたいといひます。良い思い出になっているようです。 こもロッジのように走り回って遊べて、暑さ寒さへの対策もされていて保育士さんまでいる、安心安全な施設が未就園児じゃなくても利用できたらいいなあと思ひます。未就学児用、小学生用にもあったら素敵だなあ。その建物に習字やピアノなんかの教室があつて通えたり、近くにはスーパーもあつたりしたら便利だなあ。 ぜひご検討ください。
205	3	母親	土曜保育、各園でできるようにしていただきたい。希望者の人数と保育士の人員確保の問題があるのかと思ひますが、3園合同保育で他園に行かなければならないのは、子供も人見知り場所見知りなどがあつて可哀想。今は仕方がなく祖父母宅に預かつてもらっているが、自園で土曜保育していただければ預けたい。
206	3	母親	室内遊び場を増やして欲しい 公園の遊具の整備
207	3	母親	小学校3校合併の件で、通学路の整備をお願いします。バス通学の範囲もぜひ柔軟に検討してもらひたいです。（低学年はバス通学許可など） 駐車場、学童についても、子どもの安全第一に検討を進めて欲しいです。
208	3	母親	夏は暑く、冬は寒いので室内遊具（群馬県にあるあそびパークBの国みたいな） 広い遊び場を作つて欲しいです。 あとは子供の通学路の安全性が心配です。 運転するのは高齢者も多いためにちゃんと歩道スペースを確保して安全に通学できると良いなと思ひます。
209	3	母親	子供や親にとってプラスになるサービスがもっとあつても良いと思う。周辺の他の市と比較して恩恵をあまり感じない。
210	3	母親	給食費の無料化が他近隣地域では行われているのに、小諸市はされていない。園舎が古いところが多く、わかりやすい部分の子育て支援について他地域を羨ましく思ひ事が多い。

211	3	母親	病児保育は高額で活用しにくい。 障害児に対する保育、教育についての情報が無い。
212	3	父親	緊急の時に子供を預けられる人がいない。
213	3	父親	一番行きたかったタイミングでもこもロッジが予約制であったりととても不便でした（なので一度も行ったところはないし、今後も行かないと思う。）市内にプールなど、水場の遊ぶ場所がないのがざんねん。南城公園のプールetc廃止になっているようですが、改修もしくは再建してほしい！子供たちが小諸の事を「なにもない所」とっているのは残念です。
214	3	父親	・市の範中では無いと思うが高校、大学まで教育費の無償化をして欲しい・明石市みたいな支援をして欲しい、できたらで。
215	3	父親	こども誰でも通園制度について、本格導入の前に試行的実施も検討願いたい
216	3	父親	給食費無償化希望。
217	3	父親	習い事などの金銭的補助など
218	3	父親	幼稚園保育園の1クラスの園児に対して先生数が少なく日々の保育が大変そう。未満児クラスは尚更。 人員配置に余裕を持って安心安全な保育をしてほしい。 このままではニュースで報道されている園バス内に放置され死亡事故等が起こりかねない。 有資格者を増員するには根本である賃金アップが必要。 安い賃金で責任の大きい仕事は誰もやりたがらないのは当たり前。 親目線のアンケートもいいが先生目線のアンケートも実施して市は現状を知り、保育現場を改善していく方が優先だと思う。
219	3	父親	給食費無料にしてほしい
220	3	父親	近隣の都市に比べて小諸市が保育園、幼稚園に入りにくい状況は会社の同僚の間でも周知されており、それが原因で小諸への移住が考えられないという話もよく聞きます。保育士の確保は最優先事項として取り組んで頂きたいです。
221	4	母親	未満児の保育料も無料にしてほしい。
222	4	母親	就学後の習い事の送迎にあいのりくんは活用できると思いますが最後が16時なので、もう1時間後の17時になると便利だと思います。
223	4	母親	仕事の為休みを取りづらく長期休みの時に預ける等（小学校も含め）どうしたらいいか分からない。こもロッジや児童館や預ける場所がある事も周りからの話で聞く事が多い。どういう場所か、どういう事が出来るかとか気軽に情報収集できるのがあるといいなと思った。
224	4	母親	住んでいる所が、子育てしづらい。草かりとかでないと年間7千円位払います。今は、少しおおきくなったが赤ちゃんを家において、草かりに行けますか？それにペナルティーでお金をはらうのはおかしくないですか？ちなみに宮沢です。
225	4	母親	保育施設や学校など老朽化しているため、新しくして欲しい。
226	4	母親	子どもの遊ぶ場をしっかりと整備してほしい。
227	4	母親	・移住を促進しているが公園の数が圧倒的に少ない・市民プールを再開してほしい・スポーツなどの習い事など佐久市に行かなければならない・施設の充実？イベント？が駅周辺のみだと思う
228	4	母親	児童館利用で、時間内でない時利用料金がかかるのはどうなのか。佐久市ではかからないなど近隣の市町村ではかからないのにどうにかしてほしい。もう少し子育てに支援してほしい。
229	4	母親	子どもが3人居るが多子世帯の補助があると助かる。また給食費が無償化になって欲しい。可処分所得が増えない中で子どもが大きくなるにつれ色々とお金がかかり先が不安です。少子化の中、懸命に子育てしてるので少しでも「小諸市は子育てしやすい」と思える環境が出来ると嬉しい。
230	4	母親	一人親でがんばっているが、生活する為に一生懸命働いたら収入制限を超えてしまったため母子福祉医療を受けられなくなり、手当もなくなった。しかし手取りは社保などたくさん引かれて日々経済的に苦しい。一人親に関して、所得制限の上限をもっと上げてほしい。又、制限超えても福祉医療くらいはせめて継続してほしい。切実に

231	4	母親	7月上旬に担任の先生より「娘の1番の仲良しの子がお休みに不安になっていたから、今の保育園だと小学校も遠く、大丈夫か心配になるので、転園したかどうか？」と話された。でも、1番の仲良しの子が園を休んだことは今でもあり、その1回の不安になった事で言われた事に納得いかず、しかも担任から、今の段階で転園の話をされることに、不安になる。私自身、現在妊娠しており、その事もあり、娘も少し情緒不安定になっているのは、担任の先生も良く分かっているはずなのに。
232	4	母親	子育てする上で、もっと遊ばせる施設が欲しい、保育環境を向上させて欲しい、子育てはぜひ小諸で！というような魅力が1つもないので、もっとがんばって下さい。
233	4	母親	病院が少ない（耳鼻科、皮膚科、小児科、眼科）中学校もスクールバスにしてほしい。親の送迎、熱中症などが心配。有料or市が半分負担して欲しい。小中合併したら、室内プールを作ってほしい。（天候に左右されず泳げるように）
234	4	母親	・保育士が不足している こども誰でも通園制度はとても良いと思うため、一般の幼稚園や保育園を制限なくこども誰でも通園にした方が良いと思う。 ・両親の就労に関係なく小学生の児童クラブや児童館の利用ができると大変助かると思う
235	4	母親	東保育園の駐車場をきれいにしてほしい。東保育園東側駐車場の階段が木なので雨が降った時など滑って危ない！！
236	4	母親	子供の支援体制充実はもちろんだんだんと良くなるのはいいが、環境が充実していても、それを利用する費用と手間がない。そういう「余裕」がある人が利用しても、本当に必要としている人達に届いて、利用・活用できているのか。
237	4	母親	ショッピングモール、本屋もなく子供が遊ぶ場所が少ない。西松屋も佐久よりにあるので駅付近に住んでいると不便です。浅間病院がかかりつけ医でしたが1歳の時に小諸に引っ越してきた為風邪をひいた時に小諸市の小児科を探しましたが初診という理由で2つの病院に断られました。引っ越してきたことを伝えても断られました。夜間もこもろ医療センターでは診てもらえないので医療面を充実させていただきたいです。
238	4	母親	児童館利用の無償化 長期休暇中、児童館での昼食提供希望（特に夏季休暇中のお弁当は食中毒も心配なので、希望者が購入できるパンやお弁当等があると嬉しいです） こどもの看護休暇所得時に、無給の場合があるので取得者が対象の給付金制度がほしいです
239	4	母親	仕事を休みづらい為、小学校と保育園の参観日などの行事を連日にしないでもらいたい。
240	4	母親	子供手当の充実 インフルエンザ接種の割引や入学前の資金援助
241	4	母親	土日仕事があるので短時間でも子供をみてくれるところがあるといい。 兄弟に支援が必要な子がいるが そういう子の居場所がない。 わざわざ遠方まで放デイの送迎が辛い 健常の子たちだけでなく サポートが必要な子達も生活しやすい環境になるといい
242	4	母親	町中に、もう少し子供が遊べる遊具のある公園や、室内で遊べる場所などがあるといいと思います。
243	4	母親	・夏休み等の児童館利用開始時間が遅すぎる。近隣の市と合わせてほしいです。9:30からで仕事に間に合う親はほばいないのでは？
244	4	母親	子育て応援チケットは、とても助かりました。 今後も応援チケットがあると、親子共に気分転換ができたり、心に余裕がでたりと、小諸市に在住してよかったと思えます。 宜しくお願いいたします。
245	4	母親	医療費高校生まで無料、給食費無料だと家計の負担が少なく子供を沢山産み育てたいと思います。
246	4	母親	児童館の利用料が高いと感じます。必要がある家庭への支援を充実させてほしいです。また、給食費も負担が大きいです。振込手数料もかかっている負担が大きいです。
247	4	母親	・乳幼児検診の日時がいつもお昼寝・平日なので調整が大変だった。用事があったりして抜けたりしている人も多かったので、午前中などだと嬉しかった。 ・小学校が少なく、通学に徒歩一時間近くかかる学区もある。スクールバスなどの導入を検討してほしい。 ・小学校・幼稚園で配られる配布物で、宗教法人や、よくわからないNPO団体のセミナーなどが多いのが気になっている。 ・園の先生、学校の先生にとってもよくしてもらっているので、職員の方の待遇をあげて、より保育・教育の質をあげてほしい。
248	4	父親	・市からの出産祝い金（3人目以上とか、低所得者に限るでも良いのであると嬉しい。）

249	4	父親	保育園に預けていますが前は19:00まで預かっていただけたのに18:30までしかあずかりしてくれなくなっているのはなぜか？19:00までにもどしてほしい。仕事で困っている。有料でもいいのをお願いしたい。
250	4	父親	・預かり保育を年間チケットで配布して欲しいです。又、なぜ保育園が就業していない母親だと入園できないのか不思議です。保育園が近くても幼稚園に通うのがバスになってしまい、不満に思います。
251	4	父親	土日に予約制でもいいので、数時間預かってもらえる施設が欲しい 平日の急な病気時、どうしても仕事を休めない場面があります。 気軽に預けられる施設が欲しい
252	4	父親	保育園の選択肢が少ない。さまざまなコンセプトの保育園があっても良いと思う。今通っている保育園もみんな同じという意識が強く個性が育たない環境と思う。
253	4	父親	コンパクトシティをうたっているが、小諸市の街中でも段差等でベビーカーが押しづらい場所が多かったり、歩道が狭くてベビーカー同士ですれ違いが出来ない場所や、橋の欄干の隙間が大きくて子供が川に落ちてしまうんじゃないかという危険そうな場所が多かったりするの、そこら辺の大きな建物以外の所の整備もお願いしたい。
254	4	父親	子育て支援をもっと見えるようにして欲しい。
255	4	父親	2025年からの大学無償化制度ですが、「子どもが3人以上同時に扶養されている」のが絶対条件となっており、第1子が大学等を卒業し扶養から外れてしまうと制度が適用されません。もう少し、緩和してもらいたいです。
256	4	父親	学校等が長期休みの際における学童の利用に関して、有料でも構わないので食事の支給等の支援を行って頂きたいです。（学童を利用している方からの情報で長期休みの際のお弁当作りで苦労されている話を伺ったため）
257	5	母親	小諸に住み始め一年が経ちますが、保育園は少ない、入れない、園児はパンク状態なのにいつまでたっても親は仕事ができない。このご時世働かないとやっていけないのに園は拒否するばかり、もっと園を増やしたり、子どもがもっと遊べる場所を作ったほうがいいと思う。何もなさ過ぎて逆に皆はどうやって過ごしているのか不思議です。
258	5	母親	南保育園にはとても問題があると思います。なぜ市は対応しないのですか？
259	5	母親	市立保育園の保育士が少ないと思います。パート職員の方もいますが、正職員が少ないので、子供達の保育にしっかり届いていないと感じます。もっと若い職員やパート職員の教育をしっかりしてほしい。正職員の給与を見直し子供をあずかる大変な仕事なので給与を市職員と同じくらいに上げたらどうか？
260	5	母親	住んでいる地区で長年にわたり、通学、子どもの送迎の道路について相談し話を聞いてもらったが対応していただけない。これから小諸市は教育、環境整備について大切な時、注目される時をむかえるので「その地区だけ対応できない」などと遠ざけず各方面しっかりと対応して頂きたい。防災マップに載っている道が通学、送迎に使用されておりこわい。（落石、とう木など）
261	5	母親	配偶者からの暴力、暴言などを気軽に相談できる場所、相手（話を聞いてくれる）などがわかりやすい情報があればいいなと思います。（あったらすみません）たとえば離婚するにあたっての色々な心配事を相談などをさせてくれたりなど。わかりづらくてすみません。
262	5	母親	保育士、教員が不足していると感じます。小学校ではボランティアを募集していましたが、正直おじいさんおばあさんがボランティアで入る事に不安な保護者も多いです。（昔の考えもあり、声かけで「そのくらい1年生なんだからできないと」などと言われて悲しい思いをした友人がいました。）保育園や幼稚園に通わせている子のお母さん達で昼間働けない（時間的に9時～15時の間を探している人が多い。）人達をパートとして保育園や学校などの補助に入ってもらった方が育児の経験も高いので戦力になるのでは？とったりしています。
263	5	母親	子供が病気になった時父親も休めるように対応して欲しい。母親、父親（両親）学級、育児学級に強制的に父親に参加して欲しい。じゃないと父親教育、育児etcにダラダラする！！母親だけが育児をするば良いと思ってしまう！！（昭和の男→今は令和なのに）子供の事なのに母親一人で育児etcやって父親は意見全く言わない。←あとになって色々言ってくる。子育てが大変って事父親分かってくれないし協力的ではない！！協力的になるように色々と支援をして欲しい！！

264	5	母親	佐久市などは第3子以降の保育料などは無償化しているのに小諸はそのような取り組みをしていないため3人以上、子供がいる家庭はお金もこれからかかるのに未満児の保育料が高いため、働かないといけないのに実質ボランティアのような形になってしまう為、働きたくても働けないと言う人が周りにもいたりしたので第3子以降は保育料の無料化をしてほしい。（同時に通園してなくても）
265	5	母親	児童扶養手当が受取されない家庭でも進学にかかる費用を市から少しでも出していただけると、母子家庭で実家暮らしの方は少し楽になるんじゃないですかね。養育費も少なく経済的にきびしい方は、他にも居ると思います。実家暮らしでも少しでいいのでお金の支給があるととても子育てに助かります。
266	5	母親	園にあずかってもらう時間で2号短時間や2号標準がありますが、2号短時間の人が16:30を過ぎるとお金を払わなければいけないのをやめてほしいです。働く時間が短くても17時や17:30まで働いている人はいるので、考えなおしてほしいです。
267	5	母親	こもロッジですが、コロナ中に利用制限があったのは理解できるのですが、電話対応や予約なしで訪れた際など、冷たい対応が続きました。行く場がなく困っている人が来るかもしれないとの考えがないように感じ残念でした。元気に来れる母親だけでなく、行きづらい人、本当に困った状況にある人も、見落とさないよう意識して行ってほしいと感じます。
268	5	母親	実家や、地元も遠くまわりに知人も居ない環境で子育ては大変です。主人は仕事がいそがしく、母親としての仕事が多く外で働きたくても働けない。一時保育のあずかりも断られるなどあり、幼稚園に入るまではつらかったのがこれからそういう母親が減るようにしていただきたいなと思います。アンケートの量が多くて読むのも大変です。もう少し考えてもらえるとありがたいです。
269	5	母親	児童館の申し込み期間が入学前と他の保護者から聞いたが、そういった情報を小諸市から流してもらいたい。
270	5	母親	少子化問題と騒がれている割に支援金は僅かばかり、年齢が上がるにつれてお金は必要なのに支援金は減額…もう1人が欲しくてもよっぽと生活に余裕のある方だけしか無理なのでは??
271	5	母親	以前住んでいたところは医療費が（子ども）負担0円でした。毎回500円かかると病院を控えてしまう気持ちがあります。
272	5	母親	教育や子育てそのものへの支援だけでなく、子供が安全に暮らせるようスクールゾーンや駐車場などの見直しも定期的にしてほしいです。子供事業に関する部署間でも意見交換してほしいです。
273	5	母親	幼稚園によって預かりの時間が異なるので、できるだけ合わせてほしい。土曜も預かり保育をしてほしい。
274	5	母親	放課後児童クラブが有料のため、無料で使える児童館のある地域との教育費格差が同じ市内なのに不公平だと感じる。17時まで無料にしてほしい。それ以降も月額ではなく利用時間で利用料を決めてほしい。また、コモロッジは年少以上小学生未満の4～6歳の子どもが利用しにくい（職員に通園児は来るなどと言われたことがある）冬場の公園が利用しにくい時期は緩和してほしい。
275	5	母親	小学校の児童館の利用が4年生からは家で入れる子はいってほしいってのは困ります。まだ一人で家にいさせるのは心配な歳なので制限しないでほしいです。
276	5	母親	小諸市では統合することになるが、少人数のクラス編成にしてほしい。現在の小学校の中には古い設備の学校も多いため、トイレの臭いなどが気になる。また、トイレ掃除は子どもにやらせるのではなく、業者を入れて欲しい。小学生の子どもから便器を雑巾で拭いていると聞いて衛生面が気になった。子どもたちは教室と廊下の掃除で十分ではないか？
277	5	母親	下の子が次に通う東小学校のトイレがかなり臭くて汚いと言われます。そこを何とかして欲しいです。
278	5	母親	発達支援がとても遅れている。放課後の学校施設を利用しての習い事の間を提供してもらえると保護者が習い事の送迎の手間もなく仕事と育児、子供の教育も充実できると思う。
279	5	母親	子供を安心して預けられる現場の保育士がここ数年で何人も退職しているのはご存知ですよね？もっと保育士に対しての対応は出来ないものでしょうか？定年延長で働いてくださる保育士もいらっしゃると思いますが、外見で母親を父親と間違える、朝の伝言を伝えて貰えないそんな方に預けるのは正直不安でしかありません。早急に対応して頂きたいです。
280	5	母親	3歳から無償化の恩恵を受けていた分、未満児で預けたときの保育料が高く、負担が大きかったです。
281	5	母親	保育士の数が少ない。保育士の給料をあげてほしい。去年もいったが意見をいっても意味がないなどおもってしまう。子供を育てるのにはなかなか大変な時代だと思う。もっと子供がほしかったが、厳しい。産後の鬱等で悩んでいる人は多いと思う。ベビーシッター制度の紹介支援など、母親等子育て世代の支援をしてほしい。

282	5	父親	教育のため体験型のイベントを数多く企画してほしい、（有料で）
283	5	父親	今後、児童館等の利用を考えていても、自宅から遠いこと、仕事が終わりと、迎えに行くことを考えると、祖母、祖父に自宅にいてもらい（仕事をやめてもらう）自宅で過ごしてもらったほうが、子供や私の睡眠時間、等を考えると、利用が逆に負担になる。小諸市にプールがないため、子どもをプールに連れていくのに困っている。
284	5	父親	よろしくお願いします。
285	5	父親	温暖化影響もあり、夏に子供が外で遊べる環境ではなくなってきたと思う。屋内で遊べる施設があると嬉しい。
286	5	父親	多くの習い事体験の機会が欲しい 中学、高校の体験の機会が欲しい 子どもの将来について親の関心度によらず、多くの体験をしてこどもの好奇心、向上心を育める機会、可能性を増やして欲しい
287	5	父親	共働き家庭が増える中、小学校の放課後預け先環境の充実を希望します。
288	6	母親	今年度、上の子（小学生）のPTA役員（地区）が回ってきて、某役を引き受けましたが、正直、家庭や本業に支障が出るレベルの大変さでした。役員同士の会合やLINEでのやり取りも、揚げ足の取り合い、デスゲーム並みの過酷さ。“子供の為”との事ですが会議やLINE打ちこみ（←1文字ちがうだけで大炎上するので細心の注意が必要。メンバーに男性はおらず女のドロドロの社会）に時間をかなり取られ、常にイライラ、動悸等に苦しんでおります。本気で前向きに“PTA退会”を考えております。PTA解散してほしいです。
289	6	母親	長期休暇中の保育園の利用が不便。お盆の時や正月はお弁当持参で普段と違う園に預けなければならなくて、保護者の負担も大きく、子供の慣れない場所でストレスも多いと思います。医療従事者（特に病院や施設勤務）は、長期休暇はほとんどとれません。もっと長期休暇中の保育園の利用を気軽にできるように考えていただきたいと思います。
290	6	母親	子供がいる家の負担を減らすために子育て応援チケットをたくさん支給してほしい。前にも支給されたけど全然足りなかったのもう少し使える額を増やしてほしい。学校や保育園で必要な物を買うとき値段が高いからもう少し安くしてほしい。通学路に大人がいてくれると安心して小学校に通わせることができる。
291	6	母親	身内や親類等の知り合いがいない中での引っ越しで不安もあったが、ご近所の方や幼稚園の方々等、熱心に支援してくださる方がいて大変心強かった。ただ、小諸市としての対応、支援には心細く感じる面もあった。具体的な事で言うとうと保育園を探していた時、子どもに医療的ケアが必要だったため、こども家庭支援課に何度か相談に行ったが、「前例がない」「勉強しておきます」と、それきりで結局自分たちで各園に相談し（諸々の事情から）幼稚園に通えることになった。また小学校の事で別の課に相談に行った際も保育園の事を相談しましたが、「課が違うので…」と話が終わってしまった。同じ市役所なのだから（当時は同じフロア、隣の課にも関わらず…）もう少し連携がとれても良いのではないかと思った。医療的ケアが必要な子は、人数も圧倒的に少ないと思うが、こうしたこどもたちも他の子どもたちと同様に「こどもの権利」が守られるよう、保護者や各園等だけに任せるのではなく、市としての支援、環境づくりに力を入れてほしいと切に願います。
292	6	母親	子育ての環境や支援に関して知らないこと、わからないことが多すぎるので、子育てしている人にもっとわかりやすく情報提供してもらいたい。
293	6	母親	子どもが遊ぶ場を増やしていただきたい、噴水公園やプールなどが大好きなのであればありがたいです。
294	6	母親	子供の塾などの学校以外の教育にかかる費用の援助制度があると嬉しい。やらせてあげたいけど費用が高く躊躇ってしまう。
295	6	母親	少子化の影響からか手軽な公園が少ないと思いました。子育て支援センターのような施設も一箇所です。車がなくて利用できない施設が多い印象です。坂が多い地形なのと歴史の残る街並みからか交通整備が必要とも感じます。
296	6	母親	児童館の4年生以上は延長保育なしは辞めていただきたいです。うちは夏休みなどの長期の休みに児童館が遠い為、出勤の際の8時過ぎに送って行きます。朝の延長を利用せざるをえません。4年生以上でも留守番は出来るだけさせたくないです。やはりまだまだ子供ですので、保護者が必要だと思います。
297	6	母親	長期休みに学童保育が近場にないため佐久市まで行っている。何ヶ所か増えると利用しやすい。
298	6	父親	子供のあそび場が少ないと思います。雪の日、雨の日、猛暑の日など室内のあそび場がもっと充実したら助かります。コモロッジに以前行った際、幼稚園や保育園など通っている子はダメと言われてしまい、変えた方がいいと思います。今は給食費や医療費も子どもはかからない地域もある中で小諸市はあるので少し検討してほしいです。

299	6	父親	このゴミのような質問の数々にきちんと答えた分の見返りが今後の小諸市の子育て事業であるとは思えない。いかにお役所仕事か、小諸市の子育てに対する意識の低さがこの質問に現れている。役所の机の上でヘラヘラ考えたであろうゴミのような内容の数々は、日頃仕事と子育てに終わっている一般市民がいちいち回答するのに難儀する多さであり、その大半はわざわざこちらが答えるまでもなく、各事業所、教育施設のデータを集めれば分かることであり、子育てに力を入れるという大義名分を振り回して自分達が仕事しました感を出したいためなだけで、ただただ子育て世代の負担を増やすゴミみたいなアンケート。
300	6	父親	PTA活動、地区役員、保育園役員、必要な事だとは理解しますが それらをこなす為に 子供を家に独りにする事になると 本末転倒な気がします。
301	6	父親	子供の医療費補助を充実させて欲しい
302	6	父親	アンケート調査や社会政策の専門家です。非常に熱意のこもったアンケートで、質問項目もよく練られていると思いますが、いかんせんちょっと長すぎるように感じました。善意というか、できる限り回答したいと思った私ですら終わらない質問項目があまりに辛く、後半は正直適当に回答してしまった部分があります。質問項目の精査はした方がよいかもしれません。

小諸市 子育てに関する調査（小学生から高校生等の保護者）

Q34 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

no	子どもの年齢	回答者	回答内容
1	6	母親	ひとり親です。なりたくてなったわけではありません。でも、まわりの子は、たくさん習い事をしています。子どもも、やりたいと言います。でも、お金が3人の習い事にまわせません。子どもにがまんさせている事がとてもツライです。好きな事をやらせて夢をひろげてあげたいけど、できずにいて、ツライ。心の中で、いつもごめんね。と思ってます。そして自分をせめます。こんな人生にしてしまったこと。ひとり親に、もっと手厚い支援が必要です。自分しかいないのに、仕事を休むことが多く。有給もたりず。手取りはへって、でも、生きていかなきゃいけない。私が子供を守るために。
2	6	母親	放課後デイサービスが少ないです。困っています。
3	6	母親	現在、特に不満に思うことはないです。子育てに協力して頂きありがたいと思っています。
4	6	母親	片親は変わらないのに収入によってうけられない支援が多い。なぜ？
5	6	母親	物価高となり家計圧迫によることから、低所得等関係なく、子供のいる家には給付金などのなんらかの支援がほしい。
6	6	母親	子育て支援をもっと充実して欲しい。子供3人目の誕生祝い・給食の無償化・子育て世帯の免税 etc 子供達と気軽に行ける市民プールを作って欲しい(南城プールの復活) バスの充実→せめて佐久平駅までのアクセス(あいのりくんは小諸市内だけの為利用しにくい)
7	6	母親	市の子育て支援事業をほぼ知らない。市民が知らないのなら無いのと同じ。子育て支援なんて名ばかりでやる気がないのだろうと何につけても感じます。就学時健診も、長時間並ばせて診察は数秒、市職員も子ども達を物でも扱うような対応ですごく不愉快だった。校医も正しい知識が無くて、信頼できない。放置子など道路で遅くまで遊んでいる子、非常識な家庭、田舎独特の差別なども多い。とにかく子育てしづらい場所。教育の選択肢もないので数年内に引っ越したい。このアンケートも選択肢がおかしいところがいくつもあって、とても答えづらかった
8	6	母親	1人親は、収入面だけでなく負担が多いので、ケアがあると助かります。キャンプなどの体験もなかなか出来ないの、気軽に参加できる体験企画が色々あると嬉しいです。
9	6	父親	児童館の受け入れをもう少し緩和してほしい(予約忘れ、急用等)
10	6	父親	PTAの役員、自治体役員（御影区）の負担、行事を減らして欲しい。仕事で忙しいので休日を潰されるのは困ります。お金は出しますので、もっと大胆な外注化などを検討してください。また、市も区の自治に任せずにもっと介入してください。今時、区費やPTA会費を現金で個別訪問で集めるなど効率が悪すぎます。上田市は既にpaypay払いなどしています。リーダーシップをとってください。お願いします。
11	6	父親	・社会教育施設に偏りがある。美術館は2館あるが、いわゆる歴史博物館は休館？状態。社会教育、歴史教育、生涯学習etc.の観点から、歴史ある小諸の社会科教育の充実を期待しています。エコミュージアムのような、まちまるごと博物館のような発想は、観光・まちづくりとも親和性があるのではないのでしょうか？子どもにこそ、地域の歴史を、体験的、体系的に学んでもらいたい。 ・教育環境の充実および子育て支援は、学校だけでなく、既存施設の有効活用、ボランティアの有効活用、クラウドファンディングのような募金の有効活用など、モノ・ヒト・カネがないのではなく、方法はあると思いますので、成果のあがっている自治体のやり方を取り入れて欲しいと思います。
12	7	母親	小諸新校が令和10年度からスタート、それに合わせて芦原中、小諸新校の近くに今の〃こもロッジ〃を移転して頂けるとありがたいです、もしくは新施設を建設して頂きたい。
13	7	母親	給食費の無償化を希望いたします。

14	7	母親	小諸市で子育てができる事にとっても感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。
15	7	母親	給食費の無償化市民プール廃止によりなくなってしまった水遊び場の新たな設置大型遊具公園屋内公園の設置(利用料も市民向けに割引などあれば尚良)児童館の先生の質の向上
16	7	母親	こもロッジを利用させていただいています。先生が多く、施設も良いので安心して預けられます。学校にかかる費用が他の県と比べて多くかかるような気がします。(千葉県から引越してきました)体操服が冬もあったり、給食着、水着、サンダルなど。何でもよければ安くそろえられるのにと感じたりしました。学校ではPTA活動が盛んですね。みなさん積極的に協力的なところが、印象的です。地域のお祭りも、子供たち楽しみにしています。周りの大人が協力的なところが素晴らしいと思います。
17	7	母親	児童館、学童の長期休み利用時、宅配弁当など昼食の提供があるとありがたいです。特に夏場は食中毒なども心配なので。
18	7	母親	少人数クラスへの対応までに時間がかかるので暫定措置などあるといいなと思います
19	7	母親	学校と自宅の距離があるため、小、中学校のスクールバスを検討してほしい。学校の方針で帰宅時間などが早くなった点は冬場など日が短い時期は助かるが、登下校時に時間がかかると、不審者が多いことから安全対策としてもあると良いなと思います。
20	7	母親	児童クラブを今年から利用していますが、利用料の支払いが平日の金融機関や市役所でしか支払えないのが非常に不便です。自動引落しにしてもらいたい。小諸市の子育て支援は母親がパートであることが前提な気がします。フルタイムで働く母親を基準に諸々の支援や施策を考えてもらいたいです。
21	7	母親	いつも子供達への教育・安全にご尽力いただき、ありがとうございます。夏休み中に参加できる子供のイベント(キッズフェスタ等)があり、子供も親もわくわく気分でした。我が家は落選しましたが、次回は参加費有料で構いませんので是非開催していただきたいです。親の手を離れての体験、そこから子供の成長をする機会を与えられたら、と思います。
22	7	母親	多動症などグレーゾーンの子供の、援助の先生を増やして欲しいです。
23	7	母親	一年のときに担任の先生の他に支援の先生がいてよかった。いつもじゃなくてもいいので、学年があがってもたまに来て欲しい
24	7	父親	小中高の学生が登下校で使えるバスがない。小諸市は自転車が使えない地域もあるので、解消してあげたい。軽井沢町では、朝も夕も巡回バスが稼働していて、保護者の負担と心配が少ない。
25	7	父親	通学路の安全確保とヘルメット着用廃止(特に夏場は健康を害するおそれがある)
26	8	母親	児童館、土日や長期休みも無料で利用できるようにしてほしい。朝8時くらいから無料にほしい。真夏のヘルメット通学は熱中症が心配。ランドセルも暑く、真っ赤な顔をして帰ってくる。
27	8	母親	・不登校・行きしぶり児童についての相談場所などが分かりにくい。ハードルが高くて相談しにくい(完全不登校ではないと相談できないイメージ)。 ・児童館の利用人数が多いためか、夏休み中はとても暑い。熱中症が心配。夏休み中はお弁当持参ではなく児童館で提供してほしい(希望性、利用料金の支払いあり)。暑いので衛生面で心配なため。
28	8	母親	支援されている実感はない。片親でも補助も控除も口々に受けられない、PTAなどで生活が本当に回らない、そういう所を助けてはくれないのか。
29	8	母親	今年に入り子供が不登校ぎみで、教室にはあまり行かれず、校長室や支援教室に行ったり、放課後登校したりしています。日中、親が仕事の際は祖父母が見てくれています。祖父母の体調の悪い日があったらどうしようと悩んでいます。こもロッジは、子供本人が望む時に利用しますが、状況が状況なので「いつ来ても良いよ!」と言っていたいたのですが、申込してないし行きづらいし(ほぼ行っていないので翌月の申込ができていないため。)予約しなくても「今日行かれる」「今日預けられる」場所があると良いのに…。と思います。

30	8	母親	・給食の無償化 ・長期休みの時に講習を学校で行ってほしい。以前塾に通わせたが月に8万ほどかかり家庭の負担を感じたので。
31	8	母親	通学路の整備をしっかりと行って欲しい
32	8	母親	話を聞いていただく機会を設けていただき、ありがたかったです。 と、ともにちょっと大変でした。
33	8	母親	正規の保育士を増やしてほしい。公立の幼稚園がほしい。ひとクラスの人数を減らしてほしい。理想は25人以下くらい。副担任を各学級につけるなど、一つのクラスをみる教師の数を増やしてほしい。学校のトイレを改修してほしい。四ツ谷の交差点を三岡駅方面に曲がったところのあたりが歩道がなく自転車危ないので事故が起こる前に考えてほしい。 市内小学校の自校給食はとても美味しくありがたいのでこのまま続けてほしい。
34	8	母親	児童館の利用時間が短い 利用料が他施設や他地方自治体と比較すると高めに設定されている
35	8	父親	意見を書いても何もかわらないので書いてもしかたない。
36	8	父親	子供に対する教育、生活をしていく中での補助金等の案内を分かるように示してほしい。
37	8	父親	高齢者への政策が多く、子育て世代に対して支援というイメージは全くない、移住促進は素晴らしいと思うが、子供たちが将来地元に戻りたくなる様な事をしなければ、高齢化が進むだけで、先細りしかない、大人が面倒くさがらず、子供達の為にと考えてほしい、大人が楽をすれば、シワ寄せは全て子供(弱い立場)になすりつけられているだけ
38	8	父親	親が、入院になった場合、病院から通学できる施設。入院しながら子供と一緒に居る事のできる病院。
39	9	母親	自分の子どもが保育園の頃も、今もそうだと思うが、保育士が不足しているように思う。先生たちにはよくしていただいてとても感謝しているがもっと働きやすくなるように待遇改善、環境改善が行われるべきだと思う。日中子どもを見てくださる大切な存在です。どうぞよろしくお願いいたします。
40	9	母親	様々な機関でのサポート体制、手当てや医療費の補助など、様々な支援が広がってきていると思います。小学校、中学校と、そのサポート体制が(市の機関の)どのように連携できているのか、保護者からはわかりにくいです。市の保育園と比べると、どうしても市外の先生も多いので仕方ないと思いますが、保育園の先生方にはとても親身になっていただいた印象が強いです。
41	9	母親	授業でのプール事故が毎年ニュースで耳にするので、心配です。ただ、授業で楽しく沢山学んで欲しいので、回数も今以上に増えたらいいな、という希望もあります。
42	9	母親	養育費をほとんどもらえていません。児童扶養手当も全額停止となり、社会からも見離されたような気持ちになります。一生懸命働いても、所得制限で一円も補助が出ないのは本当に悲しいです。子供との時間も少なくひとり親世帯へのサポートがもう少し充実されたら良いなと思います。
43	9	母親	子供の学用品が夜遅くても手に入るお店が欲しい。
44	9	母親	東中学校のシステム、教師陣に不満がある。 第三者機関を入れるとか、再教育が必要です。 芦原中学校とも格差を感じる。不登校生徒に対してオンライン授業をしてほしい。
45	9	母親	共働き 核家族、共働き家庭がこんなに増えているのに、児童館の預かり時間が通常朝9:30からは遅すぎる。就労している家庭は、延長を使わないと預けられない。せめて、学校と同じ時間の8:30からにすべき。 高学年になると、留守番できる子はなるべく自宅で留守番させるように連絡があるが、子供1人での日中留守番は長すぎる。日本に法律はないが、海外では子供の留守番は違法とする法律もあるのだから、市からそういった連絡があるのはどうなのかと思う。子供の成長部分での留守番との線引は難しいと思うが。 利用人数が多くて大変なのはわかるが、祖父母も仕事をしており、親もなるべくやりくりした上で児童館利用している。もっと、就労しながら子育てしやすい支援を考えてほしい。
46	9	母親	医療費の無料化を早く進めていただきたい。 できれば給食費の無償化も。

47	9	父親	子育て世代が学校および地域の活動にて、役割を負担することが多い。特に必要のない組織や活動が、昔からやっているからという理由で続けられており、子供との時間を割かれている。
48	10	母親	南城公園のプールを再開して欲しい
49	10	母親	ひとり親家庭です。収入があるため一切の援助を受けていません。世間では「母子だからお金をもらっている」と言われることに腹が立ちます。広報などの記載を工夫してほしい。また子育て世帯全てに恩恵があるのは一番は給食費の無償化です。3人いたら月15,000円、他市町村に住んでいたら年180,000円貯金(子どもの大学費用)に回せると思うとやるせなくなります。
50	10	母親	経済状況に関わらず、子供に平等な教育環境が与えられる社会になると良いと思います。
51	10	母親	学校での給食がおいしく、子供はとても喜んでいるので、自校給食を続けていって欲しいです、
52	10	母親	発達障害、自閉、ADHD、LDがあり支援級の利用、放デイの利用していますが、10才になり不登校、短時間の登校つきそいで登校となり、放課後まで学校にいないので放デイが使いません。社協の学びあえるも、福祉サービスを優先して使って欲しいとのことで利用できません。上の兄達2人も不登校、つきそい登校、教育センターの送迎と大変で、ひとり親なのでフルで働きたいのですが、子供の対応も多く働けません。放デイも近くの地域より少なく思います。
53	10	母親	高校生になると子ども手当がなくなり、高校卒業してしまうと医療費500円の補助がなくなる。専門学生の子供がいるため働いていなく医療費の補助がなくなり、かなりきつい。他の家庭も同じような状況だと思う。専門学生や大学生に対しても補助を拡充してほしい。
54	10	母親	行政を頼りたいと思えない。行動が遅い。校長先生の事なかれ主義がすぎて、学校に相談したくもない。自分で動いて解決した方が早い。授業参観もリモートで観られる環境を作ればいいのに、仕事を休み、わざわざ学校に行く意味がわからない。その半日の休みを取るだけで生活が変わる。その考えを持ってない人が行政を動かしているんだと思うと絶望する。全てが田舎の考え。説明会等リモートや、リモートの録画を使えばいいと思う。期間限定配信など、今の時代出来ない事の方が少ないのに、なぜ昔のままを継承するのかが分からない。
55	10	母親	親の意見もそれぞれになり、関わってほしくない人もいますので難しい。ママ友という言葉が、子供を置き去りにしている気がして重荷に感じる。まだ子供が小さい時、祖父母世代から子供がかわいそうと言われた時は辛かった。スーパーで冬に靴下を履かせていなかった時、アレルギーで気を使っていた時に食べさせてもらえなくてかわいそうなど。世代間の常識のギャップで、身内でも預かるのが嫌になったことがあるので、これから子育てをする人の為にも、わかってくれる親世代が必要だと思う
56	10	父親	先生のADHDなどの理解力がもっとほしい
57	10	父親	設備や場所が整っていない教育環境が悪い場所だと思う
58	11	母親	小学生のヘルメットは不要だと思います。夏は暑く、冬は帽子や耳あてが使えず寒そうです。
59	11	母親	我が子はもちろんですが、子どもは未来を担う大切な宝物です、それにも関わらず、子どもへの虐待があり続ける現実には大変胸が痛みます。世界中の子ども達の笑顔があふれる環境である事を心から願っております。
60	11	母親	小諸市も、学校もとても親身になって相談にのってくれます、支援級を利用しているのですが、体制や先生等にとっても感謝しています。親のことも子どもの事と同じように考えてくれ、とても信頼しています。手当金等もとても助かっています。
61	11	母親	放課後等デイサービスの充実
62	11	母親	学校の建物が親が通っていた頃(もしくはそれ以前)からの物なので雨もりがしたり、所々痛んできています。建てかえは難しくても、せめて早めの修繕をお願いしたいと思います。

63	11	母親	教育支援センターを利用していた時に、同じく不登校の子を持つ親御さんから聞いたお話ですが、支援センターの利用時間は9:00~15:00なので利用したいけれども、仕事をしていると、その時間に間に合う送迎ができないとの事でした。共働きや一人親家庭も多いのと、学区外から通所には送迎が必須なので長時間でも対応してもらえると有難いと思いました。
64	11	母親	ヤングケアラーの子供達を少しでも早く助けてあげて下さい。
65	11	母親	医療費等は満18歳をむかえた最初の3月にすべてがもらえなくなります。大学や専門学校、大学院まで進学する子どもが増えているので、医療費の負担が意外と大きいです。
66	11	母親	医療費無料化、授業料無料化など、子育てにかかるお金を支援してもらいたい。一番は大学費です。
67	11	母親	ひとり親なので認識に偏りがあるかもしれませんが、ある程度、子等が自律していれば自助努力で何とか生活出来ます。しかしひとりで、全てを負担する事は重荷でもあり、油断すると崩れそうになる事も多々あります。相談する気持の余裕も無いのが正直な気持ちです。本当に追い詰められると周囲に相談する余裕も無くなるので、行政がどう拾い上げるのかは保健師の活動や気付き、ケースによって介入の動機作りが必要と考えます。助けを求める事の出来ない方に支援が届けば良いと願っています。
68	11	父親	ヘルメット着用に不満、夏は帽子を希望、
69	11	父親	医療ケアが必要な子供がいるが、受け入れてくれる保育園がなく、上田まで親が送って通うことになった。
70	11	父親	佐久市は義務教育者に対し通学は無料化しているのに、小諸市は実費となっている。給食はもちろん学費の無償化など考えて頂きたい。
71	11	父親	児童手当等の補助金の充実
72	12	母親	小諸市は定住者の増加を狙って政策しているはずなのに、それに伴っての子育て環境の改善が全くされていない。支援事業計画で具体的にどんな施策がされているのか、やろうとしているのか、結果が出ているのか全く見えてこない。他市のアイディアを借りてでも、しっかり行った方が良いと思う。小諸でこのまま子育てし続けたいと思えません。
73	12	母親	歩道、外灯などの点検整備。一ツ谷付近の東中へ通う林のような道に外灯が少なく心配です。倒れそうな木もあるので伐採など可能であればしてほしい。
74	12	母親	内容が充実していても、知る術がないと意味がない。地域の特性上、高齢者についての情報や支援は耳にするが、子育てや教育に関するものはあまり入ってこない。フルタイム、共働き家庭がふえる中で仲介役は必須だと感じる。そういった部分を充実させてほしい。
75	12	母親	母子世帯のため、子育てと仕事の両立が大変です。祖父母も同居していますが頼りすぎないようにしています。経済的にも負担は大きく、自分の事は後回しです。もっとゆとりを持って子育てできる環境がほしいです。子供達に色々な経験をさせてあげたいけれど、難しいです。
76	12	母親	長期休みの時などのイベントをもっと知りたいし増やしてほしい。同時に学習面での塾みたいなものも開催してほしい。
77	12	母親	小諸市に子供の頃から住んでいますが、小諸市がここまで住みにくいと子供を持つてはじめて分かることばかりです。コロナでも支援金すら出してもらえない!!! 家族でかかって収入がなく困っても何もしてくれない。母子家庭には手厚いののに、夫婦で働いてもギリギリの所を少しでもこえていると、何もしてもらえない!!! 子供3人一生懸命育てながら、毎日をどうにか生きる。仕事を変え、少しでも収入を増やす努力をし、やっと安定するのをつかのま、子供の進学で学費困難。どこまで頑張れば良いのか?! 不安しかありません。
78	12	母親	もう手のかかる時期は終わったので、今更何も期待していない。
79	12	母親	少子化が益々進み、それに伴い子育て分野へのニーズは高まるばかりですが、他市町村との競争ではなく『小諸市で出来る事』をやって頂ければいいと思います。日々子どもたちの為に尽力頂き、本当に感謝しております。
80	12	母親	中高生まで通える学校以外の居場所の提供や不登校支援を充実させてほしいです。
81	12	母親	部活の地域移行化について。吹奏楽部出身ですが、吹奏楽は地域移行化したら教えてくれる人がなくてレベルが下がってしまうのではないかと不安です。部活によっては地域移行化しないことも検討してほしいです。

82	12	母親	各家庭の中での子供の様子はわからないことも多々あるが、ニュースで取り上げられるような悲惨な事件になってしまう前に、助けが必要な子供はもちろん、親も助けを求められる環境が充実して欲しい。また、少しでも様子がおかしいと周囲が気づいた時に、気軽に様子を伝え、該当の家庭の状況を確認してもらえるような窓口を周知して欲しい。様子がおかしいと思っても窓口へ申し出るのは気が引けてしまうが、手遅れになってからでは遅いので、そうなる前に【些細な事でもOK】な窓口があると周囲からでも申し出し易い。
83	12	父親	自分の周囲では、学校に行けない（不登校）子が結構多いのでそういった子供へのサポートが充実してくれたらと思います。
84	12	父親	観光客向けの事業が多い気がする、（駅前開発とか建物等）ので、もっと小諸市民を想ったことをしてほしい。小諸テラスのような中・高生が集える施設をつくってほしいです。小さくていつも満席で使えないことが多いと子供達が言っていました。
85	12	父親	共働き家庭が増えており、放課後の児童の行動が把握できていないケースがある。また不適切な場所で過ごしている児童が多くいるように感じる。このような環境の改善のために支援・指導策を考えて欲しい。
86	12	父親	良い情報は(子育てなど)速やかに告知して欲しい。
87	12	父親	学校へのエアコン(全教室)設置等、学校の環境整備・給食無償・学校の先生方が小諸市の学校に来たいと思うような学校作りをして→先生方給食無料とか…最新パソコン学校用携帯貸与とか。やる気のある素晴らしい先生が集まるようになれば、子どもにも親にも良い。
88	13	母親	子ども手当は大きくなるにつれてお金がかかるので少→多にしてほしい。小さい頃は少なくても良い。段々増やしてほしい。
89	13	母親	通学の送迎が大変なので、学校のバスなど送迎手段があると良いなと思います。
90	13	母親	中学生でも気楽に行ける施設が欲しい。
91	13	母親	不登校支援についてフリースクールなど沢山の居場所に対して援助してほしい。また連携をとってほしい
92	13	母親	・給食費の無償化 ・塾、習い事にあいのりくんなどで送迎をしてもらいたい ・宿題にタブレットを使用する事をやめてほしい。テストも受検もすべて筆記なので、書く力が無くなり、本人が苦労している。
93	13	母親	自校給食やALTが英語圏のネイティブなのは、とても良いと思う。音楽の街を謳っているのであれば、OMFのオペラ鑑賞など、学びの幅を広げる活動をもっと取り入れてほしいと思う。
94	13	母親	「English summer Camp」について。30名募集して50名の応募がきて、「その場合は中2・中3を優先します。」と最初から記載してあれば納得がいきますが、「抽選します、→やっぱり中2・中3優先で！」では応募した中1に対して失礼ではないかと思いました。
95	13	母親	ひとり親の医療費を窓口負担500円にしてほしい。受たい治療があるが3割負担でも1万円を超えるため一旦支払う事が難しく治療を受けられない。近隣だと軽井沢町が親も500円だと知りとても羨ましい。切実にご検討お願いいたします。また、ひとり親の子供が塾に通う際の補助があると嬉しい。塾に行かずに、その時点で将来の道が限られてしまっていると思う。お願いします。
96	13	母親	子育てや生活面などの支援や給付金などを切実に増やしてほしいです。母子家庭など、ひとり親は特に生活が厳しいです。養育費を貰えてない家庭が本当に多いと思います。日本の法律などで養育費を確実に払う法律義務が出来る事を願っています。物価高の今の時代をどう乗り越えていけばいいのか本当に悩みです。市での給付金などを増やしてもらいたいです。生きにくい今の時代に明るい未来が欲しいです。
97	13	母親	感染症、気候、社会状況はどんどん変わるので流動的に素早く対応をしていただきたいです。少数でも声が上がったら聞いて検討をしていただけることを望みます。（真夏のヘルメット対策、制服着用の義務？、部活指導など）
98	13	母親	バスの乗り入れが少ない。あいのりくんだと遅い時間に利用できない
99	13	母親	教育支援センターの他にも不登校の子が過ごせる場所があると良い

100	13	父親	お金がとにかくかかる、支援金の支給
101	14	母親	今だに学校給食の無償化を出来ていないことで子育てしやすいとは思えないと思っています。子供が自由に教育を受けられるようになればいいと思っています。
102	14	母親	給食費の無料、通学に関わる支援、防犯対策
103	14	母親	子供が未来の仕事を想像できるような体験をさせて欲しい。お金のことなど学んでほしい
104	14	母親	学びたい子が安心して学べる環境
105	14	母親	教育費がかかりすぎる。高校、大学など児童手当は高校卒業程度までであると良いの にと思う。中学校も夏休みの補修などがあると助かる。(外部講師でも)奨学金の充 実を望む少額でも人数増など(狭き門すぎる)
106	14	母親	学習障害を持っている子供がいるんですが、学校の先生によって、全く理解がない かたがいる。子供を預かる立場の先生たちに、もっと障害の知識を深めて欲しいで す。
107	14	母親	長期休暇中のクラブや学童で配食をしてほしい
108	14	父親	学校で聞いたことを真に受けてこまります。
109	14	父親	子供の送迎が大変。小学校まではバスがあるが、中高校生は各家庭で何とかしなけ ればならない。暑い中、長い距離を歩いて帰る子供を見かける。小学校だけではなく 中高生の事も考えた交通の便をつくってもらいたい
110	15	母親	現況で満足せず、子供に関してはお金がかからないようにしていただきたい。給食 費を払うのも大変な思いをした事があります。保育料を払えず市職員に責められ気 持ちが落ち込んだ時もあります20年前の事です
111	15	母親	駅周辺に遊戯施設が何もなく若い人はどんどん離れていくと思います、景観も大事 ですが、このままだと活気がない観光客相手だけの町。高校生も学校帰りに寄れる 場所がなく小諸は何もないね、とよく言っています。カラオケも映画館も決して難 所ではありません。
112	15	母親	現在あまり登校できない状況で、そういう状況だとやはり勉強の遅れは出てきてし まうので将来的には進学先(通信制高校)で取り戻したいと考えているが、子供自 身も今前進しようとしている時期なのでそのタイミングにあった支援を学校と行政 と連携して後押し支援してほしい。
113	15	母親	中学校の校則の見直しをして欲しい。寒くても羽織ものの禁止、真夏日でも制服で歩 いて帰宅させる。生活指導の先生は何時間も子供を立たせたまま、自分は椅子に 座って説教して貧血で倒れさせる。完全に昭和。
114	15	母親	学校での購買活動を進めてほしい (近隣で文具買える店が少ないため)
115	15	父親	通学における、電車賃の補助があってほしい
116	15	父親	長野県全体に言えるが病院が少ない。通院距離が長いし経路の道路整備に問題有り の箇所多々ある。住居が多数存在する方から市の中心(病院等)へ向かう道を一時停 止に変更して通過道路側を優先する等論外!!
117	16	母親	ひとり親世帯など、年数回、色々な情報を市から発信してほしいと思います。進学 相談も、子どもの年齢に合わせて、情報が市より届くと、私としては安心ですが。
118	16	母親	支援するということをいわれますが、必要な支援(ほしい支援)はしてくれない。国 も市も。
119	16	母親	「子どもが帰ってきたいまち小諸」に向けて今、頑張っていると思うので、これか らも力を入れて取り組んで頂きたいと思います。

120	16	母親	近隣の市町村で給食費無償としている自治体はいくつかあるが、安易に無償化するべきではないと考えます。自分の子どもが高校生だから書く訳ではなく、恩恵を受ける対象者が限られることや経済的な対策は別の方法で対策されているからです。小諸の図書館は親子ともども利用していて、大変きれいで充実している施設でありがたいです。
121	16	母親	今後市内の小学校数校が合併し中学の敷地内に併設再編というところで近くの小学校から子供の声が聞こえなくなるさみしさや長く住み続けた時、自分の子供がここに暮らしていたらと考えると色々不安があります。少子化に対し何か良い対策があるといいなと思います。
122	16	母親	地区で子供に経験させてもらえる、地域行事（みこしやまゆ玉、他）を行ってくださっています。大変ありがたく思います。市より地区への金銭面などの更なる支援を行って頂き、行事を継続していけるような支援をお願い致します。
123	16	母親	期待していない
124	16	母親	親の送迎(通園、通学時の)がかなり負担である。スクールバスや市営バスなどの充実(現状では、部活後の帰宅が、困難です)
125	16	母親	学校への通学時間が、歩くと長いので親の送迎が大変。学生が乗るスクールバスを朝、夕、出してほしい。お金は出しても良いので、バスが必要です。
126	16	母親	もう一番下の子が高校生なので、市に関わることはあまりなくなったが、子供が小中のころは、給食費を市負担にしていただけたら…などいろいろ思いました。今後は、大学進学へ向けて、支援金や補助金等があったらありがたいし、その情報を知りえることが難しいので対象年齢の子がいる家庭へお知らせが欲しい。
127	16	母親	少ない財政の中で努力していただいているのは分かりますが、学校の環境設備（エアコン等）に差が生じているのが気になります。また、保育の現場での人手不足を耳にします。これから子どもたちが増加していくような小諸市を期待しています。
128	16	母親	子供の医療費を高校生まで負担していただき、ありがとうございます。
129	16	父親	学校環境の中でSC・SSWの存在が知られていないし、対応しきれていない、社協ともつながりが無い、アンケート以前にやるべき事を形にするべき。職業として先生に無理させすぎ役所仕事だけの子育て環境を良くするなど言わないでほしい。
130	16	父親	少子化が問題になっております。子供に関して、子育て支援を手厚くして頂きたいと思います。物価、光熱費等が負担が大きいので、手当の方も充実して頂きたいと思います
131	16	父親	18歳まで医療費が500円/月で済むのは大変有り難いです。図書館が明るく学習スペースもあり、また書籍や設備が充実していて有り難いです。
132	16	父親	年寄り優先では小諸で若い人は育ちません
133	17	母親	他県より移住してきましたが、小、中、高校生のマナーの悪さにおどろきました。自転車で4、5列で広がって走る、電車で席をお年寄りにも譲らない、4人席に1人で座る、出入口にたむろする。東京ではこわそうなヤンキーですら老人に席を譲り、席は詰めて座ります。学校も市も何も教育しないのでしょうか
134	17	母親	認可外保育園の子も第3子以降は県で言っているのだから無料にすべき。本当にお金がかかるのは6才～なのに全く市の支援を感じない。先がけてしないので、いつも他の自治体より後
135	17	母親	子育て支援とは親が楽する支援ではないと思う。親と子のコミュニケーションが多くなる、深くなることが子育て支援ではないだろうか。せめて小学生の子をもつ親世代には休暇をとりやすくするなど、国や行政から企業へバックアップしてくれれば母たちも働きやすくなるのでは…
136	17	母親	未来ある子ども達が安心して、思いやりのある大人に育ってくれたらと思います。

137	17	母親	子供が小さかったときは病気もよくしていましたが、頼れる身内もいなかったり、また利用できる支援も使っていないものか、もっと大変な人のためのものではないかと利用を躊躇ったり、申請する時間もとれなかったりと大変でした。だんだんと行政やその他の方々のご尽力のおかげでよくなってるように感じてはおりますが、もっと子育てしやすくなっていくことを期待しております。
138	17	母親	小諸図書館は、広くて清潔感があり、とても良く、利用しやすいです。
139	17	母親	芦原中学区は、家庭環境が複雑な児童生徒が多くおります。また、学力も二極化しており、学校だけでなく関係機関の支援の充実を強く望みます。
140	17	母親	高校生から大学が1番お金かかるのに支援がないこと
141	17	父親	県とは別に市独自の子育て支援、優遇を増やして欲しい
142	17	父親	少子高齢化の影響がすでにできています、人口が増えても移住者が増えても子どもの数はこのままだと増えない。大勢子どもがいる家庭に、水道料金無料にするとか援護体制をしなければいずれ小諸市も消滅都市に仲間入りするのではないのでしょうか？
143	17	父親	子供が不登校にならない仕組み作り。不登校になってしまった子供への支援
144	18	母親	高齢者に対しては支援しているが、そうではないと思い感じる。これからの世を背負っていく若者に対しても色々な事を学んだり、得る場を作って欲しい。
145	18	母親	自分が小さいお子さんの母親と接する仕事をしています。母親が育休明けで、0～1歳で保育園に就園することが多いが、乳児期の育児を困難と感じ育児を他人にお願いしたい、と考えてる母親がたくさんいると感じています。
146	18	父親	少子化と言っているが子供2人が大学に行ったら親は生活出来ない位費用がかかる。行政を動かしている人は考えているのかと思う
147	無回答	母親	移住者に補助金とか出すのではなく、市独自の子ども手当や給食費無料など、子育てや介護などに関わる費用の補助を手厚くしてほしい
148	無回答	父親	部活や課外活動を先生から外部に移行し、先生はより生徒に目を向ける時間を増やしてもらいたいです。
149	無回答	父親	他の市町村に比較し、小諸市の子育て支援が充実しているとは言えない。子がいる世帯への要望等を聞き取り入れてほしい。時代にあったことを進めてください。
150	無回答	無回答	家庭の経済的な格差が子供達の学力の格差とならないような取り組みを充実してもらいたい。